

御 経 塚 遺 跡 IV

兼 補遺編

2009

石川県野々市町教育委員会

御 経 塚 遺 跡 IV

兼 補遺編

2009

石川県野々市町教育委員会

例　　言

- 1 本書は、御経塚遺跡（第18・23次）埋蔵文化財発掘調査報告書および補遺編である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県石川郡野々市町御経塚1・2・4・5丁目地内であるが、調査対象地は1丁目地内で、御経塚遺跡デト地区にあたる。
- 3 調査原因は、野々市町埋蔵文化財収蔵庫建設事業（第18次）、野々市町ふるさと歴史館建設事業（第23次）にともなうもので、現住所は御経塚1丁目182番地である。
- 4 調査は、野々市町教育委員会が実施し、調査にかかる費用は野々市町が負担した。
- 5 現地調査は、第18次調査が昭和57年4月～6月、第23次調査は平成3年4月～6月にかけて実施した。なお、本書において第18次調査は41区、第23次調査は31区として報告しており、報告書『御経塚Ⅲ』のデト地区における調査区名称と対応するものである。

調査面積・期間・担当者は下記のとおりである。

第18次調査	期　間	昭和57年4月30日～6月3日
	面　積	295m ²
	担当者	吉田　淳（野々市町教育委員会文化課）
第23次調査	期　間	平成3年4月15日～6月10日
	面　積	378m ²
	担当者	吉田　淳（野々市町教育委員会文化課）

- 6 出土品整理は昭和61・平成18・19年度に野々市町教育委員会が実施した。
- 7 本書の執筆・編集は、平成20～21年度にかけて、吉田　淳が担当した。
- 8 発掘調査及び本書の作成にあたっては下記の方々から御教示・指導を得た。記して深謝申し上げたい。

荒川隆史、高田秀樹、高畠勝喜（故人）、谷口宗治、西野秀和、布尾和史、橋本證夫、久田正弘、本田秀生、三浦純夫、南　久和、谷内尾晋司、山本直人、湯尻修平、吉田めぐみ（故人）、米沢義光（敬称略）
- 9 本書の各図・写真図版の指示は以下のとおりである。
 - (1) 本書での遺構図・地図等の方位はすべて真北を表示する。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、(m)で表示する。
 - (3) 各図の縮尺は図に示すとおりである。
 - (4) 遺構平面図内の数字は遺物の出土地点を示し、この数字と遺物実測図番号、遺物一覧表番号、写真図版の遺物番号は対応する。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
 - (5) 遺構名の略号は堅穴建物 (SI)、掘立柱建物および建物 (SB)、土坑 (SK)、溝 (SD)、ピット (SP)とした。
- 10 本遺跡の出土遺物、記録資料は野々市町教育委員会が一括保管している。

目 次

第1章 調査の経過	
第1節 調査の経緯と経過	1
第2節 概往の調査について	1
第2章 調査の成果	
第1節 3区の調査	5
第1項 遺構	
第2項 遺物	
図面図版 遺構・遺物実測図	11
第2節 4区の調査	23
第1項 遺構	
第2項 遺物	
図面図版 遺構・遺物実測図	30
第3章 3・4区調査の総括	43
第4章 補遺編	
第1節 遺物	44
図面図版 遺物実測図	49
第2節 土製品・石器・石製品の出土点数	61
第3節 繩文時代主要遺構の変遷	62
写真図版	71
3区の調査 1~5	
4区の調査 6~10	
補遺編 遺物 11~14	

巻末折込図 (S=1/300) 1: ブナラシ・テト地区 2: テト地区 3: ツカダ地区

第1章 調査の経過

第1節 調査の経緯と経過

本書に収録する御経塚遺跡第18・23次調査は、昭和57年度の野々市町埋蔵文化財収蔵庫建設事業及び平成3年度の野々市町ふるさと歴史館建設事業に伴うものである。野々市町埋蔵文化財収蔵庫建設は、史跡御経塚環境整備事業に併せ隣接地に出土品の収蔵と一部展示を目的としたもので、昭和58年5月に開館した施設である。また、野々市町ふるさと歴史館建設は、野々市町内における各時代の主要な埋蔵文化財の展示の充実と、整理作業施設を兼ねた施設建設で、平成4年5月に開館した。

第18・23次調査の期間および面積は、例旨にて記述した。

第2節 概往の調査について（第1図）

昭和31年の第1次調査から平成8年まで第28次にかけて発掘調査が実施されている。今後の開発に伴う緊急発掘調査が予定される地区は、国道8号東側において駐車場として現状保存されているツカダ地区が対象として残っている。概往の調査については調査原因により大きく6区分でき、概略を表1にまとめた。

一部面積の不明な調査があるが、御経塚遺跡における発掘調査面積の合計は22,084m²である。

表1 調査一覧表（調査機関における調査は石川考古学研究会を主体として組織されたもので、文献の野々市市町教委を表す）

調査次	田名番・地区等	調査年	調査機関	原因等	調査面積	文獻
第1次	御経塚(1次)	昭和31年5月(1956)	押野村市編集委員会	村史記載	51	高麗1964
第2次	御経塚(2次)	昭和43年10月(1968)	調査団	金沢バイパス工事(現8分線)	70	高麗他1983
第3次	御経塚(3次)	昭和47年8月(1972)	調査団・石川県教委	震災復旧工事(現石川広域震災)	409	#
第4次	御経塚(4次)	昭和48年7~8月(1973)	調査団・石川県教委	金沢バイパス掘削工事	650	橋本他1973
第5次	御経塚(5次)	昭和48年8~12月(1973)	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	1,873	野々市市1983
第6次	御経塚B	昭和48~49年(1973~74)	石川県教委	祭堂住宅建設		湯尻1983
第7次	御経塚(6次)	昭和49年9~11月(1974)	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	1,035	高麗他1983
第8次	御経塚(7次)	昭和50年9~12月(1975)	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	1,164	#
第9次	御経塚(8次)	昭和50年11~3月(1975~76)	調査団・石川県教委	広域震災取付(現8号線掘削)	350	#
第10次	御経塚(9次)	昭和51年9~12月(1976)	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	580	#
第11次	御経塚(10次)	昭和52年9~11月(1977)	調査団・野々市町教委	分布確認、住七新条	150	#
第12次	御経塚(11次)	昭和53年12月(1978)	野々市町教委	国道8号線車道遭崩確認	208	#
第13次	御経塚(12次)	昭和55年3月(1980)	野々市町教委	国道8号線東側分布確認	—	#
第14次	ツカダ	昭和55年9~11月(1980)	野々市町教委	御経塚第1土地(内整理事業)	840	野々市市1984~1989
第15次	御経塚(13次)	昭和56年3月(1981)	野々市町教委	国道8号線東側分布確認	—	高麗他1983
第16次	ツカダ	昭和56年6~10月(1981)	野々市町教委	御経塚第1上地区面整理事業	2,100	野々市市1982~1992
第17次	ツカダ	昭和56年10~12月(1981)	野々市町教委	御経塚第1土地(内整理事業)	680	野々市市1984~1989
第18次	御経	昭和57年4~6月(1982)	野々市町教委	埋蔵文化財収蔵庫建設	295	本著
第19次	ツカダ	昭和57年10~12月(1982)	野々市町教委	御経塚第1土地(内整理事業)	700	野々市市1984~1989
第20次	ツカダ	昭和58年5~7月(1983)	野々市町教委	御経塚第1土地(内整理事業)	310	野々市市1984~1989
第21次	テト	平成元年7~12月(1989)	野々市町教委	御経塚第2土地(内整理事業)	3,470	野々市市2003
第22次	テト	平成2年12月(1990)	野々市町教委	御経塚第2土地(内整理事業)	190	#
第23次	テト	平成3年4~5月(1991)	野々市町教委	ふるさと歴史館建設	378	本著
第24次	ブナシ・テト	平成4年5~11月(1992)	野々市町教委	御経塚第2土地(内整理事業)	1,120	野々市市2003
第25次	ブナシ・テト	平成5年4~12月(1993)	野々市町教委	御経塚第2土地(内整理事業)	1,970	#
第26次	ブナシ・テト	平成6年6~12月(1994)	野々市町教委	御経塚第2土地(内整理事業)	1,550	#
第27次	テト	平成7年5~10月(1995)	野々市町教委	御経塚第2土地(内整理事業)	1,629	#
第28次	テト	平成8年5~6月(1996)	野々市町教委	御経塚第2土地(内整理事業)	330	#

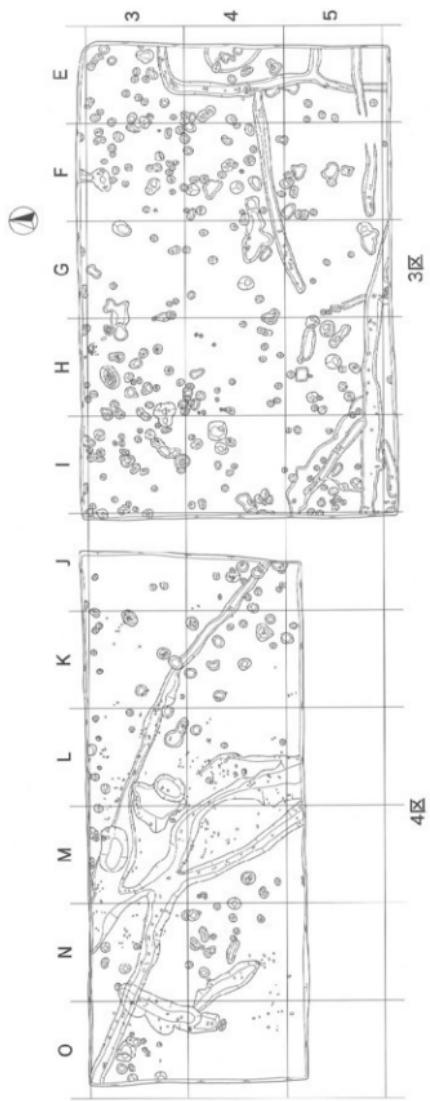


- 第1次調査（●・◎・△地点）
- 国道8号線関連の調査
- ▣ 国指定への調査

- 第1期土地区画整理事業の調査
- 第2期土地区画整理事業の調査
- ▨ 出土品展示施設建設の調査（今回報告分）

第1図 御経塚遺跡主要発掘調査区位置図 (S=1/2,500)

第2図 調査区全体図・グリッド図 ($S=1/250$)



第3圖 3區遺觸全體圖 ($S = 1/120$)



第2章 調査の成果

3区では、縄文時代の埋設土器1基、土坑6基、弥生時代末期の掘立柱建物2棟、土坑4基、区画すると考えられる溝等を検出している。4区では、縄文時代の土坑8基、古墳時代後期～古代の掘立柱建物1棟、溝等を検出している。

調査区の基本層序は、まず水田関係の耕土と床土があり、以下順に、小礫の混入する黄灰褐色砂質土層、暗褐色粘質土、灰褐色粘質土、地山となる。なお、4区においても基本的な相違は無い。

遺構及び遺物は、区別に報告することとし、遺物の記述については一覧表とした。またその記述は実測図からでは確認しづらい点を主に行ない、記述を割愛したものが多い。網代庄痕は「超え一溝り一送り」とし材料の本数を記した。土製品や石製品の祭儀具は出来るだけ多くを掲載したが、石器については典型的なもの抽出して図示した。なお、地区名や遺構の名称は、野々市町教委2003『御経塚遺跡III』のテト地図の報告時点で検討したもので、遺構名の重複はない。

第1節 3区の調査

第1項 遺構

1 縄文時代

1) 埋設土器

6号埋設土器(第4回・第6回1)

H3グリッドに位置し、底部を欠いた深鉢を横位とする土器棺で、口縁方向はN125°Eである。

2) 土坑 SK04~07・09~11(第4回)

土坑とした6基は、穴遺構のなかで大きめのものを土坑にしたもので、判断はあいまいである。縄文土器が出土した土坑を本時期に帰属させている。記述は一括しておこなうが、図示した出土遺物の図番号を()内で示した。

SK04はG3・H3グリッドに位置する。不整な梢円状を呈し、規模は140(推定)×90cm、深さ21cmである。

SK05はF4・G4グリッドに位置する。土坑3基の複合か。梢円状を呈し、判断できたものの規模は150(推定)×100cm、深さ21cmと、140(推定)×80cm、深さ22cmである。

SK06はG5グリッドに位置する。不整な梢円状を呈し、規模は140(推定)×70cm、深さ27cmである。

SK07はH3グリッドに位置する。梢円状を呈し、覆土内には5~35cmの自然石が多数混入していた。規模は124×80cm、深さ20cmである。出土土器から長竹式期の土坑であろう(第6回2・3)。

SK09はH5グリッドに位置する。長梢円状を呈し、規模は170×60cm、深さ6cmである。

SK10はH5グリッドに位置する。略円形を呈し、規模は78×76cm、深さ34cmである。

SK11はI3グリッドに位置する。略円形を呈し、規模は100(推定)×50cm、深さ9cmである。

2 弥生時代～古墳時代初頭

1) 掘立柱建物

SB07(第5回)

E・F3~4グリッドに位置する。2間×1間配置の6本柱建物で、規模は4.4×3.4m、面積は15.0m²、桁行方位はN6°Wである。柱穴間は、桁行のP1~2間2.0m、P2~3間2.4m、P4~5間2.0m、P5~6間2.4mである。梁行P1~4・梁行P3~6間は、3.4mである。略円形の柱穴は径40~64cmで、深さ31~61cmである。月影期の土器小片が出土したことから本時期に判断した。

SB08(第5回)

H・I5グリッドに位置する。未検出の柱穴があるが、2間×1間配置の6本柱建物と考えられる。

規模は4.4×3.7m、面積は16.3m²、桁行方位はN64° Eである。柱穴間は、桁行のP1～2間2.2m、P2～3間2.2m、P3～P4間3.7m、である。略円形の柱穴は径35～44cmで、深さ30～36cmである。月影期の上器小片が出土したことから本時期に判断した。

2) 土坑 SK01～03・08 (第4・5図)

月影II式～白江式期の上器小片が出土した土坑を本時期に帰属させている。

SK01はE4グリッドに位置するが、約1/2の検出にとどまる。形状は楕円状と考えられ推定規模は280×190cmで、深さは12cmである。

SK02はF3グリッドに位置する。楕円状を呈し、規模は104(推定)×80cm、深さ60cmである。

SK03はG3グリッドに位置する。不整な楕円状を呈し、規模は100×70cm、深さ24cmである。

SK08はH3グリッドに位置する。楕円状を呈し、規模は114×80cm、深さ33cmである。

3) 区画溝 SD01 (第5図)

SD01は方形形状に区画する溝と考えられ、南西部隅に溝SD01bが接続するが、約1/4程度の検出であろう。区画の大きさは溝の内側で南北方向4.8mを測る。SD01の幅は30～50cm、深さ13～17cmである。SD01bの幅は25～50cm、深さ8～12cmである。

3 古代

検出された溝SD04・05は、灰褐色砂質土を覆土とするもので、後述する4区の調査状況等から古代に所属しよう。東西方向のSD04は、幅50～90cm、深さは5～11cmで東側が低く東流していたものであろう。当該期の出土遺物はみられなかった。

第2項 遺物

1 繩文時代

1) 土器 (第6～9図1～56・表2)

土器については、実測図を第6～9図に、器種、出土造構、出土グリッド、層位、法量、備考、遺存部、形式については表2において表記した。

文様を有する上器等の型式については以下のとおりとしている。出土土器は後期中葉後半期からみられ、その中葉後半期は酒見式とし、後期後葉の前半は、井口I式(井口II式前半)・井口2式(井口II式後半)、後半は八日市新保1式・八日市新保2式とした。晚期は御経塚1～3(B～BC1)・中屋1(BC2)・中屋2(C1前半)・中屋3(C1後半)・下野(C2)・長竹(△)とし、並行する大洞編年を()と考えた。しかし、小片や粗製土器については不明な部分が多くあり、また筆者の力量不足から型式細分が出来ていないものも多い。

後期から晚期の前半は、小島・西野・酒井1994、西野2008、酒井2008の編年に、後半は久田1998・2004、酒井2008を、また全般的に南2001を参考としている。野々市町教委2003と同様であり、第2節4区の調査および第4章補遺編の遺物についても同様と考えていただきたい。

2) 石器・石製品 (第10～15図・表3)

石器・石製品については、実測図を第10～15図に、器種、出土造構、出土グリッド、層位、法量、分類、備考、石質、遺存率を表3において表記した。石器の分類は野々市町教委2003と同様であり、第2節4区の調査および第4章補遺編についても同分類である。

石器の器種別出土点数は、打製石斧123点、磨石29点、敲石28点、石錐1点、磨製石斧10点、石皿9点、砥石10点、石鏃13点、石錐5点、削器1点で、出土合計点数は229点である。

石製品の器種別出土点数は、石棒9点、石刀5点、石冠3点、垂飾(垂玉)1点で、出土合計点数は18点である。

①打製石斧 (第10・11図1～14) 打製石斧は、123点出土した。完形とほぼ完形はそのうち19点である。打製石斧の分類は形態を基に以下のとおりの組合せとした。

- I 矩形 1 側縁がほぼ直線的なもの 2 側縁がやや内曲するもの 3 側縁がやや膨らむもの
 A円刃のもの B直刃のもの C偏刃のもの
- II 楔形 1 側縁がほぼ直線的なもの 2 側縁がやや内曲するもの 3 側縁の内曲が強いもの
 A円刃のもの B直刃のもの C偏刃のもの
- III 分銅形 A円刃のもの B直刃のもの C偏刃のもの
- ②磨石 (第11図・第12図15~25) いわゆる磨石・敲石・門石であるが、磨ってあるものを磨石とし、磨っていないものは敲石とした。磨石は29点出土した。完形とほぼ完形はそのうち18点である。磨石の分類は痕跡を基に以下のとおりとした。
- I 磨痕だけみられるもの
 II 磨痕と凹があるもの IIb 平面部にも敲痕がみられるもの
 III 磨痕と側縁に敲痕があるもの IIIb 平面部にも敲痕がみられるもの
 IV 磨痕と凹、敲痕があるもの
- ③敲石 (第12図・第13図26~32) 磨痕がみられず敲痕のあるものを敲石とした。敲石は28点出土した。完形とほぼ完形はそのうち20点である。敲石の分類は痕跡を基に以下のとおりとした。
- I 円だけみられるもの
 II 凹と側縁に敲痕があるもの IIb 平面部にも敲痕がみられるもの
 III 側縁に敲痕だけみられるもの IIIb 平面部にも敲痕がみられるもの
- ④石鍤 (第13図33) 石鍤は1点の出土である。石鍤の分類は紐掛け部の造作により以下のとおりとした。
- A 打欠いたもの (疊石鍤)
 B 切口をいたしたもの (切目石鍤) B2 細い溝を縱に廻らすもの (有溝石鍤)
 C 1敲打溝が全周するもの (敲打有溝石鍤) C2 側縁に敲打溝があるもの (敲打有溝石鍤)
 C3 側縁の敲打溝が不鮮明なもの (敲打有溝石鍤)
- ⑤磨製石斧 (第13図34~39) 磨製石斧は、10点出土した。ほぼ完形はそのうち4点である。磨製石斧の分類は野々市町教委1983を参考に以下の組合せとした。
- A 定角形 B 乳棒状形
 1 大形 (長9cm以上、幅5~7cm) 2 中形 (長6.5~9cm、幅3.5cm前後)
 3 小形 (長5cm前後、幅2.5~4cm) 4 最小形 (長3.5~5cm、幅1.5~2cm)
- ⑥石皿 (第13図・第14図40~43) 石皿は、9点出土したが、いずれも遺存状態は悪く全体の20~40%程度である。石皿の分類は塙田1999と形態により以下のとおりの組合せとした。
- I 有縁形 II 無縁形 III 無縁板状形
 Aくぼみの深いもの Bくぼみの浅いもの C平坦なもの D側縁方向へ緩く傾斜するもの (無縁のみ)
- ⑦砥石 (第14図44~48) 砥石は10点の出土であるが、遺存率が50%を超えるものはみられない。分類は宮下1983を参考に使用状況と形態、断面の形状(下記のA~I)から以下のとおりの組合せとした。
- I 有溝のもの (緩い溝のものはIY) II 無溝のもの III 打製石斧の刃部に似た形状
 IV 定形化したものの (野々市教委1983での砥石状石製品) IVb 定形化したものでかつ小形 (10cm以下)
 A 楕円形 B カマボコ形 C 扁平形 D 正方形 E 三角形 F 不定形 G 長方形 H 台形 I 方形
- ⑧石鑓 (第15図49~56) 石鑓は13点の出土で、多くが遺存80%以上のものである。石鑓の分類は鈴木1981を参考として以下の組合せをしている。
- A 無茎鑓 1 基部に抉入りがあり三角形状のもの (四基無茎三角形鑓)
 2 基部が直線的で三角形状のもの (平基無茎三角形鑓)
 3 基部に抉入りがあり五角形状のもの (円基無茎五角形鑓)
 4 基部が直線的で五角形状のもの (平基無茎五角形鑓)

- B有茎鐵 1 基部に抉入りがあり三角形状のもの (凹基有茎三角形鐵)
 2 基部が直線的で三角形状のもの (平基有茎三角形鐵)
 3 基部が突出する三角形状のもの (凸基有茎三角形鐵)
 4 五角形状のもの (凸基有茎五角形鐵)
- C尖・円基鐵 1 基部が尖るもの
 2 基部が丸いもの
- ⑨石錐 (第15図57~61) 石錐は5点の出土である。石錐の分類は矢島・前山1983に掲ったもので、基本分類は下記とおりであるが詳細は参照願いたい。
- A 全体の形状が棒状をなすもの
 B 明瞭なつまみ状の頭部をもつもので錐部の長いもの。
 C 明瞭なつまみ状の頭部をもつもので錐部の著しく短いもの。
 D 錐部がしたいに太くひろがり、頭錐との区分が不明瞭なもの。
 E 棒状あるいは長・三角形の剥片の先端に微弱な調製加工を加え、そのまま石錐として用いたもの。
- ⑩削器 (第15図62) 削器は1点の出土である。
- ⑪石棒・石刀 (第15図63~66) 石棒は9点の出土で、頭部が遺存する63・64を図示した。石刀は5点の出土で頭部が遺存する65・66を図示した。
- ⑫石冠 (第15図67・68) 石冠の出土は3点で、2点を図示した。68は石錐形である。
- ⑬垂飾 (第15図69) 垂玉1点の出土である。

2 弥生時代～古墳時代初頭

1) 土器 (第9図57~73・表2)

調査区東側のE～Fグリッドに出土分布傾向がみられるもので、時期的には月影式～白江式に属するものである。

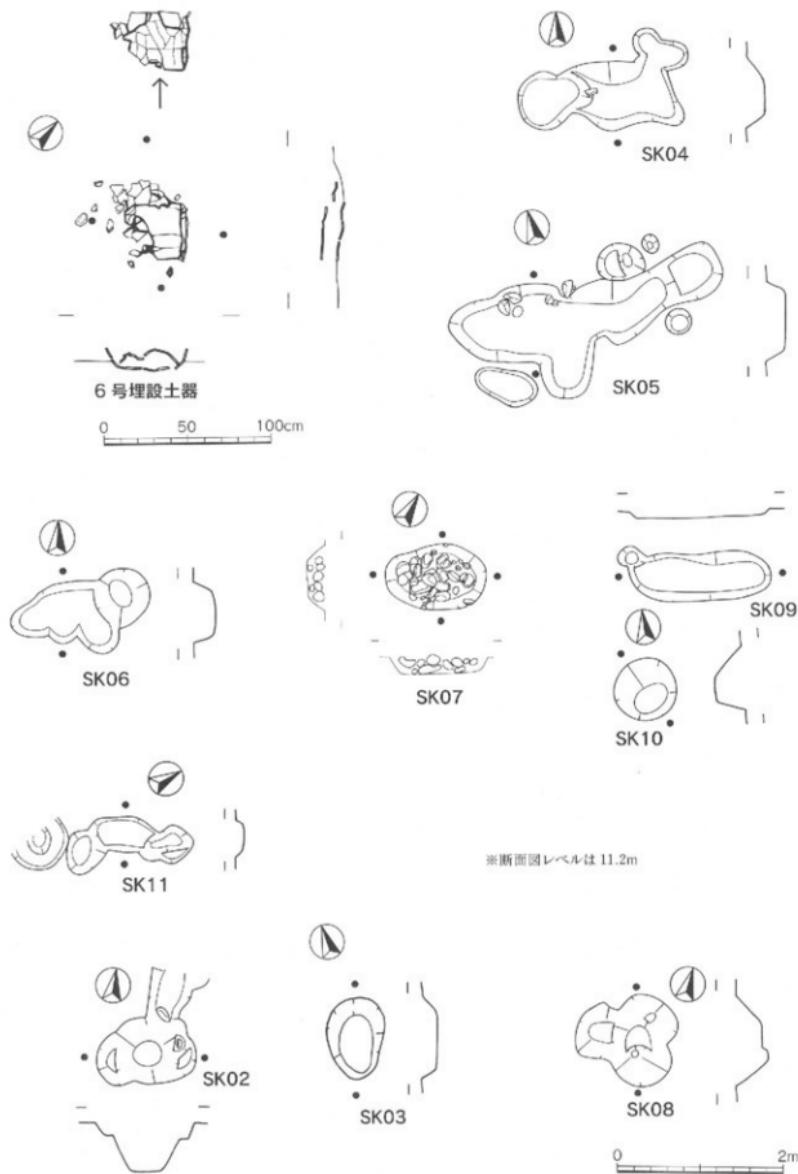
表2 3区土器一覧表 (第6～9回)

図	番号	器種	出土 遺構	刃ヶ付	層位	法量 (mm)・備考	遺存等	時間
6	1	深鉢	6号埋設土器	H3		口径420、底径414、粗製、斜条模文、尖口鋒	口縁～脚下 半部	中尾3～下野
	2	皿	SK07	H3		口唇部連続押圧、内面粗広弦線3	口縁部	長竹
	3	深鉢	SK07	H3		横円区画土手状文、外面スス付肩	口縁部	長竹
	4	深鉢	SK11	H3	BG	沈線文、円形押圧文、条痕文、外面スス付肩	口縁部	井戸2
	5	深鉢	SP13	F5		連続円形押圧文、外面スス付肩	口縁部	長竹
	6	深鉢	SP14	G3		沈線壓引肩沈線文、外面スス付肩	口縁部	長竹
	7	深鉢	SP15	G5		くの字底口縁、条痕文、口唇部押圧、内面沈線1、外面スス付肩	口縁部	中尾3
	8	浅鉢	SP16	H3		沈線文、難離剥1対、外面スス付肩	口縁部	井戸2
	9	深鉢	SP17	H3		沈線文、円形押圧文、外面スス付肩	口縁部	八日市新保1
	10	浅鉢	SP18	H5		卷形状区画、列点文、赤彩、外面スス付肩	口縁部	長竹
7	11	深鉢		E3	B	口径107、底径90、脚径122、底径70、雷高148、蛇行沈線文、沈線内刻文	口縁～底部	下野
	12	壺		E3	B	口径225、脚径300、くの字状文・列点文、口唇部肥厚、外面スス付肩	肩上半部	下野
	13	浅鉢		E3	BG	沈線文	口縁部	下野
	14	浅鉢		E3	BG	幅広沈線文	口縁部	下野
	15	壺	SD01a	E4	B	押圧文、幅広沈線降帯、条痕文	肩部	長竹
	16	深鉢		F3	B	脚部列文	口縁部	下野
	17	壺		F3	B	口唇部押圧、幅広沈線文	口縁部	長竹
	18	深鉢		F3	B	幅広沈線脚列点文	口縁部	長竹
	19	壺		F3	BG	2条沈線文2段、斜条模文	肩部	長竹
	20	深鉢		F3	B	沈線文、列点文、縱条模文	脚部	長竹
	21	壺		F3	B	列点文、横内状区画文(縦撓痕は入締的)	脚部	下野
	22	浅鉢		F3	B	沈線文、口唇部三角形状の刻み	口縁部	下野
	23	浅鉢		F3	B	沈線文、口唇部連続押圧、内面粗広弦線3、外面スス付肩	口縁部	長竹

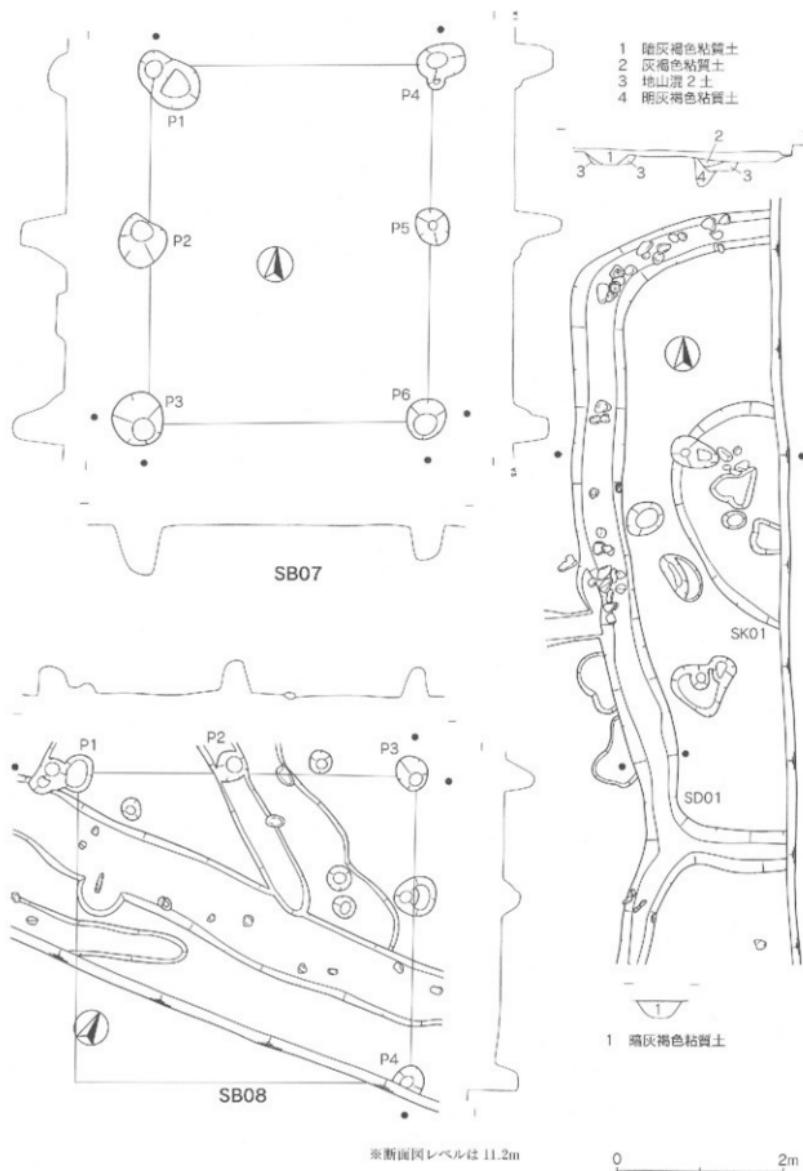
図	番号	器種	出土遺物	刃外	層位	法量 (mm)・備考		遺存等	時期
7	24	深鉢	F4	BG	胴径240、強線文+逆C字状文、LR縦文、外面スス付着 口径305、沈線文、口縁部一帯細波状、赤彩痕 小波状口縁、根筋状突起、梢円区LR縦文 口唇部面墜、縦条痕文	胴部	中層3	脚部欠損 下野	下野
	25	浅鉢	F4	BG		口縁305、沈線文、口縁部一帯細波状、赤彩痕	口縁～側部		
	26	浅鉢	F5	B		小波状口縁、根筋状突起、梢円区LR縦文	口縁部	長竹	
	27	壺	G3	B		口唇部面墜、縦条痕文	口縁部	長竹	
8	28	鉢	G3	B	口字文、文様帶下部眠状の階層、外面スス付着	口縁～脚下	中層	下野	下野
	29	深鉢	G4	B	口径275、口唇部連續押圧、斜条痕文、外面スス付着	口縁部	中層3	下野	下野
	30	蓋	G4	BG	列点文、LR縦文	口縁部	中層2		
	31	深鉢	G5	B	くの字状口縁、斜条痕文、押引剥片沈線	口縁部	下野		
	32	壺	SD04	G5	沈線文列点文、口唇部短沈線、内外赤彩	口縁部	長竹		
	33	鉢	G5	B-BG	小突起、口唇部沈線文、沈線文、突起、円形列点文、外面スス付着	口縁部	長竹		
	34	深鉢	H3	BG	内湾口縁、沈線文、LR縦文	口縁部	御経塚		
	35	鉢	H3	B-BG	口径90、台形状区画	口縁～脚下	下野		
	36	深鉢	H3	B	沈線文列点文、斜条痕文	口縁部	長竹		
	37	鉢	H3	BG	突起、浮輪網状文系文様か、外面スス付着	口縁部	長竹		
	38	深鉢	H3	BG	口唇部削目、割目凸凹、外面スス付着	口縁部	長竹		
	39	深鉢	H3	BG	口唇部削目、無刻目凸凹、外面スス付着	口縁部	長竹		
	40	壺	H3	B	口縁端押圧凸凹	口縁部	長竹		
	41	浅鉢	H4	BG	LR縦文	口縁部	御経塚		
	42	深鉢	H4	B	口唇部削目、沈線文短沈線、縦条痕文	口縁部	下野		
	43	浅鉢	H4	B	列点文、外面スス付着	口縁部	中層3		
	44	壺	H4	B	口縁端無刻目凸凹	口縁部	長竹		
9	45	浅鉢	H5	B	口唇部縦帶、LR縦文帶、内外面段	口縁部	中層1		
	46	深鉢	H5	B	口縁端押圧凸凹、横条痕文、外面スス付着	口縁部	長竹		
	47	浅鉢	H5	BG	工字文	口縁部	長竹		
	48	深鉢	I2	BG	LR縦文帯、内面軫幅短沈線文	口縁部	御経塚1		
	49	深鉢	I3	B	B字状突起(一部欠)、枕輪周列口文	口縁部	中層2		
	50	深鉢	I3	B	口径144、胴径178、くの字状口縁、LR縦文	口縁～側部	中層3		
	51	深鉢	I3	B	押引列点文、斜条痕文	口縁部	中層3		
	52	深鉢	I3	B	沈線文	口縁部	中層		
	53	浅鉢	I3	B	列点文、LR縦文帯、外面スス付着	口縁部	中層2		
	54	浅鉢	I3	B	口径342、口唇部三角形削みと列目交点、雲形文、LR縦文、赤彩痕	口縁部	中層3		
10	55	深鉢	I4	BG	くの字状口縁、縦条痕文、頭部削目口文	口縁部	下野		
	56	深鉢	H	B下層	口唇部削目、刻目凸凹	口縁部	長竹		
	57	甕	SD03	E5	口径178、指頭状痕、外間スス、赤色粒	口縁部	月影日～白江		
	58	高环	SD04	G5	外間ミガキ、磨耗著しい	环部	〃		
	59	甕	E3	B	口径123、螺鈿約11枚	口縁部	〃		
	60	装飾器台	E3	B	外間赤彩、ミガキ、スス付着。内面ミガキ	受部	〃		
	61	器台	E3	B	外間赤彩、ミガキ、内面ケズリ	柱狀部	〃		
	62	甕	E4	B	口径276、擬四瓣8条、折口状痕	口縁部	〃		
	63	甕	E4	B	口径152	口縁部	〃		
	64	甕	E4-5	B	口径220、外間スス付着、内面磨耗	口縁部	〃		
11	65	甕	E4	B	口径139、スス付着、内外面磨耗著しい	口縁・底部	〃		
	66	甕	E4	B	口径128、外間磨耗	口縁部	〃		
	67	台付甕	E4	B	胴径82、底径56、外間赤彩	口縁欠損	〃		
	68	高环	E4	B	口径73、底径64、胴高59、内面磨耗著しい	环～脚部	〃		
	69	甕	E5	B-BG	口径163、擬四瓣4条、外間スス付着	口縁部	〃		
	70	高环	E5	B	脚径157、外間磨耗	脚部	〃		
	71	甕	E4	B	口径180、外間スス付着	口縁部	〃		
	72	甕	E4	B	口径168	口縁部	〃		
	73	甕	E5	B-BG	口径178、擬四瓣6条、指頭状痕	口縁部	〃		

表3 3区石器・石製品一覧表 (第10~15回)

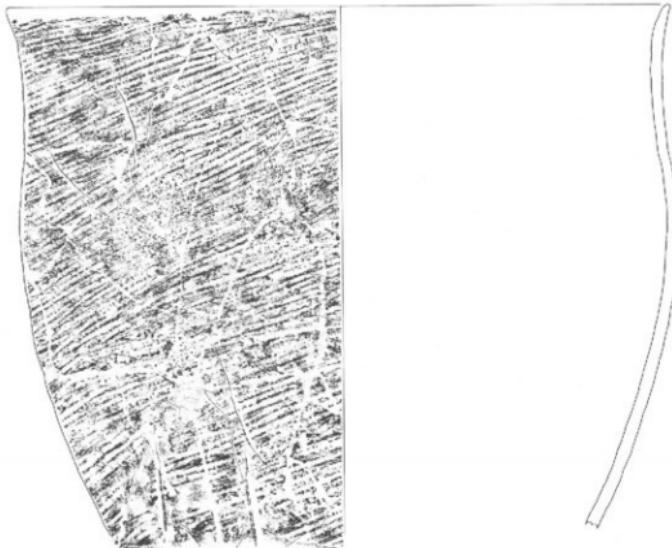
回	番号	器種	出土 地點	列名	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	分類	石質		測定 率
											長形	短形	
10	1	打製石斧	SP19	F5		(165)	65	29	(315)	I 3B	短形、刃形	石英安山岩	95%
	2	打製石斧	I3	B		126	28	295		II 1B	楕形、刃形	砂岩	100%
	3	打製石斧	H4	B	(155)	85	35	(650)	II 2A	橢形、直刃	火山礫凝灰岩	95%	
	4	打製石斧	I4	B下層	(117)	70	28	(265)	II 1B	橢形、刃形	火山礫凝灰岩	95%	
	5	打製石斧	I4	B	172	76	31	505	II 2B	橢形、刃形	火山礫凝灰岩	100%	
	6	打製石斧	SD04	G5		187	101	35	849	II 2B	橢形、刃形	火山礫凝灰岩	100%
	7	打製石斧	F3	B	123	77	27	295	II 2B	橢形、刃形	火山礫凝灰岩	100%	
	8	打製石斧	E5	BG	(157)	96	37	(545)	II 2B	橢形、刃形	綠色凝灰岩	95%	
	9	打製石斧	H4	B	(155)	82	22	(340)	II 2B	橢形、刃形	砂岩	95%	
11	10	打製石斧	H5	BG	147	90	35	450	II 3B	橢形、刃形	火山礫凝灰岩	100%	
	11	打製石斧	I5	B	(160)	109	34	(690)	II 3B	橢形、刃形	火山礫凝灰岩	95%	
	12	打製石斧	H5	B	(142)	(87)	18	(250)	II 3B	橢形、刃形	綠色凝灰岩	80%	
	13	打製石斧	M5	B	131	80	23	245	II 3B	橢形、刃形	砂岩	100%	
	14	打製石斧	G3	BG	(115)	(72)	13	(130)	II 3B	橢形、刃形	石英安山岩	70%	
	15	磨石	I4	B	76	75	58	447	III	盤、圓形	砂岩(粗粒)	100%	
	16	磨石	F5	BG	105	103	55	886	III	盤、圓形	砂岩	100%	
	17	磨石	F5	BG	100	91	59	536	IV	圓、凹、橢、橢円形	砂岩(粗粒)	100%	
	18	磨石	G3	BG	92	77	47	489	IV	圓、凹、橢、橢円形	凝灰岩	100%	
12	19	磨石	C3	B	90	79	47	471	IV	圓、凹、橢、橢円形	砂岩(粗粒)	100%	
	20	磨石	SP20	H3		137	83	26	432	IV	圓、凹、長橢円形、被燃	砂岩	100%
	21	磨石	G5	B	126	82	31	483	IV	圓、凹、長橢円形	砂岩	100%	
	22	磨石	G5	B	121	90	35	566	IV	圓、凹、橢、橢円形	砂岩	100%	
	23	磨石	SD04	I5		131	74	52	714	IV	圓、凹、長橢円形、被燃	砂岩	100%
	24	磨石	H1	B	121	72	40	548	IV	圓、凹、橢、長橢円形	綠色凝灰岩	100%	
	25	磨石	I5		102	74	44	449	IV	圓、凹、橢、橢円形	砂岩	100%	
	26	磨石	F5	BG	87	79	55	506	IV	圓、凹、橢、橢円形、被燃、丸妻あり	砂岩	100%	
	27	磨石	H4	B	77	74	48	377	IV	圓、凹、橢、橢円形	砂岩	100%	
13	28	磨石	SD04	I5	95	81	47	500	IV	圓、凹、橢、橢円形	砂岩	100%	
	29	敲石	I3	B	109	74	38	493	II	敲、凹、橢、橢円形	砂岩(粗粒)	100%	
	30	敲石	F3	B	115	57	43	405	II	敲、凹、長橢円形	砂岩	100%	
	31	敲石	F3	BG	119	51	30	271	II	敲、凹、長橢円形、被燃、丸妻	砂岩	100%	
	32	敲石	SK07	H3		128	72	45	510	II	敲、凹、長橢円形、被燃、丸妻	凝灰岩	100%
	33	石錐	G3	BG	69	118	51	586	C1	敲打有溝、橢円形、橢形	砂岩(粗粒)	100%	
	34	磨製石斧	不明		115	58	23	(250)	A1	定角大形	流紋岩骨	90%	
	35	磨製石斧	G5	B	(63)	(51)	(24)	(132)	A1	定角大形	蛇紋岩	50%	
	36	磨製石斧	SD04	I5	(55)	(45)	(27)	(84)	A1	定角大形	流紋岩骨	50%	
14	37	磨製石斧	G4	B	(54)	37	11	(31)	A3	定角小形	蛇紋岩	95%	
	38	磨製石斧	I3	B	45	(25)	9.4	(15)	A3	定角小形	浮石質	90%	
	39	磨製石斧	H3	BG	56	22	8	(17)	A3	定角小形	流紋岩	90%	
	40	石皿	G3	BG	(108)	(155)	55	(792)	II A	無縁、深く凹、不定形、被燃	砂岩	20%	
	41	石皿	H5	B	(112)	(93)	31	(526)	II B	無縁、深く凹、不定形、被燃	砂岩	40%	
	42	石皿	F3	B	(125)	96	41	(634)	II C	無縁、平底、橢円形	砂岩	20%	
	43	石皿	G5	B	(125)	(98)	67	(1270)	II C	無縁、平底、橢円形	砂岩(粗粒)	20%	
	44	砥石	F4	B	132	(74)	28	(446)	I YC	研磨、橢円形	安山岩	50%	
	45	砥石	F3	B	(157)	163	67	(2180)	II A	無縁、橢円形	砂岩	40%	
15	46	砥石	G3	B	(141)	124	62	(1570)	II A	無縁、橢円形	砂岩	50%	
	47	砥石	H4	BG	(77)	55	10	(68)	II C	無縁、橢円形	砂岩	50%	
	48	砥石	H5	BG	(60)	40	5	(13)	II C	無縁、子持ち	砂岩	30%	
	49	石鍬	G5	B	29	16	6	2	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	100%	
	50	石鍬	I5	B	23	17	7	1.7	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	100%	
	51	石鍬	F5	B	(19)	(17)	2	(0.7)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	95%	
	52	石鍬	F3	B	14	15	2	0.3	A1	凹基無茎、三角形	プリント	100%	
	53	石鍬	F5	B	18	13	4	0.8	A3	凹基無茎、五角形	輝石安山岩	100%	
	54	石鍬	I3	B下層	22	16	6	1.3	A3	凹基無茎、五角形	輝石安山岩	100%	
13	55	石鍬	F3	B	26	(13)	5	(1)	A3	凹基無茎、五角形	プリント	60%	
	56	石鍬	F4	BG	(28)	17	7	(3.7)	C2	円基、三角形	プリント	95%	
	57	石鍬	F4	BG	(32)	(18)	6	(2.5)	B1	全体加工T、右頭、棒状	プリント	50%	
	58	石鍬	SP21	I3	(22)	(20)	5	(2.6)	D1	全体加工、右頭、棒状	輝石安山岩	95%	
	59	石鍬	I3	B下層	(27)	(14)	8	(2.1)	D1	全体加工、三角形	輝石安山岩	95%	
	60	石鍬	G4	BG	(27)	24	7	(3.8)	D1	両端加工、V字形	輝石安山岩	95%	
	61	石鍬	I3	B	28	(13)	4	(2)	D2	両端加工、三角形	プリント	70%	
	62	削器	I3	B	(47)	(18)	4	(6)			輝石安山岩	30%	
	63	石鋸	H4	B	(158)	(36)	(15)	(160)			粘板岩	30%	
14	64	石鋸	F3	B	(290)	105	75	(2950)			凝灰岩	40%	
	65	石刀	G3	B	(77)	31	(24)	(65)			綠色石片岩	20%	
	66	石刀	H4	B	(95)	25	17	(70)			角閃石安山岩	20%	
	67	石刀	I3	B	46	42	(48)	(60)			粘板岩	20%	
	68	石燧	H4	BG	(42)	25	35	(31)			凝灰岩	5%	
	69	底上	H5	BG	26	22	14	16			合ヒスイ珪質岩	100%	



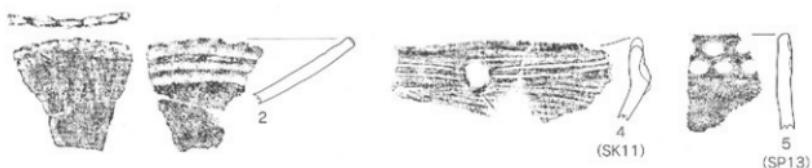
第4図 3区遺構図1 (S=1/30 : 6号埋設土器 S=1/60 : 上部)



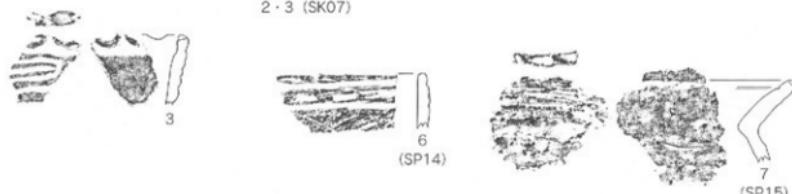
第5図 3区造構図2 (S=1/60)



1 (6号埋設土器)



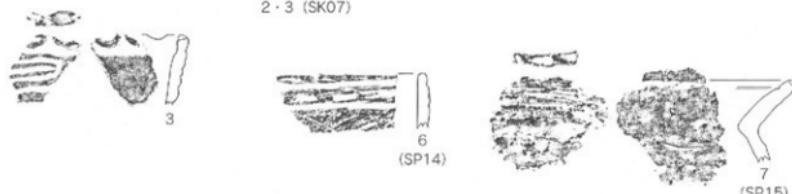
2・3 (SK07)



4 (SK11)

5 (SP13)

6 (SP14)



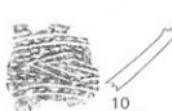
7 (SP15)



8 (SP16)



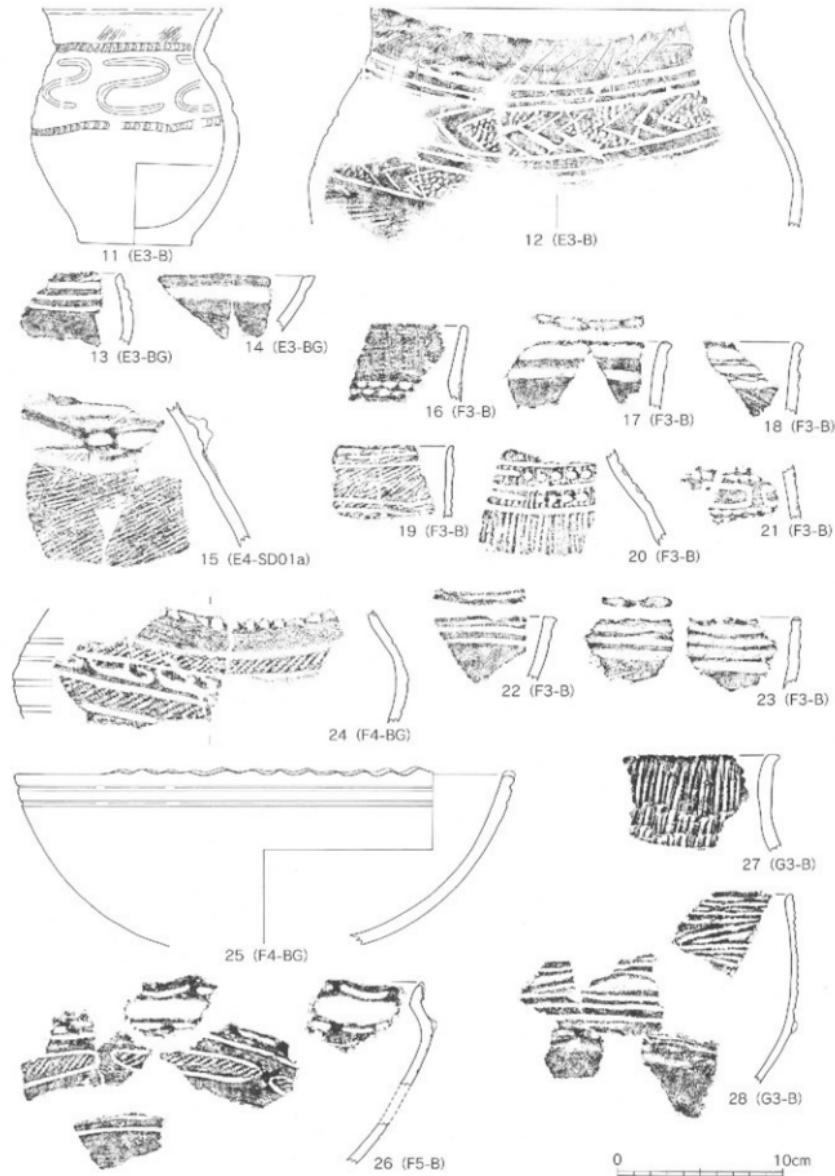
9 (SP17)



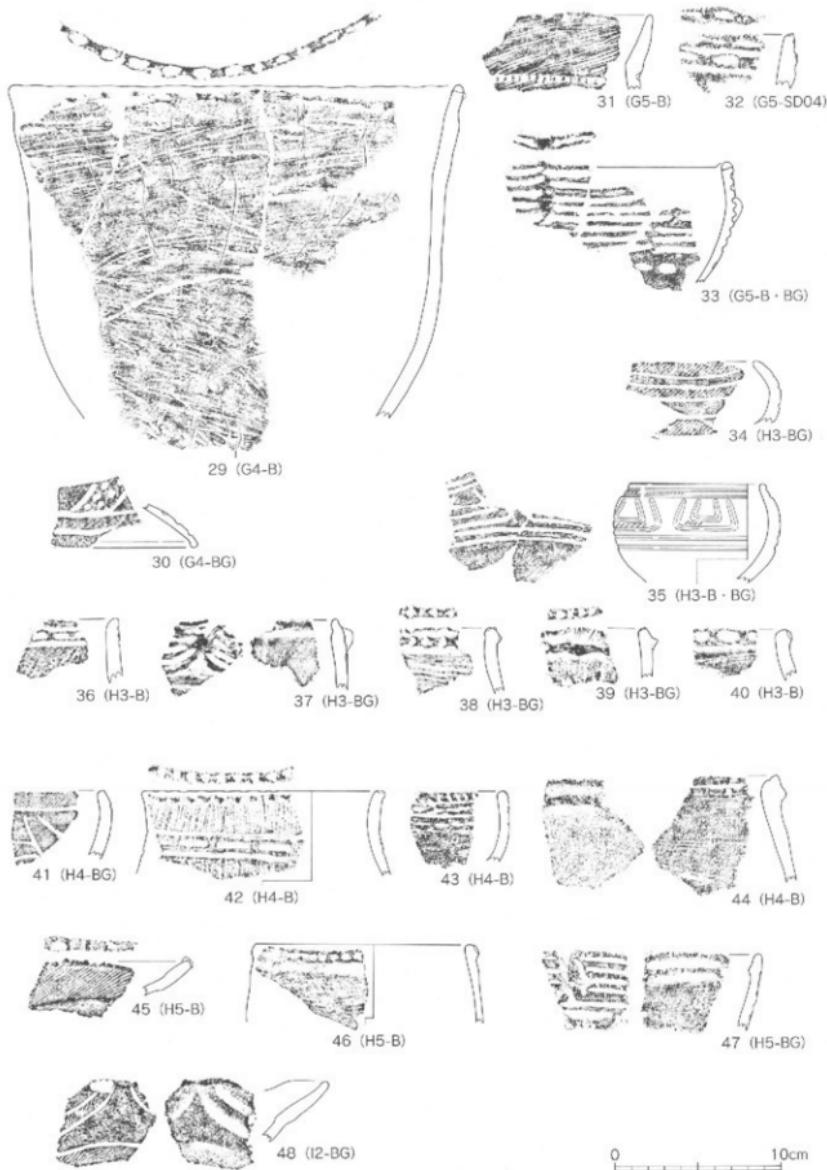
10 (SP18)

0 10cm

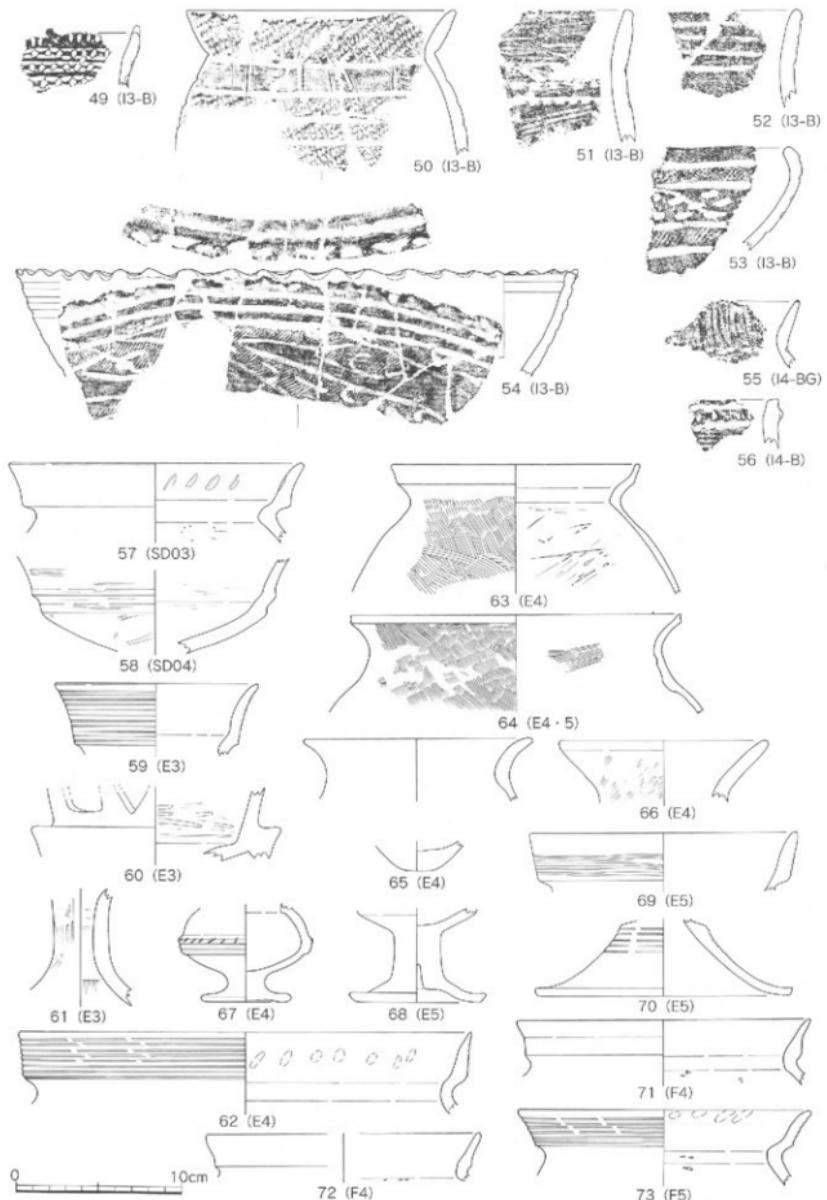
第6図 3区出土土器1 (S=1/3)



第7図 3区出土土器2 (S=1/3)



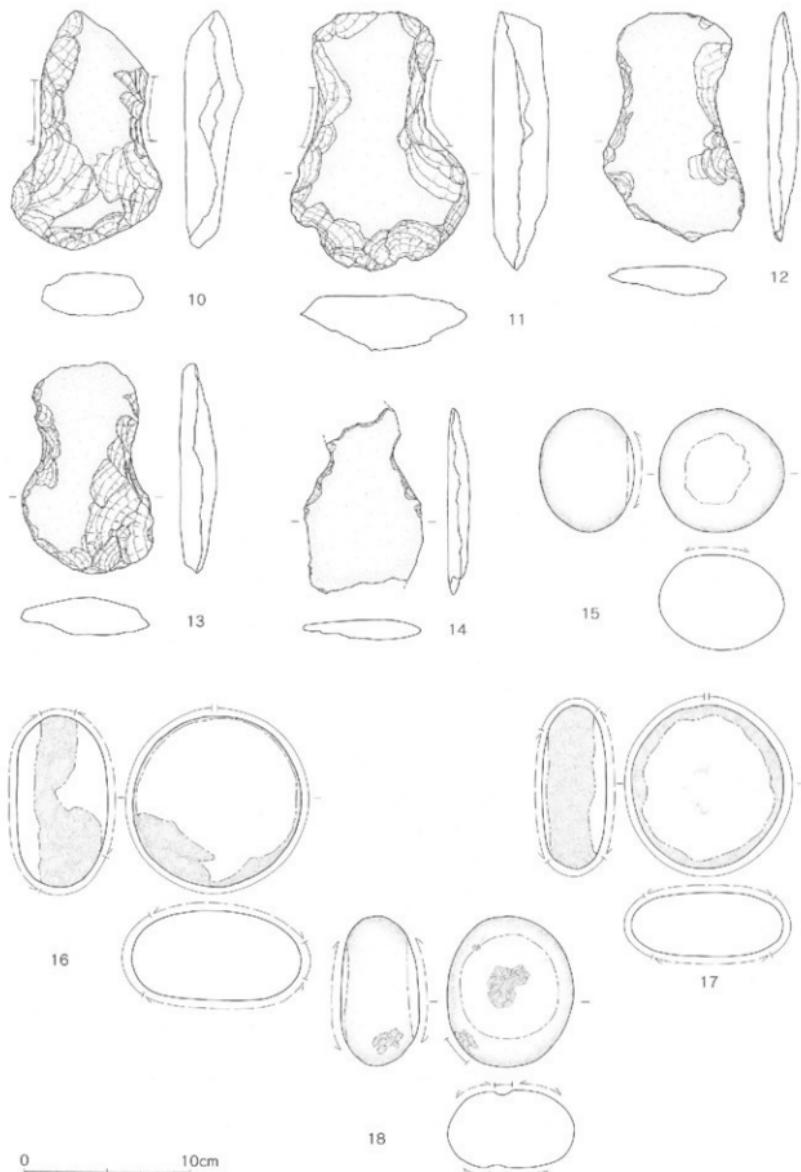
第8図 3区出土上器3 (S=1/3)



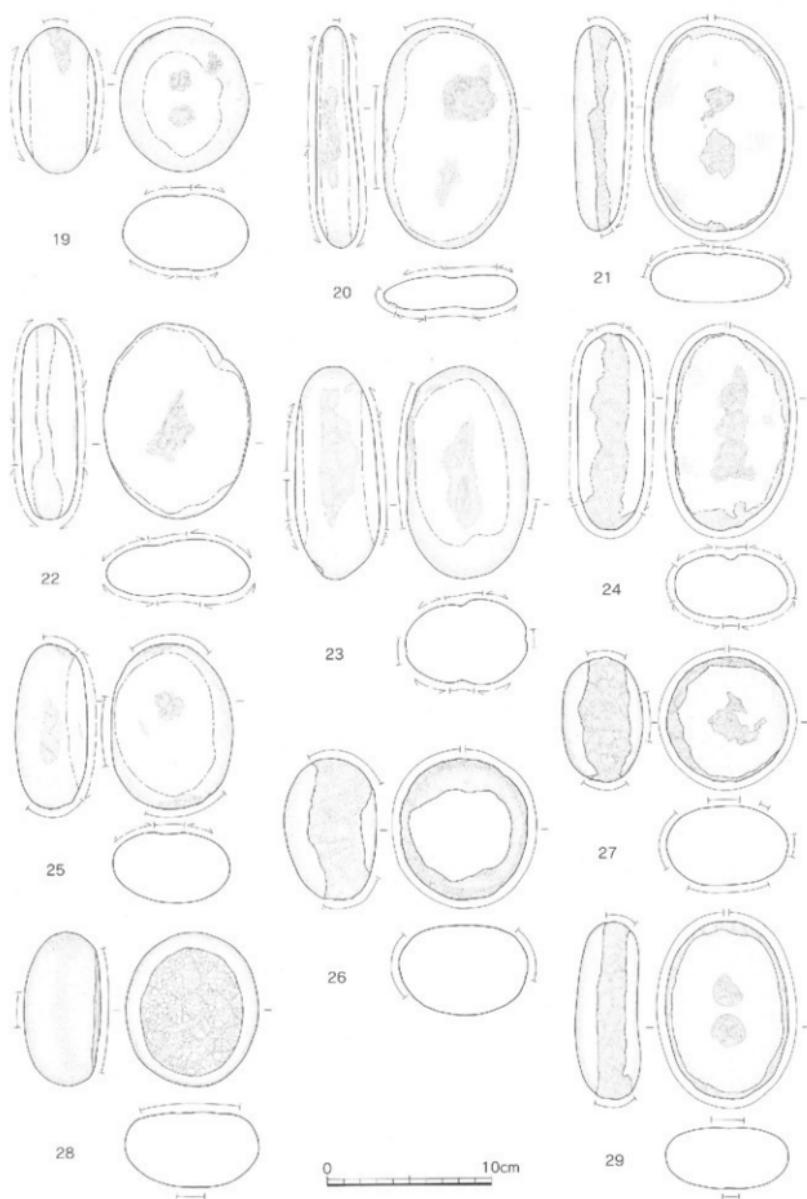
第9図 3区出土土器4 (S=1/3)



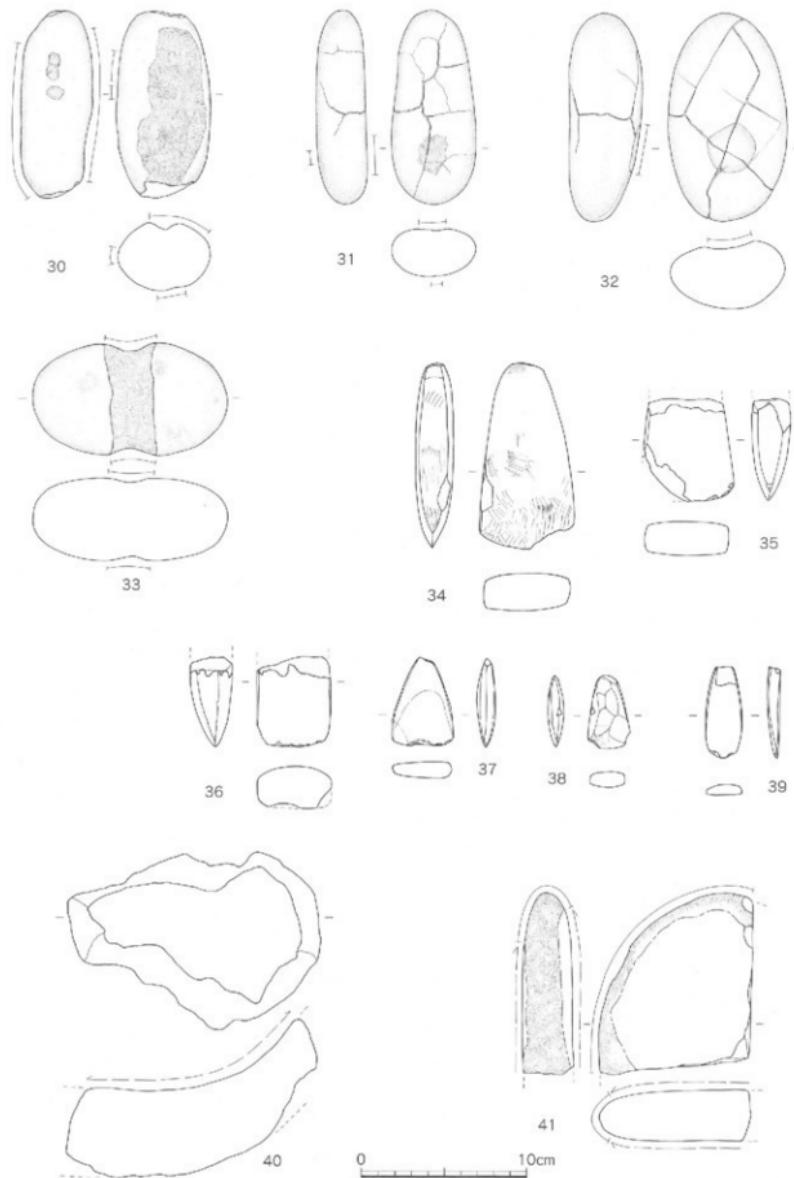
第10圖 3區出土石器 1 (S= 1 / 3)



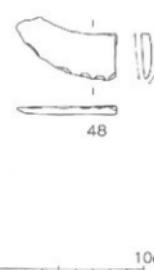
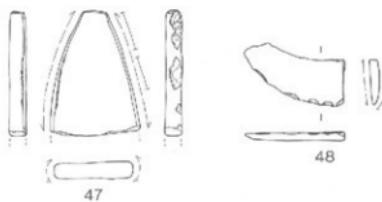
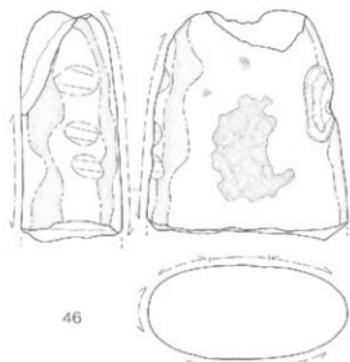
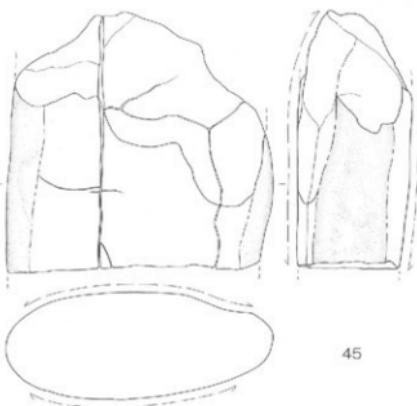
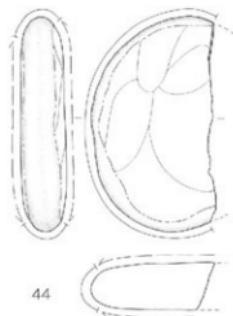
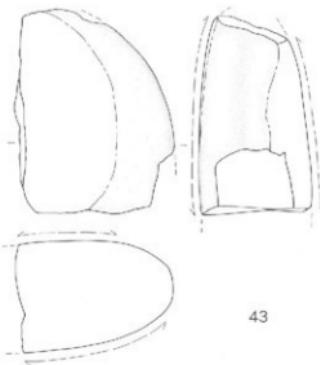
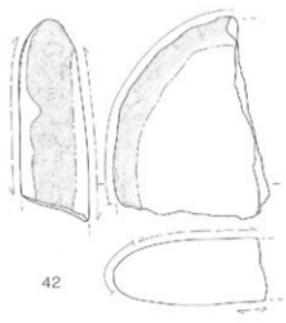
第11图 3区出土石器2 (S-1/3)



第12図 3区出土石器3 (S=1/3)

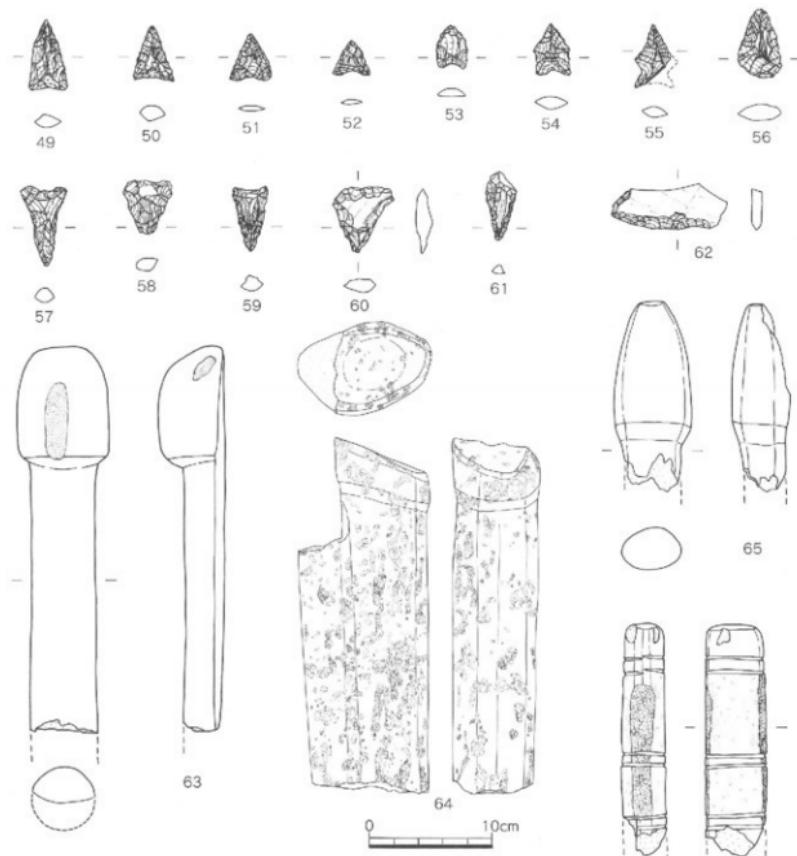


第13図 3区出土石器4 (S=1/3)



0 10cm

第14圖 3區出土石器 5 (S=1/3)



第15図 3区出土石器 6・石製品 ($S=1/2$ 64: $S=1/4$)

第2節 4区の調査

第1項 遺構

1 繩文時代

1) 土坑 SK12~20 (第17図)

土坑とした9基は、穴邊構のなかで大きめのものを土坑にしたもので、判断はあいまいである。縄文土器が出土した土坑を本時期に帰属させている。図示した出土遺物の図番号を()内で示したが、底部出土のみの図示土坑は省略した。

SK12はJ4グリッドに位置する。梢円状を呈し、規模は72×60cm、深さ26cmである。長竹式期の土坑であろう(第18図1・2)。

SK13はJ4グリッドに位置する。隅丸方形を呈し、規模は56×50cm、深さ9cmである。長竹式期の土坑であろう(第18図3)。

SK14はK3・L4グリッドに位置する。略円状を呈し、規模は95(推定)×80cm、深さ27cmである。長竹式期の土坑であろう(第18図4)。

SK15はL3グリッドに位置し、複合するSK16が先行する。梢円状を呈し、規模は164×102cm、深さ53cmである。覆土最上部から扁平な小形土偶10が出土している。出土土器8から長竹式期の土坑であろう(第18図5~10)。

SK16はL3グリッドに位置する。不正な梢円状を呈し、規模は推定230×220cm、深さ47cmである。出土土器から下野式期の土坑であろう(第18図11~24)。

SK17はL3・M3グリッドに位置する。不正な梢円状を呈し、規模は230×138cm、深さ24cmである。

SK18はN3グリッドに位置する。梢円形を呈し、規模は50×56cm、深さ36cmである。

SK19はN3・4グリッドに位置する。細長い溝状を呈し、規模は445×110~160cm、深さ58cmである。出土土器30・31から下野式期の土坑であろう(第19図28~33)。

SK20はM4グリッドに位置する。梢円形を呈し、規模は70×70cm、深さ30cmである。刻目凸蒂文土器から長竹式期の土坑であろう(第19図34)。

2 古代

該期に属する遺構は、掘立柱建物SB09の1棟及び、溝SD05~07と認識している。溝は灰褐色砂質土を覆土とするものである。

SB09 (第17図)

J3・4、K3・4グリッドに位置する。2間×2間の総柱建物で、規模は4.2×3.4m、面積は14.3m²、桁行方位はN56°Wである。柱間はやや不揃いで、桁行間は南側ではP1~2間2.2m、P2~3間2.0m、中央部ではP4~5間2.2m、P5~6間2.2m、北側ではP7~8間2.2m、P8~9間2.2mである。梁行間は西側ではP1~4間1.75m、P3~6間1.65m、中央部ではP2~5間1.9m、P5~8間1.6m、東側ではP3~6間1.75m、P6~9間1.65mを測る。柱穴掘方は梢円形で、径40~64cmで、深さ31~61cmである。SB09は複合するSD05に先行する。

SD05~07 (第16図)

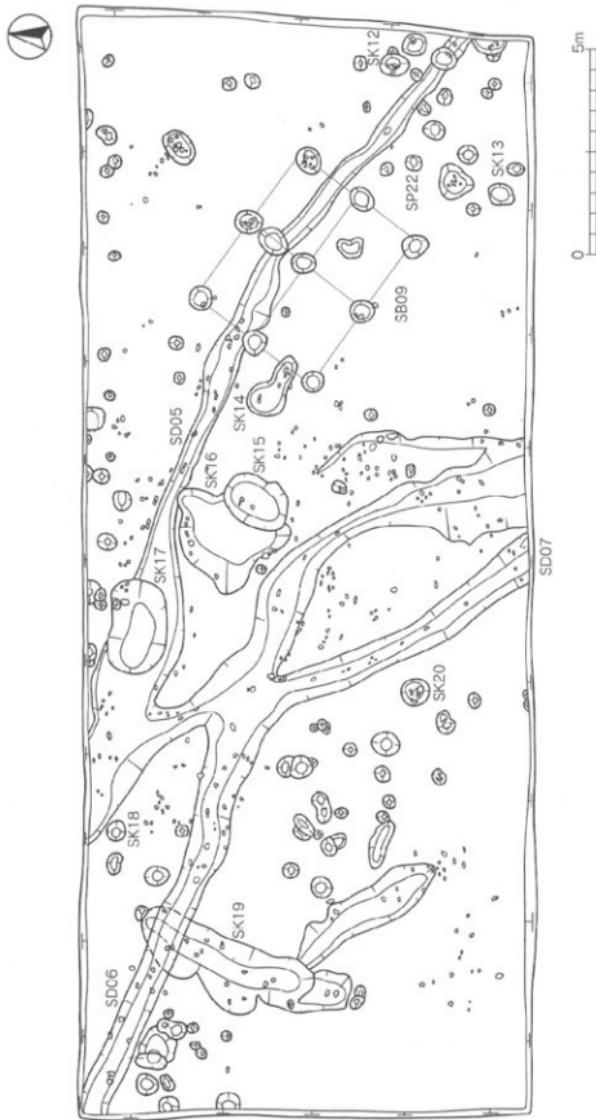
SD05は西北方向からK3グリッドでやや屈折し西北西方向に流下した溝で、大部分は幅50cm前後であるが170cmと広くなる部分もみられる。深さは5cm前後である。

SD06は北北西方向からL3グリッドで屈折し西北西方向に流れた溝で、屈折後はSD05とほぼ平行する。大部分の幅は80~100cmであるが200cmと広くなる部分もみられる。深さは10~18cmである。

SD07は北西方向に流路をもつ溝で、複合するSD05・06が先行する。幅は80~100cm、深さは16cm前後である。

N3グリッドではSD06から北へ1m離れてSD07と同様な灰褐色砂質土から第22図142の須恵器杯が出土している。SD05~07は同様な灰褐色砂質土を覆土とするもので、時期は須恵器142の9世紀後半

第15圖 4區遺跡全體圖 ($S=1/120$)



期頃と推定している。

第2項 遺物

1 繩文時代

1) 土器 (第18~22図・表4)

土器については、実測図を第18~22図に、器種、出土遺構、出土グリッド、層位、法量、備考、遺存部、型式については表4において表記した。なお、土製品は土偶1点であり、土坑上面の出土から第18図で図示した。

文様を有する土器等の型式等については6頁を参照願いたい。

2) 石器・石製品 (第23~29図・表5)

石器・石製品については、実測図を第23~29図に、器種、出土遺構、出土グリッド、層位、法量、分類、備考、石質、遺存率を表5において表記した。石器の分類は6~8頁を参照願いたい。

石器の器種別出土点数は、打製石斧92点、磨石15点、敲石23点、石錐1点、磨製石斧6点、石皿4点、砥石14点、擦切用石器2点、石錐38点、石錐16点、削器4点で、出土合計点数は215点である。

石製品の器種別出土点数は、石棒2点、石刀4点、石剣1点、石冠1点、玉3点で、出土合計点数は11点である。

①打製石斧 (第23・24図1~21) 打製石斧は、92点出土した。完形とほぼ完形はそのうち24点である。

②磨石 (第25図・第26図22~33) いわゆる磨石、敲石・凹石であるが、磨ってあるものを磨石とし、磨っていないものは敲石としている。磨石は15点出土した。完形とほぼ完形はそのうち13点である。

③敲石 (第26図34~42) 磨痕がみられず敲痕のあるものを敲石とした。敲石は23点出土した。完形とほぼ完形はそのうち13点である。

④石錐 (第26図43) 石錐は1点の出土である。

⑤磨製石斧 (第27図44~48) 磨製石斧は、6点出土した。ほぼ完形はそのうち1点である。

⑥石皿 (第27図49~51) 石皿は、4点出土したが、いずれも遺存状態は悪く全体の15%以下程度である。

⑦砥石 (第27図52~57) 砥石は14点出土した。完形とほぼ完形は2点であり、他の遺存率は50%以下程度である。

⑧擦切用石器 (第27図58) 擦切用石器は2点出土した。完形は過去の調査でもみられないことも含め分類は行っていない。

⑨石錐 (第28図59~85) 石錐は38点の出土で、完形とほぼ完形のものは22点である。

⑩石錐 (第28図86~95) 石錐は16点の出土で、完形とほぼ完形のものは11点である。

⑪削器 (第28図96) 削器は4点の出土である。遺存率90%以上は3点である。

⑫石棒・石刀・石剣 (第29図97~102)

石棒は2点の出土である。頭部が遺存する97は石冠かもしれない。98は欠損する断面が円形になるものと考えた。石刀は4点の出土で刀部が遺存する99~102を図示した。102はミネ部がないことから石剣とした。

⑬石冠 (第29図103) 石冠の出土は1点で、147はいわゆる鰐節形である。

⑭玉 (第29図104~106) 玉は3点の出土で、104は長玉、105・106は丸玉である。

2 古代

1) 土器 (第22図142・表4)

須恵器1点が出土しており、遺構の溝で出土状況などを先述した。

表4 4区土器・土製品一覧表 (第18~22回)

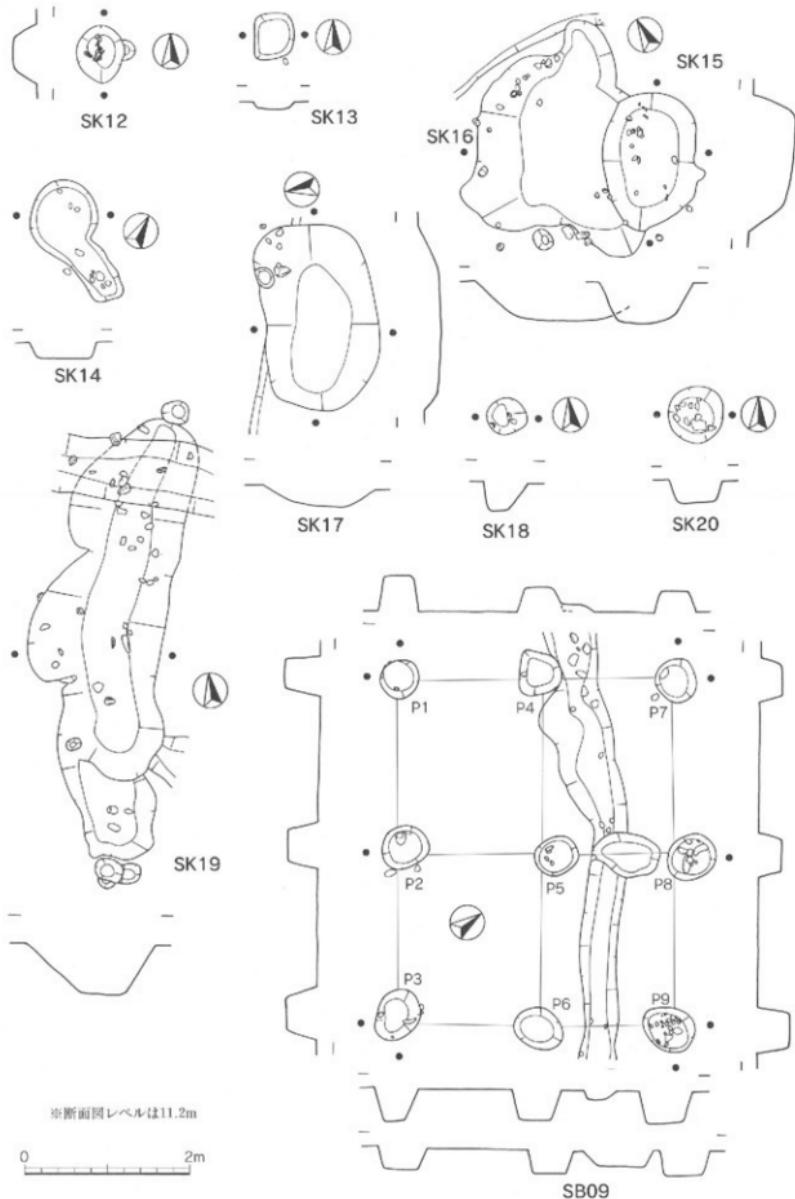
回	番号	器種	出土 遺構	ケリット	部位	法量 (mm)・備考	収存等	時期
18	1	深鉢	SK12	J4	BG	口径230、斜条痕文、口唇面取、外腹スス付着	白綿部	
	2	深鉢	SK12	J4	B	口径330、沈縁押引短斜沈縁文2段、斜条痕文、内外面スス付着	白綿部	長竹
	3	深鉢	SK13	J5	G	列点文帶、新条痕文	白綿部	長竹
	4	浅鉢	SK14	K3		工字文、内面幅広沈縁2条	白綿部	長竹
	5	深鉢	SK15	L3		くの字状口縁、横条痕文	白綿部	中尾3
	6	深鉢	SK15	L3		口唇部刻日文、斜条痕文	白綿部	中尾
	7	深鉢	SK15	L3	2層下	横条痕文、口唇部面取、内面条痕文	白綿部	長竹か
	8	浅鉢	SK15	L3		口径170、底径68、器高48、口縁端端幅広ナデ、底部圧痕、西日本系土器か	白綿部~底部	長竹
	9	底部	SK15	L3		斜条痕文、底部圧痕無	白綿部	
	10	土側	SK15	L3		長67、肩48、厚11、側円板状、	はぼ完形	長竹か
	11	浅鉢	SK16	L3		次彌文、RL彌文	白綿部	丹口2
	12	深鉢	SK16	L3		弧彌文、L彌文	白綿部	下野
	13	浅鉢	SK16	L3		次彌文、口唇部肥厚	白綿部	上野
	14	浅鉢	SK16	L3		口径258、肩径295、底径91、高さ162、口縁下部段、底部圧痕無、西日本系土器か	白綿部~底部	下野
	15	深鉢	SK16	L3		沈縁文界無文帯、縦条痕文のち横条痕文、外腹スス付着	白綿部	下野
	16	深鉢	SK16	L3		LR彌文	白綿部	
	17	深鉢	SK16	L3		LR彌文、外腹スス付着	白綿部	
	18	深鉢	SK16	L3		斜条痕文	白綿部	
	19	深鉢	SK16	L3	2層	内外面斜条痕文	白綿部	
	20	深鉢	SK16	L3		斜条痕文、内面スス付着	白綿部	
	21	深鉢	SK16	L3		横条痕文、口唇部面取、外腹スス付着	白綿部	
	22	深鉢	SK16	L3		縦、斜条痕文、外腹スス付着	白綿部	
	23	深鉢	SK16	L3		無文	白綿部	
	24	底部	SK16	L3		底径55、条痕文、スダレ状丘痕	白綿部	
	25	底部	SK17	N4	G	底径60、疊耗著しい	白綿部	
	26	底部	SK18	N3		底径80、RL彌文、網代丘痕2-2-1	白綿部	
	27	底部	SK18	N3		底径69、無文、圧痕不明	白綿部	
	28	浅鉢	SK19	N3		口径202、突起有(一部欠)、LR彌文帯、押引列点文、赤彩痕	白綿部	中尾2
	29	浅鉢	SK19	N3		LR彌文	白綿部	
	30	浅鉢	SK19	N3		内面端広沈縁2条	白綿部	下野
	31	深鉢	SK19	N3		口唇部押引、横条痕文	白綿部	中尾3~下野
	32	深鉢	SK19	N3		口唇部押引	白綿部	中尾3
	33	底部	SK19	N3		底径91、斜条痕文、網代丘痕不鮮明	白綿部	
	34	深鉢	SK20	M4	G	刻目凸帯、外腹スス付着	白綿部	長竹
	35	蓋	SU22	J4	G	横し字沈縁文、LR彌文、赤彩	白綿部	中尾3
	36	底部	SP22	J4	G	底径98、縦条痕文、網代丘痕2-2-1	白綿部	下野
	37	深鉢		J3	2層	沈縁間刻目文	白綿部	
	38	深鉢		J3	2層	LR彌文	白綿部	
	39	深鉢		J3	2層	沈縁文、LR彌文、補修孔	白綿部	八日市新保
	40	浅鉢		J3	2層	玉粒人繼文、二叉文、LR彌文、焼成前穿孔	白綿部	御料坪
	41	浅鉢		J3	2層	口唇部端帯、LR彌文、赤彩	白綿部	
	42	浅鉢		J3	2層	口唇部押引、沈縁開刻目、赤彩痕、補修孔	白綿部	中尾2
	43	深鉢		J3	2層	斜条痕文、口唇部三角形刻み	白綿部	中尾2
	44	深鉢		J2	2層下	沈縁間刻目、斜条痕文	白綿部	中尾2
	45	浅鉢		J3	2層	列点文帯、LR彌文	白綿部	御料坪3
	46	浅鉢		J3	2層	雲形文、LR彌文	白綿部	下野
	47	浅鉢		J3	2層	口径80、口唇部剥突、LR彌文	白綿部	中尾2
	48	深鉢		J3	2層	口唇剥引、刻文文	白綿部	中尾3
	49	浅鉢		J3	2層	沈縁文、擦糊文	白綿部	中尾2
	50	浅鉢		J3	2層	沈縁文	白綿部	下野
	51	蓋		J3	2層	入組文、LR彌文、赤彩	白綿部	中尾2
	52	蓋		J3	2層	入組、二叉文、LR彌文	白綿部	中尾2
	53	深鉢		J3	2層	短沈縁文、斜条痕文	白綿部	長竹
	54	張		J3	2層	肩部附帶、赤彩	白綿部	長竹
20	55	深鉢		J3	2層	RL彌文、口唇面取	白綿部	
	56	深鉢		J3	2層	口唇押引、横条痕文	白綿部	中尾2
	57	深鉢		J3	2層下	口唇押引、横条痕文	白綿部	中尾1
	58	深鉢		J3	2層下	口唇押引、横条痕文	白綿部	
	59	深鉢		J3	2層	口唇押引、横条痕文	白綿部	
	60	深鉢		J3	2層	斜条痕文	白綿部	
	61	深鉢		J3	2層	瓶文、口唇面取	白綿部	
	62	深鉢		J3	2層	斜条痕文、口唇面取	白綿部	
	63	深鉢		J3	2層	斜条痕文	白綿部	
	64	深鉢		J3	2層	口唇剥引、縦条痕文	白綿部	下野
	65	深鉢		J3	2層	無文	白綿部	
	66	鉢		J3	2層	口径102、小形、内面赤彩痕	底鉢欠	
	67	深鉢		J4	2層	刻目凸帯	白綿部	長竹
	68	深鉢		J4	2層	口唇押引、RL彌文	白綿部	丹口1
	69	深鉢		J4	2層下	斜条痕文	白綿部	中尾3~下野
	70	深鉢		J4	2層	斜条痕文	白綿部	中尾
	71	深鉢		J5	2層	口唇剥引、沈縁文、赤彩痕	白綿部	下野

回	番号	器種	出土 遺構	グリッド	層位	法量 (mm)・備考	遺存等	時期
20	72	深鉢	K3	2層下	口唇刻目、上衣拂文、入組三叉文		口縁部	中層2
	73	浅鉢	K3	2層	沈綱文、桶修孔		口縁部	
	74	浅鉢	SD05 K3	2層	沈綱印刻目、雲形文か、赤彩痕		口縁部	中層2
	75	浅鉢	K3	2層	口唇沈綱		口縁部	下野
	76	蓋	K3		列点文、LR縦文		口縁部	中層2
	77	深鉢	SD05 K3		口唇押印、横条痕文		口縁部	中層2
	78	深鉢	K3	2層	口唇刻目、斜条痕文		口縁部	中層2
	79	深鉢	K3	2層下	口唇刻目、横条痕文		口縁部	中層2
	80	深鉢	K3	2層	斜条痕文		口縁部	中層3～下野
	81	深鉢	K3	2層	口唇・角状刻み、横条痕文		口縁部	下野
	82	深鉢	K4	2層	沈綱印刻み、LR縦文		口縁部	下野
	83	深鉢	K4		口唇刻み、無文		口縁部	
	84	浅鉢	K4	2層下	雲形文、LR縦文		脇部	下野
	85	浅鉢	K4	2層	貼付突起、雲形文か		脇部	下野
	86	深鉢	K4	2層下	横条痕文		口縁部	下野
	87	深鉢	L3	2層	凹綱文、刻目文		口縁部	井戸1
	88	浅鉢	L3	2層	沈綱文		口縁部	八日市新保
	89	深鉢	L3	2層	卷口押片文		口縁部	井戸2
	90	深鉢	L3	2層下	口唇三角状刻み		口縁部	中層2
	91	浅鉢	SD05 L3	砂層	縱条痕文、内面八字状刻み・短沈綱		口縁部	下野
	92	蓋	L3	2層下	沈綱印刻み、LR縦文		口縁部	中層2
	93	浅鉢	L3	2層下	頭綱状隠帶、LR縦文		口縁部	下野
	94	浅鉢	L3	2層	沈綱印刻文、口唇部彫取		口縁部	長竹
	95	浅鉢	L3	2層下	2条沈綱文		口縁部	長竹
	96	浅鉢	L3	2層	口唇部押玉、丁字文か、内面彫花模様3条		口縁部	長竹
	97	深鉢	L3	2層下	版波状、横条前文、内面条痕文		口縁部	
	98	深鉢	L3	2層下	削余痕文、口唇部彫取		口縁部	
	99	深鉢	SD05 L3	砂層	斜条痕文		口縁部	下野
	100	深鉢	L3	2層下	横条痕文		口縁部	
	101	深鉢	L3	2層下	無文		口縁部	
	102	深鉢	L4	2層下	口唇押印、横条痕文		口縁部	中層2
	103	深鉢	L4	2層下	小口唇、無文		口縁部	底落久
	104	小形	L4	砂層	無文、内面折曲痕		口縁部	御絆塚
	105	浅鉢	M3	2層下	小波状、内面弧彎文、二叉文、LR縦文、赤彩痕		口縁部	中層2
	106	深鉢	SD05 M3		突起1対		口縁部	下野
	107	深鉢	SD06 M3	砂層	口唇刻み		口縁部	中層2
	108	蓋	M3	2層下	つまみ形35、刻突文		口縁部	中層2
	109	浅鉢	M3	2層	頭綱状隠帶、前川口画丁字文		口縁部	長竹
	110	蓋	M3	2層	肩部肥厚段部、沈綱文、赤彩		口縁部	長竹
	111	深鉢	SD06 M3	砂層	口唇船底沈綱文、斜条痕文		口縁部	長竹
	112	深鉢	M3	2層下	口唇端彫押印、無文		口縁部	
	113	深鉢	SD05 M3	砂層	口唇刻み、横条痕文		口縁部	
	114	深鉢	M3	2層	無文、口唇面取		口縁部	
	115	深鉢	M3	2層下	口唇短沈綱文、斜条痕文		口縁部	下野か
	116	深鉢	SD05 M3	砂層	艇条痕文		口縁部	下野
	117	深鉢	M3	2層下	沈綱文、斜条痕文		口縁部	長竹
	118	浅鉢	M3	2層	口縁端彫押印ナ・西日本系か		口縁部	下野
22	119	浅鉢	SD06 M4	2層下	工字文、LR縦文、外面スス付着		脇部	下野
	120	深鉢	M4	2層	口唇押印、斜条痕文		口縁部	
	121	浅鉢	N3	2層下	B字状次空、横綱文		口縁部	中層2
	122	浅鉢	N3	2層下	突起、口唇刻み、LR縦文		口縁部	中層2
	123	深鉢	SD06 N3		口唇押印、斜条痕文		口縁部	中層2
	124	蓋	SD06 N3	砂層	つまみ形41～44、側面三角状刻み3		つまみ部	中層2
	125	深鉢	SD06 N3	砂層	口唇・八字状刻み、無文		口縁部	下野
	126	浅鉢	N3	砂層	突起、頭部突起茎		口縁部	下野
	127	深鉢	N3	砂層	頭綱状隠帶		口縁部	長竹
	128	浅鉢	N3	2層	弧線文、口唇面取		口縁部	長竹
	129	深鉢	N3	2層下	内唇押印、LR縦文		口縁部	井戸2
	130	深鉢	N3	2層	横条痕文		口縁部	
	131	深鉢	N3	2層	横条痕文		口縁部	
	132	鉢	N3	2層	無文		口縁部	
	133	深鉢	N3	最下層	口唇押印、横条痕文		口縁部	中層3
	134	深鉢	N3	2層	口唇・八字状刻み、横条痕文		口縁部	下野
	135	浅鉢	N4	2層下	口唇押印		口縁部	
	136	浅鉢	N4	2層	口唇隆帯3、LR縦文		口縁部	中層2
	137	浅鉢	N4	2層	口唇三角状刻み・短沈綱、LR縦文		口縁部	下野
	138	浅鉢	N4	2層	口唇次空文		口縁部	
	139	蓋	O4	2層下	口縁船底沈綱文、口唇面取、赤彩		口縁部	長竹
	140	浅鉢	不測		口唇刻み、沈綱端押印・短沈綱		口縁部	長竹
	141	深鉢	O3	2層下	横条痕文		口縁部	
	142	杯	N3	砂層	弧窓帯、口徑124、底径60、高さ30		口縁部～底部	9世紀後半

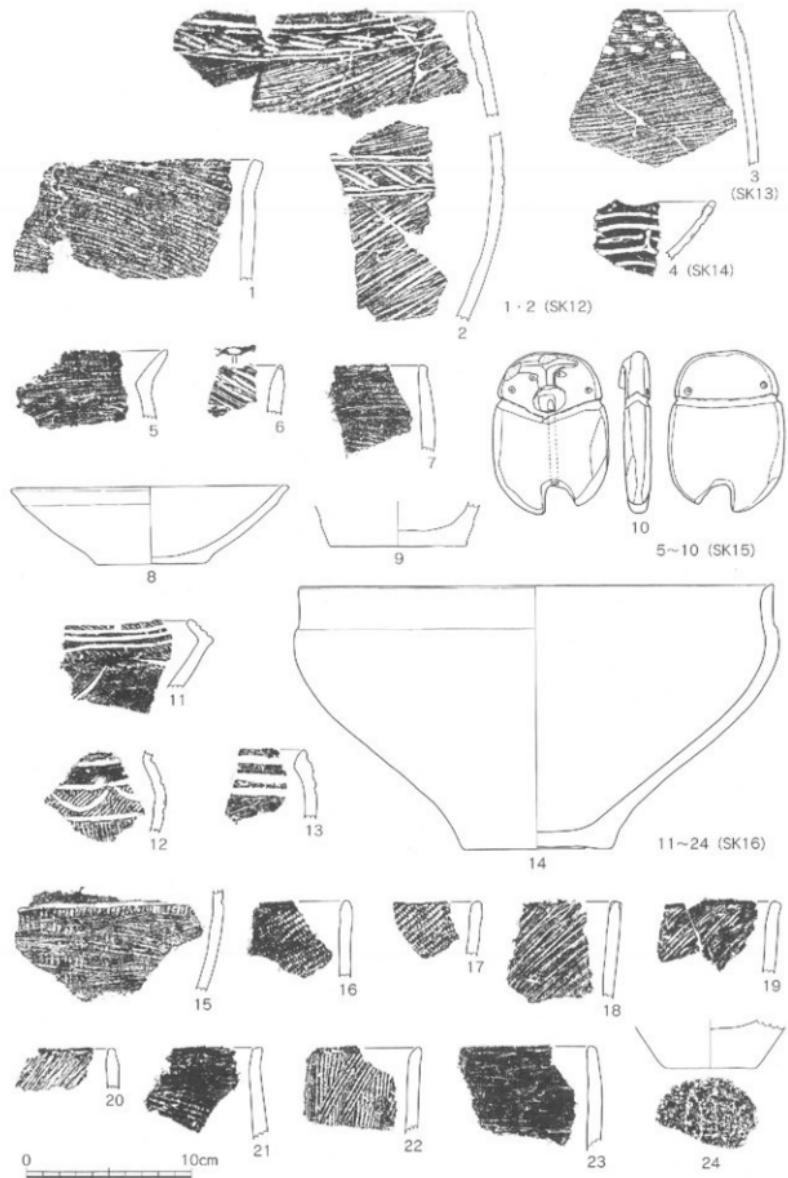
表5 4区石器・石製品一覧表 (第23~29回)

回	番号	器種	出土 遺構	クツ 層位等	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	分類	備考、形態	石質	遺存	
23	1	打製石斧	K3	2層下	178	75	37	552	I 3B	短幅形、刃刃	角岡安山岩	100%	
	2	打製石斧	SK19	N3		113	58	19	(154)	II 2B	橢形、刃刃	中粒砂岩	95%
	3	打製石斧	SD06	L4		92	53	23	(144)	II 2B	橢形、刃刃	火山礫凝灰岩	95%
	4	打製石斧	SK19	N3		154	98	34	(640)	II 2B	橢形、刃刃	仁美安山岩	90%
	5	打製石斧		N3	2層下	146	98	31	520	II 2B	橢形、刃刃	角岡安山岩	100%
	6	打製石斧		N3		144	93	25	432	II 2B	橢形、刃刃	火山礫凝灰岩	100%
	7	打製石斧	SK14	K3		158	81	32	(438)	II 2B	橢形、刃刃	火山礫凝灰岩	95%
	8	打製石斧	SD05	K3		(131)	83	27	(354)	II 2B	橢形、刃刃	火山礫凝灰岩	90%
	9	打製石斧	SD05	M3		125	66	23	(213)	II 2B	橢形、刃刃	火山礫凝灰岩	95%
	10	打製石斧	J3	2層		(116)	62	17	(121)	II 2B	橢形、刃刃	火山礫凝灰岩	95%
24	11	打製石斧		N5	2層下	174	90	29	499	II 2B	橢形、刃刃	安山岩	100%
	12	打製石斧		N4	2層	141	80	29	377	II 2B	橢形、刃刃	綠色凝灰岩	100%
	13	打製石斧	SD06	M3		123	70	32	322	II 2B	橢形、刃刃	火山礫凝灰岩	100%
	14	打製石斧	SK19	N3		184	112	35	(762)	II 2B	橢形、刃刃	火山礫凝灰岩	95%
	15	打製石斧		N3	2層下	(131)	79	33	(360)	II 2B	橢形、刃刃	綠色凝灰岩	90%
	16	打製石斧	L4	2層下	131	79	38	438	II 2B	橢形、刃刃	火山礫凝灰岩	100%	
	17	打製石斧	K4		(108)	73	22	(189)	II 2B	橢形、刃刃	白色凝灰岩	90%	
	18	打製石斧	SD06	L4		138	(83)	25	(294)	II 2B	橢形、刃刃	中粒砂岩(中生代)	80%
	19	打製石斧	K3	2層		(126)	106	30	(373)	II 2B	橢形、刃刃	中粒砂岩(中生代)	90%
	20	打製石斧	J4			(78)	81	30	(195)	II 2B	橢形、刃刃	綠色凝灰岩	80%
	21	打製石斧	K4	2層下	(144)	86	25	(259)	II 2A	橢形、刃刃	火山礫凝灰岩	95%	
25	22	磨石	K3	2層	87	79	23	250	II	磨、凹、橢円形	粗粒砂岩(中生代)	100%	
	23	磨石	N4	2層	122	96	43	740	III	磨、凹、橢円形	粗粒砂岩(中生代)	100%	
	24	磨石	K3	2層下	130	92	45	840	III	磨、凹、橢円形	粗粒砂岩(中生代)	100%	
	25	磨石	K3	2層	78	74	54	390	III	磨、凹、橢円形	中粒砂岩(中生代)	100%	
	26	磨石	L3		100	70	19	170	III	磨、凹、橢円形	白色凝灰岩	100%	
	27	磨石	L3	区画区分 最下層	132	96	37	690	IV	磨、凹、橢、橢円形	中粒砂岩(中生代)	100%	
	28	磨石	L4		116	86	41	680	IV	磨、凹、橢、橢円形	粗粒砂岩(中生代)	100%	
	29	磨石	N4	2層下	111	101	58	1010	IV	磨、凹、橢、橢円形	中粒砂岩(中生代)	100%	
	30	磨石	L3	2層下	(66)	78	45	(360)	IV	磨、凹、橢、橢円形	粗粒砂岩(中生代)	70%	
	31	磨石	N4	2層下	91	77	43	450	IV	磨、凹、橢、橢円形	粗粒砂岩(中生代)	100%	
	32	磨石	J4		101	69	32	310	IV	磨、凹、橢、橢円形	粗粒砂岩(中生代)	100%	
	33	磨石	K4	2層	105	81	31	400	IV	磨、凹、橢、橢円形	粗粒砂岩(中生代)	100%	
	34	敲石	SD06	L4		121	96	20	380	II	凹、敲、橢円形	細粒砂岩(中生代)	100%
	35	敲石	J3	2層下	107	99	38	590	II	凹、敲、橢円形	細粒砂岩(中生代)	100%	
	36	敲石	J3	2層下	109	84	24	340	II	凹、敲、橢円形	粗粒砂岩(中生代)	100%	
	37	敲石	SD06	L5		116	63	40	460	II	凹、敲、橢円形	粗粒砂岩	100%
	38	敲石	K4		118	80	27	380	II	凹、敲、橢円形	安山岩	100%	
	39	敲石	K4	2層	82	(75)	61	(480)	II	凹、敲、凹円形	小粒砂岩(中生代)	85%	
	40	敲石	L3	2層下	78	70	46	360	II	凹、敲、不定形	新開角閃安山岩	100%	
	41	敲石	L3	2層下	67	63	39	(200)	III	敲、凹円形、被燃	変彩安山岩	90%	
	42	敲石	不明		67	58	26	(170)	III	敲、三角形	粗粒砂岩(中生代)	95%	
	43	石錐	N4	2層下	98	61	19	190	A1	打欠・棘、橢円形、横形	角夷安山岩	100%	
27	44	磨製石斧	SD06	N3		(110)	(57)	32	(314)	A1	定角形	片麻岩	70%
	45	磨製石斧	K4	2層	(70)	51	36	(182)	A1	定角形	細粒砂岩(中生代)	50%	
	46	磨製石斧	K4	2層	(79)	(53)	(25)	(135)	A1	定角形	片麻岩	50%	
	47	磨製石斧	不明		(58)	(47)	(31)	(108)	A1	定角形	御嶽岩	50%	
	48	磨製石斧	J4	2層	46	23	9	(17)	A3	定角小形	蛇紋岩	95%	
	49	石盤	J4	2層	(120)	(119)	59	(420)	I B	有縁、棘・凹、橢円形か	粗粒砂岩(中生代)	5%	
	50	石皿	L3	2層下	(142)	(114)	85	(1580)	II B	無縁、棘・凹、橢円形か	火山礫凝灰岩	15%	
	51	石皿	N4	2層下	(141)	(77)	20	(1000)	II B	無縁、棘・凹、橢円形か	石英安山岩	5%	
	52	砥石	K3	2層下	(117)	(85)	62	(850)	I A	有潤、長槽凹形	粗粒砂岩	30%	
	53	砥石	K4	2層	(63)	21	13	(30)	I E	台溝、不定形	細粒砂岩(中生代)	80%	
	54	砥石	K3	2層下	71	61	23	190	IYC	經溝、長方形	中粒砂岩(中生代)	100%	
	55	砥石	SD05	M3		(97)	(71)	21	(190)	I C	無潤、橢円形	細粒砂岩(中生代)	50%
	56	砥石	J3	2層	(80)	(60)	17	(120)	I C	無潤、橢円形	粗粒砂岩(中生代)	30%	
	57	砥石	N4	2層下	(71)	39	10	(50)	IIC	無潤、長方形	細粒砂岩(中生代)	50%	
	58	擦切用石器	M3	2層下	(69)	47	5	(34.6)	直刃	細粒砂岩(中生代)	50%		
28	59	石鑿	K3	2層下	(24)	14.5	4	(0.9)	A1	凹基無茎、三角形	プリント	95%	
	60	石鑿	J3	2層	(21.5)	(14.5)	2.5	(0.8)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	80%	
	61	石鑿	K4	2層	(39)	16	4	(2.5)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	95%	

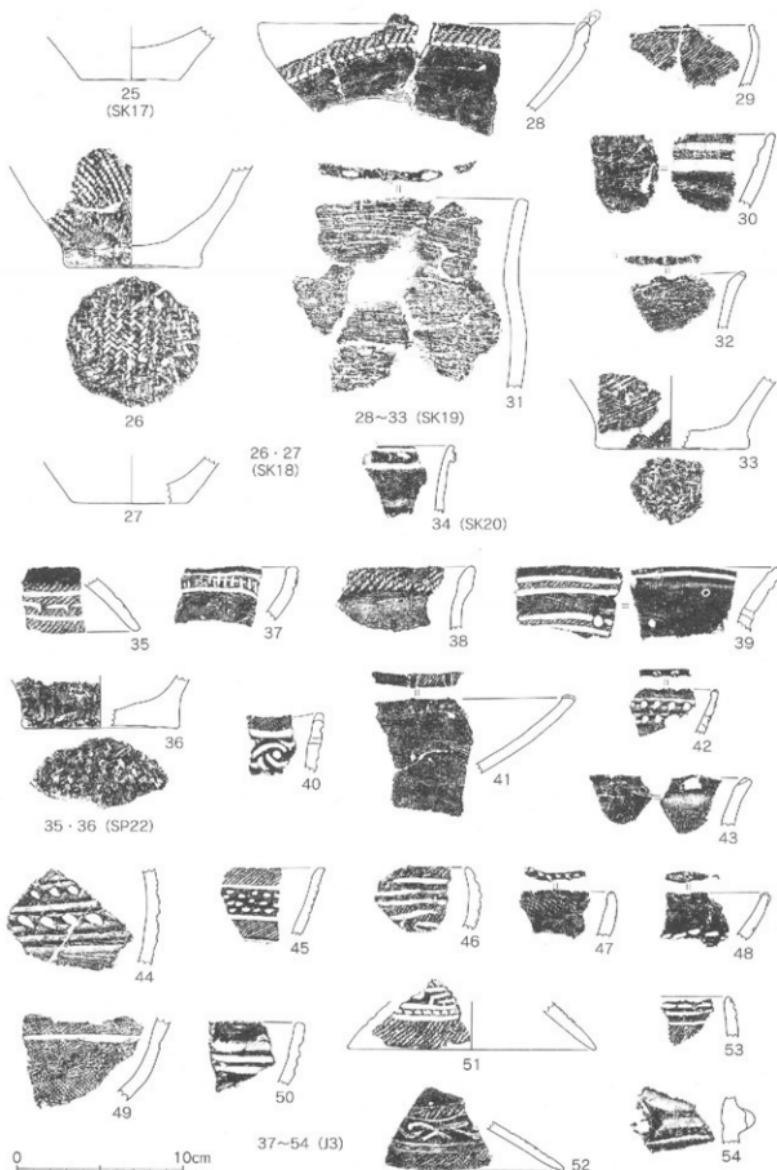
図 番号	器種	出土 遺構	層位 別	層位等	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	分類	備考・形態	石質	遺存
28	石鏡	J3	2層		30	(19)	5	(2.5)	A1	四基無茎、三角形	輝石安山岩	80%
	石鏡	K3	2層		23	(18.5)	3	(1.6)	A1	四基無茎、三角形	輝石安山岩	95%
	石鏡	J3	2層		21	14	3	0.9	A1	四基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	石鏡	不明			19.5	14.5	4	0.9	A1	四基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	石鏡	M3	2層		29.5	20.5	5.5	3.2	A1	四基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	石鏡	I4	2層下		26	17.5	3	1.9	A1	四基無茎、三角形	流紋岩	100%
	石鏡	K4	2層		(28.5)	21.5	3.5	(2.2)	A1	四基無茎、三角形	輝石安山岩	60%
	石鏡	K3	2層下		23	17	2	(1.2)	A1	四基無茎、三角形	輝石安山岩	90%
	石鏡	J3	2層		21	(11.5)	3	(0.8)	A1	四基無茎、三角形	輝石安山岩	85%
	石鏡	J4	2層		20.5	15.5	3	0.9	A1	四基無茎、三角形	フリント	100%
	石鏡	K4			22	14	1.5	0.7	A1	四基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	石鏡	O3	砂層		21	12	3	0.9	A1	四基無茎、三角形	フリント	100%
	石鏡	不明			18	14.5	4	1.1	A1	四基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	石鏡	L4	2層		19	18	2	(1.1)	A1	四基無茎、三角形	輝石安山岩	95%
	石鏡	L4	2層		14	12.5	2	0.5	A1	四基無茎、三角形	フリント	100%
	石鏡	K3	2層下		19	16	3	1.0	A3	四基無茎、五角形	メノウ質フリント	100%
	石鏡	SD06 L4	2層		27.5	19.5	5.5	(2.9)	A3	四基無茎、五角形	輝石安山岩	95%
	石鏡	J3	2層		(26.5)	16.5	3	(1.6)	A3	四基無茎、五角形	輝石安山岩	95%
	石鏡	K4	2層下		22	16	5	1.7	A3	四基無茎、五角形	輝石安山岩	100%
	石鏡	J3	2層		20	16	3	1.4	A3	四基無茎、五角形	輝石安山岩	100%
	石鏡	L3	2層下		14.5	13.5	2	0.6	A3	四基無茎、五角形	輝石安山岩	100%
	石鏡	N3	2層		(30)	21	6	(4.2)	A4	平基無茎、五角形	輝石安山岩	95%
	石鏡	N4	2層下		27.5	19.5	6	(3.4)	C2	四基無茎、三角形	輝石安山岩	60%
	石鏡	J3	2層		(22.5)	21	6.5	(3.8)	C2	四基無茎、三角形	輝石安山岩	95%
	石錐	J3	2層		46	9	6	3.2	Alb	両端尖、棒状	メノウ質	100%
	石錐	SK16 L3			(37.5)	13	6	(3.9)	Alb	両端尖、棒状	フリント	95%
	石錐	M3	2層		33	10	7	2.2	Alb	両端尖、棒状	輝石安山岩	100%
	石錐	J3	2層		32	7	4	0.8	Alb	両端尖、棒状	輝石安山岩	100%
	石錐	不明			22	7	2	0.5	Alb	両端尖、棒状	フリント	100%
	石錐	J4			(23)	6	2	(0.4)	A・B	棒状、先端部のみ	フリント	30%
	石錐	SD05 L3			(23)	13	9.5	(2.7)	B2	透か木加工、有頭棒状	メノウ質	50%
	石錐	K4	2層		(22)	15	5	(1.7)	D1	全体加工、三角形	輝石安山岩	90%
	石錐	O4	2層		(19.5)	12.5	3	(0.9)	D1	全体加工、三角形	輝石安山岩	95%
	石錐	SD05 J4			22.5	(21.5)	5.5	(2.4)	D1	全体加工、三角形	輝石安山岩	95%
	石錐	SD05 K3			33	19	6.5	(3.8)			輝石安山岩	95%
29	石錐	M3	2層下		(73)	41	33	(120)			矽化頁岩	20%
	石錐	不明			(65)	37	(14)	(49)			黒色頁岩	5%
	石刀	L3	2層下		(102)	25	17	(72)			凝灰岩	20%
	石刀	J3			(89)	23	15	(53)			白色凝灰岩	20%
	石刀	J3			(65)	20	(7)	(15)			黒色頁岩	5%
	石劍	J3	2層下		(45)	28	15	(31)			粒板岩	5%
	石冠	SD07 M4			(67)	26	61	(101)			白色凝灰岩	20%
	丸玉	SK15 L3			(23)	8.0	(4)	(1.1)			グリーンタフ	20%
	丸玉	M4	2層下		5.0	8.5	8.0	0.7			含ヒスイ珪質岩	100%
	丸玉	L3	2層		5.5	7.5	7.5	0.6			含ヒスイ珪質岩	100%



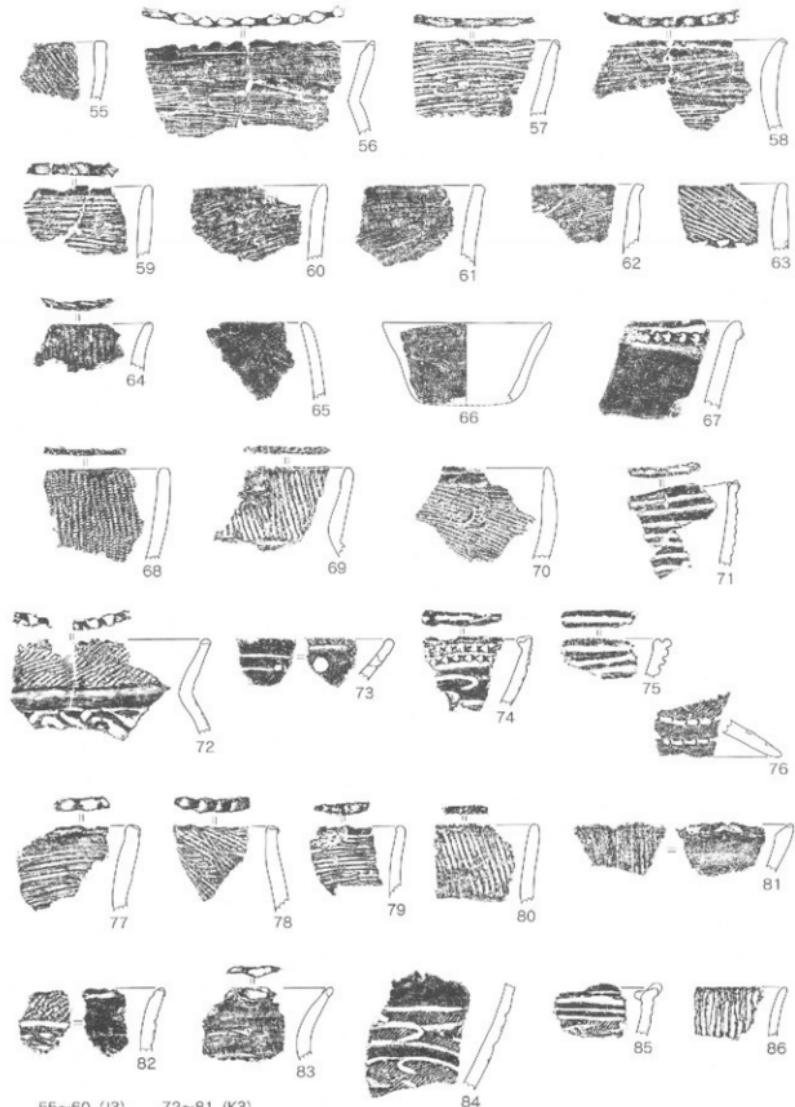
第17図 4 1X造構図 (S = 1/60)



第18図 4区出土土器 1 ($S=1/60$)・10:土偶 ($S=1/2$)



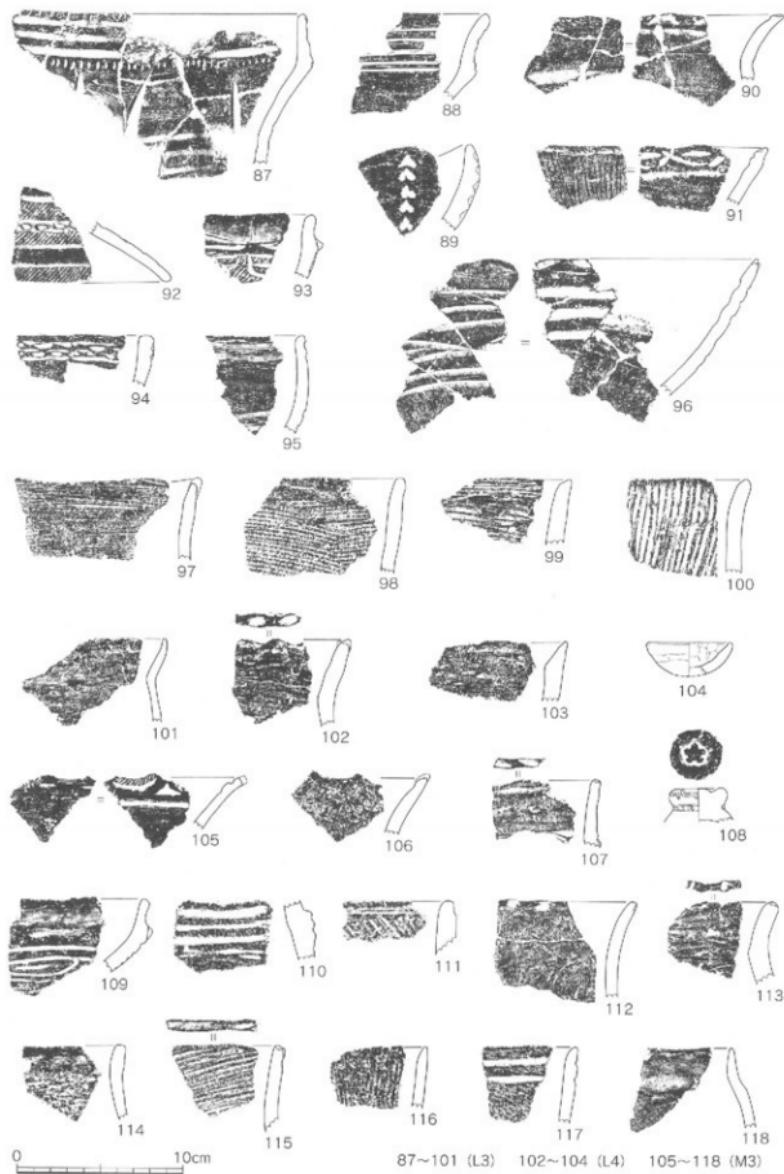
第19図 4区出土上器2 (S=1/3)



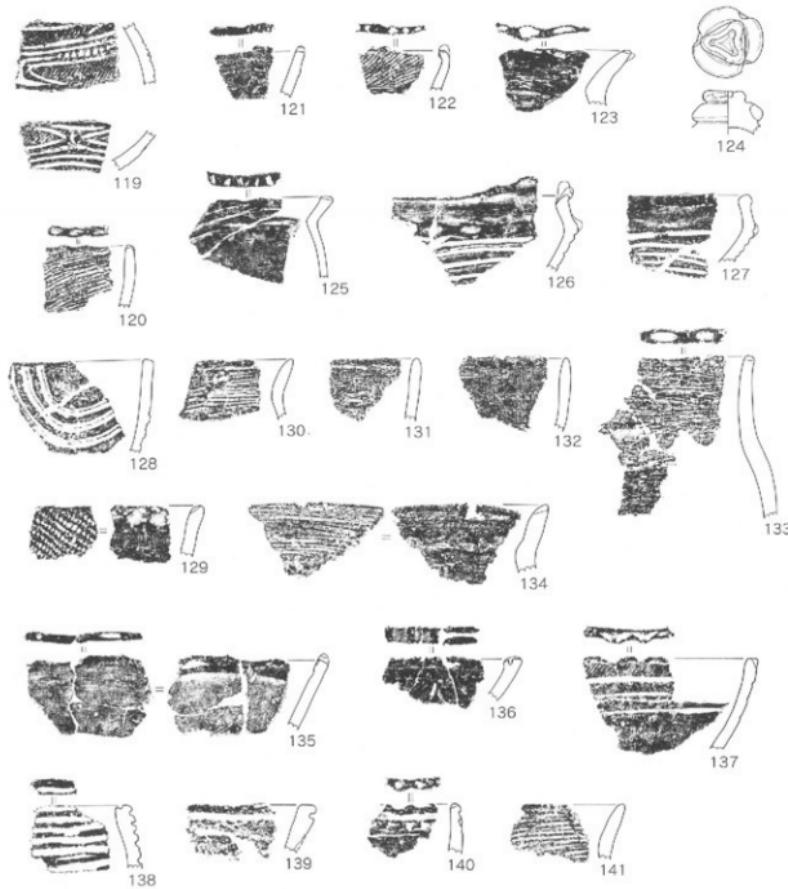
55~60 (J3) 72~81 (K3)
67~70 (J4) 82~86 (K4)
71 (J5)

0 10cm

第20圖 4区出土土器3 (S= 1/3)



第21図 4区出土土器4 (S=1/3)



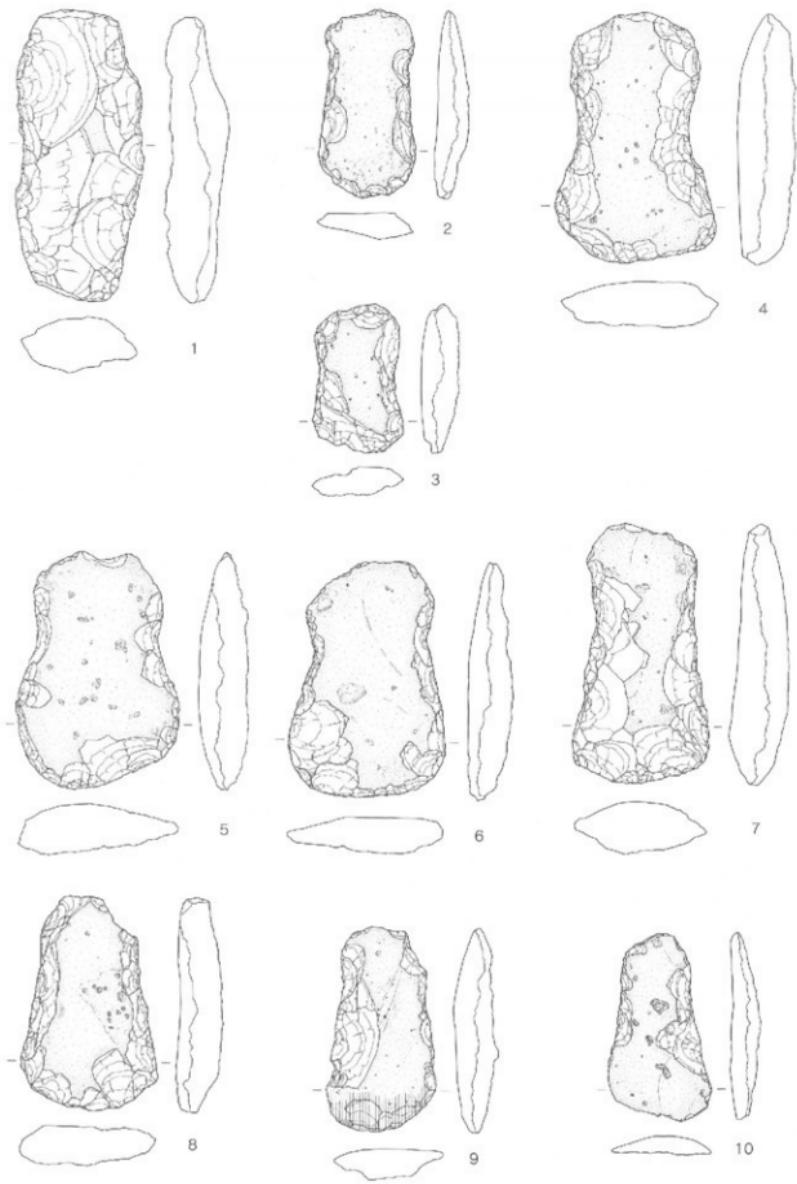
119~120 (M4) 121~134 (N3) 135~138 (N4) 139 (O4) 140 (不明) 141 (O3)



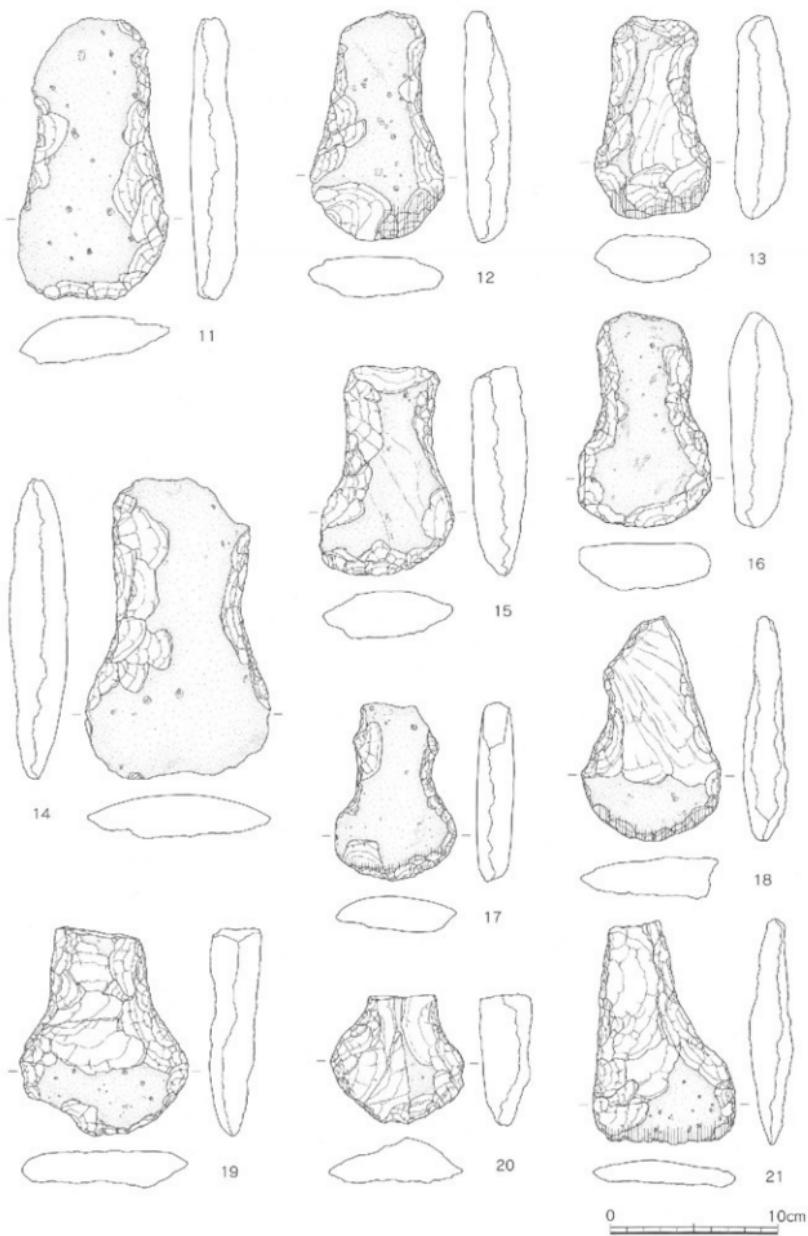
142 (N3)

0 10cm

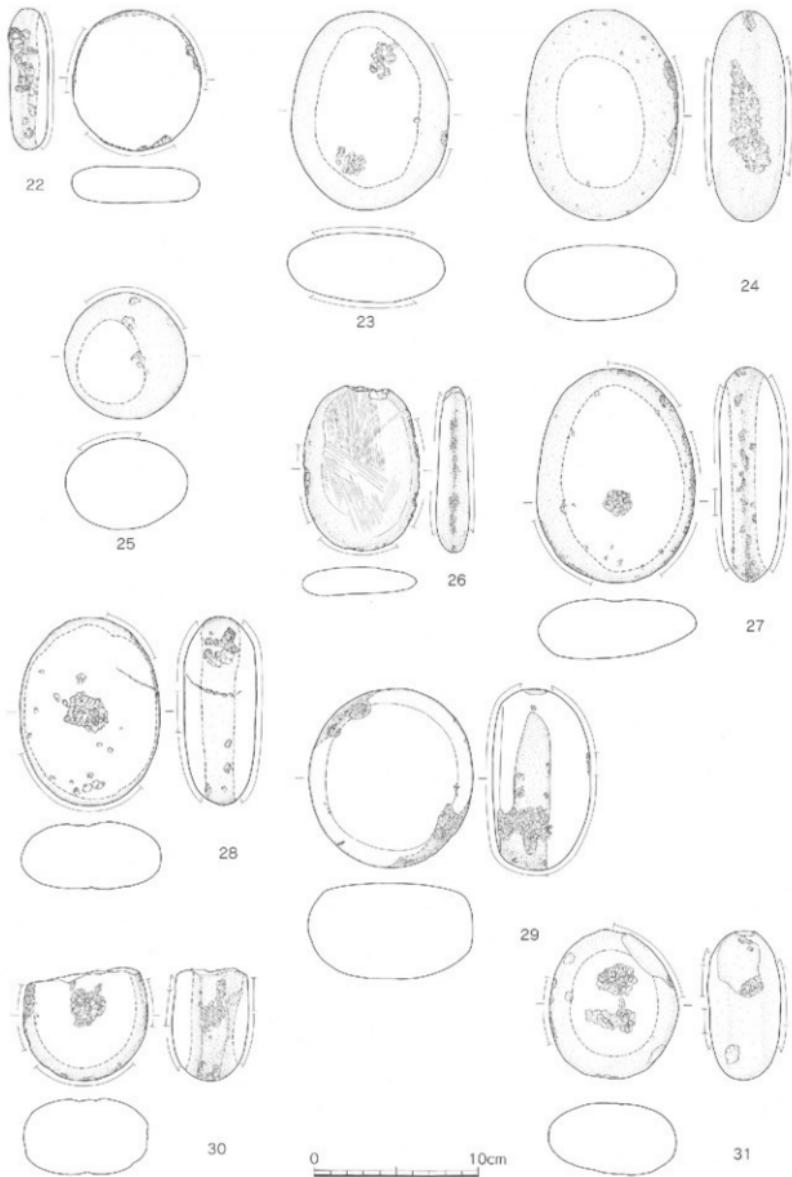
第22図 4区出土土器5 (S=1/3)



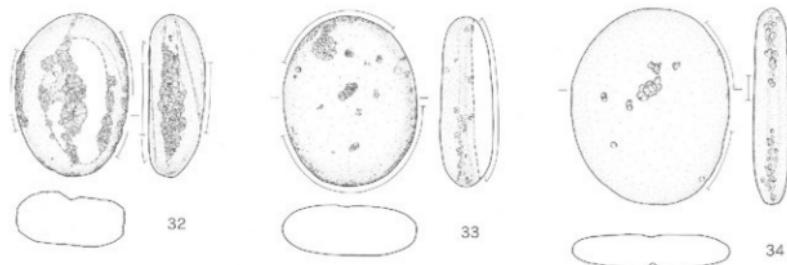
第23図 4区出土石器1 (S=1/3)



第24圖 4區出土石器 2 (S=1/3)



第25図 4区出土石器3 (S=1/3)

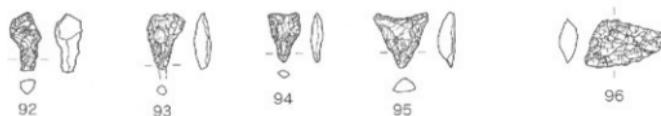
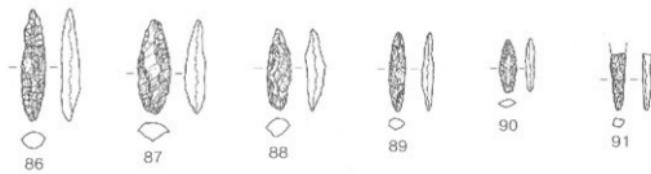
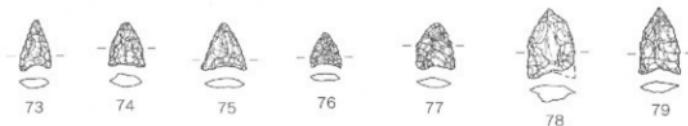
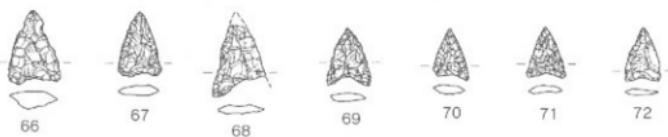
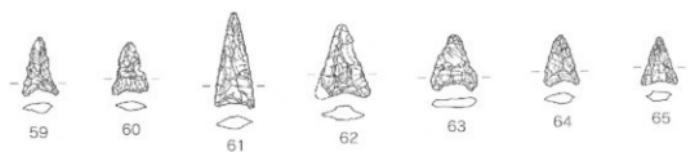


0 10cm

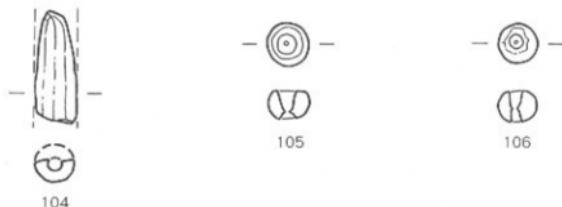
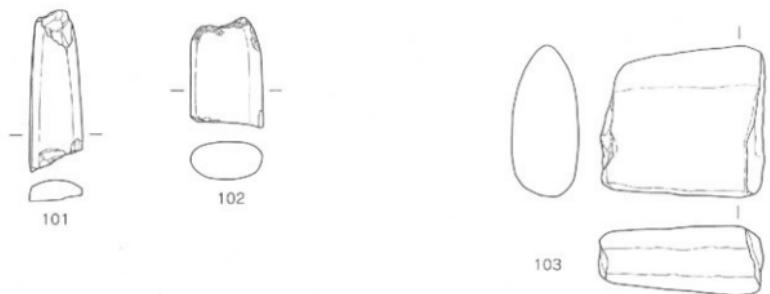
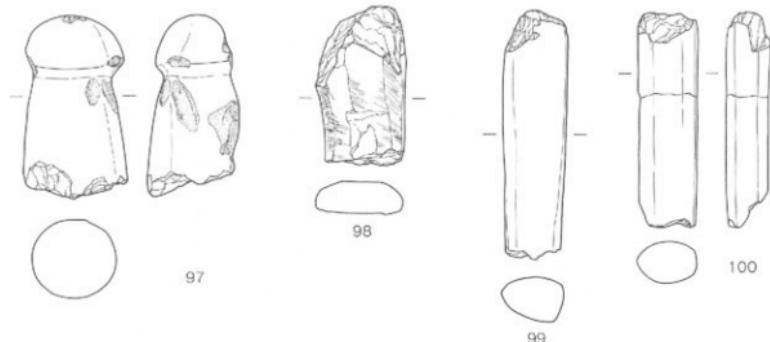
第26図 4区出土石器4 (S=1/3)



第27図 4区出土石器5 (S=1/3)



第28図 4区出土石器 6 (S = 1/2)



第29図 4区出土石製品 97~103 (S=1/2) 104~106 (S=1/1)

第3章 3・4区調査の総括

1 繩文時代

調査区における主な遺構は、土坑17基、横位の埋設土器1基である。遺構密度は史跡指定地北側のブナシ地区と比較して低く、集落における本調査区の位置は、縁辺域付近にあたる。また、本調査区南側でも同様な状況を呈し、遺構密度がさらに低くなることもその状況を示していよう。

出土土器の状況は、わずかであるが後期～晚期前半のものも含むが、主体は晚期後半の中屋3式・下野式・長竹式期で、ほとんどの遺構の所属も該期である。中屋3式以降から深鉢は文様の簡素化が始まり、西日本の影響の受容が想定され、集落の同地区での下野・長竹式期への移行となっていくことが考えられよう。また、第18図2などの長竹式後半期の上器が最終時期となる。3・4区では建物の分布はみられず、この地区以南では、埋設土器と土坑が確認される。本地区以南は、晚期後半期の墓域と理解したい（野々市町教委2003）。

2 弥生時代

調査区における当該時期の遺構は少なく、掘立柱建物2棟、土坑3基、区画溝1基である。遺物の時期から月影2～白江式期と考えられる。北東方向に流路をもつ旧河床が遺跡を二分するように位置することから、本期の遺構は、ツカダ地区集落の分布域に含まれるものと考えたい（野々市町教委1984・1989）。

3 古代

調査区における当該時期の遺構は少なく、掘立柱建物1棟、溝5条である。2×2間の總柱となる掘立柱建物は、軸方位がツカダ地区（野々市町教委1989）のC群である15号住居・6号掘立と同じくすることから7世紀代の時期が与えられよう。溝については、4区の調査で報告したように、近接した須恵器の時期から9世紀後半頃と推定している。

参考・引用文献

- 植田 文雄 1999 「遺物研究 石皿・磨石・磁石（四石）」『縄文時代文化研究の100年 第4分冊 遺物研究』
縄文時代文化研究会
小島 俊彦・西野 秀和・酒井 重洋 1994 「北陸の十箇編年－後期後半-晚期中葉」『縄紋晚期前葉-中葉の広域編年』
林謙作編
酒井 重洋 2008 「中原式土器」・「下野式土器」『總覽 縄文土器』小林達雄編『總覽 縄文土器』刊行委員会
鈴木道之助 1981 「国譜 石器の基礎知識」『総覽』柏書房
高橋 藤昌 1964 「金沢市近郊八日市新保並びに御経塚遺跡の調査」『石川県押野村史』押野村史編集委員会
高橋 勝彦 1975 「石川県御経塚跡第6次調査概報」野々市町教育委員会・御経塚遺跡調査会
川崎 明人 2006 「白江式」再考「古岡康暢先生古希記念論集 御経塚の社会史」柏書房
親師 篤・野村 忠司ほか 1996 「諏津遺跡発掘調査報告書」『叢書編』中郷村教育委員会
西野 秀和 1989 「金沢市米泉遺跡」石川県立埋蔵文化財センター
西野 秀和 2008 「御經塚式土器」『總覽 縄文土器』小林達雄編『總覽 縄文土器』刊行委員会
布尾 和史 2003 「第5章第1節御経塚遺跡における建物跡の検討」『御経塚遺跡III』野々市町教育委員会
野々市町教育委員会 1983 「野々市町御経塚遺跡」野々市町教育委員会
野々市町教育委員会 1984 「野々市町御経塚・ツカダ遺跡(御経塚B遺跡)発掘調査報告書！」
野々市町教育委員会 1989 「御経塚跡II」
野々市町教育委員会 2003 「御経塚遺跡III」
久田 正弘 1998 「北陸地方西端の土器の動き」『水道跡発掘調査資料図譜第三回：水道跡発掘調査資料図譜刊行会』
久田 正弘 2004 「北陸西端の晚期中葉の様相」『晚期中葉の再検討』縄文セミナーの会
湯尻修平他 1976 「野々市町御経塚遺跡調査(第8回)概報」石川県教育委員会
湯尻修平 1983 「加賀・能登における掘立柱建物の類型と性格」『東大寺横江土塹跡』松任市教育委員会・石川考古学研究会
南 久和 2001 「縄年」南書会
宮下 健司 1983 「有輪磁石」『縄文文化の研究7 道具と技術』雄山閣
矢島 國雄・前山 精明 1983 「石臼」『縄文文化の研究7 道具と技術』雄山閣
吉田 淳 2006 「第1章第1節4 四輪文から弥生へ」『野々市町史 通史編』野々市町

第4章 補遺編

第1節 遺物

本節は、過去の調査報告書で未掲載となっていた土器、土製品、石器、石製品について第30～41図及び写真図版11～14に示したものである。なお、第37図石器類の写真は掲載していない。また、参照されたい報告書は、表6の冒頭で記し(①～⑥)、各遺物表の行末尾に示した。

1 土器(第30・31図、表6)

報告する土器は、深鉢5点、浅鉢5点、注口土器1点、蓋2点、底部1点の計14点である。表6において、器種、調査次、出土遺構、出土地点、層位等、法量、備考、時期、遺存率を表記した。

2 土製品(第32～36図、表7)

報告する土製品は、土偶14点、玉1点、土製円盤104点の計119点である。表7において、器種、調査次、出土遺構、出土地点、層位等、法量、備考、時期、遺存率を表記した。

3 石器(第37図、表8)

報告する石器は、石匙3点、削器12点、三脚石器1点、異形石器1点の計17点である。表8において、器種、調査次、出土遺構、出土地点、層位等、法量、備考、石質、遺存率を表記した。

4 石製品(第38～41図、表9)

報告する石製品は、石冠32点、穿孔石製品1点、岩版1点、垂飾(35～40)6点、玉(41～59)19点の計59点である。表8において、器種、調査次、出土遺構、出土地点、層位等、法量、備考、石質、遺存率を表記した。

表6 土器一覧表(第30・31図)

*調査次は、第1章 表1調査一覧表参照

*参考照報告書 ①石川県教育委員会 1973「野々市町御経塚遺跡」 ②石川県教育委員会 1976「野々市町御経塚遺跡調査(第8次)概報」

③野々市町教育委員会 1983「野々市町御経塚遺跡」 ④野々市町教育委員会 1989「御経塚遺跡Ⅲ」

⑤野々市町教育委員会 2003「御経塚遺跡Ⅲ」

団	番号	器種	調査次	出土遺構	出土地点	層位等	口径 (mm)	縦径 (mm)	底・ 筒径 (mm)	備考	遺存等	時期	遺存率	参考 照報告 書
30	1	深鉢	Ⅲ7		J-22	S-4	243	183	58	204 4段状、一字文、卷貝八字状 押圧文、押圧點付文	口縁～底 部	井口2	95%	③
	2	浅鉢	Ⅲ7		J-22	S-3・4	238	—	28	89 4段波状、沈線文、方形状押 圧、赤彩	口縁～底 部	井口2	60%	③
	3	浅鉢	Ⅲ7		I-23	S-3	238	—	54	88 4段状、平底方形、内面沈線 文、莉突文、外面沈線文、 円文、内外赤彩	口縁～底 部	井口2	60%	③
	4	蓋	Ⅲ7		No156		51	—	—	19 無文、円孔1	口縁～頂 部	中層か	90%	③
	5	深鉢	Ⅲ7		K-25		338	—	—	(336) 粗製、平縁、口唇部・側部 全面RL範文	底部欠損	井口1	80%	③
	6	深鉢	Ⅲ7		I-29		320	348	80	477 粗製、口唇全面押圧文、RL 範文全面施文	口縁～底 部	井口2	70%	③
	7	深鉢	Ⅲ7		M-21	S-3Z	395	369	—	(348) 粗製、斜条痕文、口唇刻目文	口縁～側 下半部	中層3	40%	③
31	8	注口土器	Ⅲ6		B-2	S-5	—	158	56	(110) 四線文、卷貝押圧文	口縁欠 注口一部 欠損	井口1	40%	③
	9	浅鉢	Ⅲ6		不明		332	—	58	134 平縁、沈線文	口縁～底 部	井口2	30%	③
	10	浅鉢	Ⅲ6	B22D・ 30P			148	149	—	70 丸底、沈線文	口縁～底 部	中層3	50%	③
	11	蓋	Ⅲ6	B110P			90	—	33	28 鰐の子文、LR織文器、円孔2	口縁～側 部	中層3	60%	③
	12	浅鉢	不明				184	194	30	98 平縁、菱形文、連絡三叉文、 弧線文、補修孔1	口縁～側 部	八日市 新保2	60%	③
	13	深鉢	16次		F-10	2層下	160	—	68	115 平縁、粗製、斜条痕文	口縁～底 部	中層3	90%	④
	14	深鉢底部	Ⅲ7		G-8	S-2	—	—	93	(59) 底部織痕、斜条痕文	底部のみ			③

表7 土製品一覧表(第32~36回)

※調査次は、第1章 表1調査一覧表参照

回	番号	器種	調査次	出土十 遺物	出土地点	層位等	高・長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考	時期	遺存率	参考報告
32	1	土偶	旧7	不明			(33)	(35)	(24)		脚部			③
	2	土偶	旧9	21Cト ンチ	3層	(38)	(32)	28		頭部			③	
	3	土偶	旧7	M-25	S-1	(31)	(26)	(20)		頭部			③	
	4	土偶	旧7	M-26	S-1	(44)	(60)	(20)		胸骨			③	
	5	土偶	旧7	H-22	S-3	(38)	(21)	(22)		腰帶			③	
	6	土偶	旧7	I-22	S-4	(53)	(19)	20		胸骨			③	
	7	土偶	5	A-10	黒色上上面	(79)	(30)	25		頭部、2片接合			③	
	8	土偶	5	b-3		(38)	(48)	40		頭部、赤彩痕			③	
	9	土偶	旧16	F-0	S-4	(33)	(38)	22		頭部、赤彩痕	御経塚		③	
	10	土偶	4	B-13		(37)	23	19		頭部		①・③		
	11	土偶	17	I-2	3	(55)	(68)	(24)		胸部	晩期		④	
	12	土偶	16	K2	S-4上	(66)	(69)	21		頭・脚部			④	
	13	土偶	16	C2	2層上	(50)	31	26		脚部			④	
	14	土偶	16	B3	3層	(54)	(34)	(25)		脚部			④	
	15	玉	不明	不明		26	12	12	2.4	齊狀		100%	③	
33	16	土製円盤	3	A-1・6	墨下	52	43	7	21.1	条痕文		100%	③	
	17	土製円盤	3	A-8	墨下	44	41	6	13.5	条痕文		100%	③	
	18	土製円盤	3	A-8	墨下	46	42	5	13.5	条痕文		100%	③	
	19	土製円盤	3	A-9	墨上・上層	39	36	6	13.2	条痕文		100%	③	
	20	土製円盤	3	A-9・10	墨下	34	33	6	11.0	無文		100%	③	
	21	土製円盤	3	溝	A-9・10・上層	38	32	6	10.5	無文		100%	③	
	22	土製円盤	3	A-11・12	包含黒土層	47	47	6	20.7	LR縦文	中層	100%	③	
	23	土製円盤	3	B-7		32	29	6	8.0	RL縦文		100%	③	
	24	土製円盤	3	E-10・11	落込み	41	36	6	13.1	条痕文		100%	③	
	25	土製円盤	3	F-7	墨下	34	34	7	12.3	無文		100%	③	
	26	土製円盤	3	F-9	墨土下層	55	50	7	20.2	沈線文		100%	③	
	27	土製円盤	3	不明	表掛土上	35	34	5	8.5	無文		100%	③	
	28	土製円盤	3	H-3	墨土上層	66	62	10	57.1	無文 底部部使用		100%	③	
	29	土製円盤	3	溝	I-4	33	29	7	10.8	無文		100%	③	
	30	土製円盤	3	E-12・13	黒色墨下	43	35	8	16.5	条痕文		100%	③	
	31	土製円盤	5	C-10		36	33	5	9.4	無文		100%	③	
	32	土製円盤	5	9D		37	34	7	13.8	無文		100%	③	
	33	土製円盤	5	9D		31	28	4	5.9	無文		100%	③	
	34	土製円盤	5	E-12	黒色下層	34	32	6	9.6	無文 円孔径5		100%	③	
	35	土製円盤	5	E-12	墨上	40	38	6	9.5	無文 円孔径4(焼成前)		100%	③	
	36	土製円盤	2	No13		50	50	5	18.9	無文		100%	③	
	37	土製円盤	5	H-9	黒色上面	45	44	5	17.9	無文 円孔径3		100%	③	
	38	土製円盤	5	15D		34	32	8	8.3	縦文		100%	③	
	39	土製円盤	5	No561		40	39	6	10.7	無文 円孔未貫通		100%	③	
	40	土製円盤	4	A-6		39	36	5	9.4	T字状三文	御経塚	100% ①・③		
	41	土製円盤	4	A-8		33	30	5	7.2	口縁部使用、LR縦文	中層	100% ①・③		
	42	土製円盤	4	ピット内 A-9		48	45	8	21.9	無文		100% ①・③		
	43	土製円盤	4	A-16		47	39	8	19.8	無文		100% ①・③		
34	44	土製円盤	4	A-13		45	44	5	16.7	無文		100% ①・③		
	45	土製円盤	4	A-16		45	39	7	11.1	条痕文		100% ①・③		
	46	土製円盤	4	B-9		30	27	9	11.5	無文		100% ①・③		
	47	土製円盤	4	B-11		55	51	6	30.9	無文		100% ①・③		
	48	土製円盤	4	B-12		50	45	9	26.2	条痕文		100% ①・③		
	49	土製円盤	4	B-16		42	40	6	11.8	無文		100% ①・③		
	50	土製円盤	旧6	B57D		40	40	9	17.2	無文		100% ③		
	51	土製円盤	旧16	B56D		31	28	7	6.1	条痕文		100% ③		
	52	土製円盤	旧6	B56D		60	48	8	28.3	LR縦文	中層	100% ③		
	53	土製円盤	旧16	B41P		52	45	7	20.1	LR縦文		100% ③		
	54	土製円盤	旧6	C-5・6	S-3	32	47	7	16.6	条痕文		100% ③		
	55	土製円盤	旧16	D-0・1	S-3	43	41	5	11.7	無文 円孔径3		100% ③		
	56	土製円盤	旧16	E-3	S-1	44	39	4	13.4	三叉文	御経塚	100% ③		
	57	土製円盤	旧16	E・F-4	S-2下(3)	58	51	6	21.0	無文 円孔径4		100% ③		
	58	土製円盤	旧16	E-5	S-2	43	39	5	12.6	無文		100% ③		

国	番号	樹種	測定次	出土遺物	出土土地点	層位等	高・長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考	時期	残存率	参照報告書	
34	59	土製円盤	II16		F-5	S-1	62	58	10	38.9	無文		100%	③	
	60	土製円盤	II16		F-7	S-2	40	38	6	14.6	列点文、LR縞文	中屋	100%	③	
	61	土製円盤	II16		G-8	S-2	40	38	8	14.8	無文		100%	③	
	62	土製円盤	II16	2号住			33	33	7	11.0	無文		100%	③	
	63	土製円盤	II16		H-8	S-2	43	41	8	20.6	条縞文		100%	③	
	64	土製円盤	II16		H-8	S-2	48	40	7	20.3	無文		100%	③	
	65	土製円盤	II16		H-8	S-1	41	39	6	10.8	無文 円孔径3		100%	③	
	66	土製円盤	5	63号土坑			52	47	5	18.4	無文 円孔径6		100%	③	
	67	土製円盤	5	63号土坑				24	20	5	3.1	無文 円孔径4		100%	③
35	68	土製円盤	5		No.1107		46	46	6	12.9	無文 円孔径5		100%	③	
	69	土製円盤	5		No.1007		57	51	5	20.8	無文 円孔径4		100%	③	
	70	土製円盤	II16		不明		41	35	7	15.7	無文		100%	③	
	71	土製円盤	II16		不明		38	35	7	11.6	無文 赤彩痕		100%	③	
	72	土製円盤	II16		不明		35	33	7	9.2	沈縞文		100%	③	
	73	土製円盤	II18		A-I	黒色土下層	38	38	6	11.3	無文		100%	③	
	74	土製円盤	II17		L-23	S-3	45	43	10	20.7	条痕文		100%	③	
	75	土製円盤	II17	196D			42	35	6	14.5	無文		100%	③	
	76	土製円盤	II17	183D			41	37	7	15.6	無文 円孔未貫通		100%	③	
	77	土製円盤	II17	183D			30	27	6	6.1	無文		100%	③	
	78	土製円盤	5	E-11	黑色土		40	36	5	10.4	無文		100%	③	
	79	土製円盤	II17	F-19	S-3		47	44	6	14.3	無文		100%	③	
	80	土製円盤	II17	G-19	S-2		48	47	7	17.2	無文		100%	③	
	81	土製円盤	II17	G-19	S-1		72	71	7	44.8	条痕文 円孔径4		100%	③	
	82	土製円盤	II17	G-20	砂層面		44	39	8	14.7	条痕文		100%	③	
	83	土製円盤	II17	G-21	S-2		45	39	4	10.4	無文		100%	③	
	84	土製円盤	II17	G-21	S-2		44	40	6	14.4	無文 円孔徑5 四角形未成品		100%	③	
	85	土製円盤	II17	G-22	S-2		51	44	5	17.3	無文		100%	③	
	86	土製円盤	II17	G-22	S-2		39	29	5	4.6	無文		100%	③	
	87	土製円盤	II17	G-23	S-3		40	40	4	10.3	無文		100%	③	
	88	土製円盤	II17	5号住			58	51	11	29.9	無文		100%	③	
	89	土製円盤	II17	5号住	上層		51	50	7	23.8	無文		100%	③	
	90	土製円盤	II17	G-23	S-3		29	28	6	6.6	無文		100%	③	
	91	土製円盤	II17	H-21	S-2		45	37	6	14.0	無文 円孔未貫通		100%	③	
	92	土製円盤	II17	H-23	S-2		40	40	6	12.1	無文 円孔未貫通		100%	③	
	93	土製円盤	II17	H-23	S-1		40	38	5	10.1	無文		100%	③	
	94	土製円盤	II17	I-21	S-2		32	32	6	9.9	RL縞文		100%	③	
	95	土製円盤	II17	I-22	セクション		37	36	9	11.8	無文 円孔径5		100%	③	
36	96	土製円盤	II17	I-26	S-3		39	43	5	11.2	無文		100%	③	
	97	土製円盤	II17	I-25	S-2		39	35	5	11.5	無文		100%	③	
	98	土製円盤	II17	F-10			40	38	9	14.7	無文		100%	③	
	99	土製円盤	II17	K-26	S-3		38	35	7	14.3	無文		100%	③	
	100	土製円盤	II17	K-27	S-3		40	35	7	10.8	条痕文		100%	③	
	101	土製円盤	II18	Y-b	暗褐色土		35	33	7	11.6	無文		100%	③	
	102	土製円盤	II18	W-b	黒色下層		44	38	4	11.2	無文 円孔径6		100%	③	
	103	土製円盤	II17	5号住			53	50	8	37.2	RL縞文	御経塚	100%	③	
	104	土製円盤	II17	86D			56	55	9	32.9	無文		100%	③	
	105	土製円盤	II17	不明			60	53	7	27.9	LR縞文	中屋	100%	③	
	106	土製円盤	II17	不明			44	38	10	16.7	条痕文		100%	③	
	107	土製円盤	II17	不明			32	30	7	9.3	無文		100%	③	
	108	土製円盤	II17	不明			33	32	6	7.2	無文		100%	③	
	109	土製円盤	II18	リ-b	S-2黒色包		70	59	7	42.4	条痕文		100% (2) - (3)		
	110	土製円盤	II18	リ-b			61	59	6	25.8	条痕文		100% (2) - (3)		
	111	土製円盤	5	A-3	S-2		47	42	8	22.9	無文		100%	③	
	112	土製円盤	不明	不明			32	28	5	7.2	無文		100%	③	
	113	土製円盤	II17 86D				34	33	9	9.9	条痕文		100% (3)		
	114	土製円盤	II17 87D				43	37	6	10.3	条痕文		100% (3)		
	115	土製円盤	4	A-7			35	34	8	11.5	無文		100% (1) - (3)		
	116	土製円盤	16	K2	4		47	43	7	19.8	無文		100% (4)		
	117	土製円盤	16	J2			49	46	5	16.1	無文		100% (4)		
	118	土製円盤	16	M2	3		57	53	5	23.2	無文		100% (2)		
	119	土製円盤	16	H2	2		55	51	6	25.8	無文		100% (4)		

表8 石器一覧表(第37回)

※調査次は、第1章 表1 調査一覧表参照

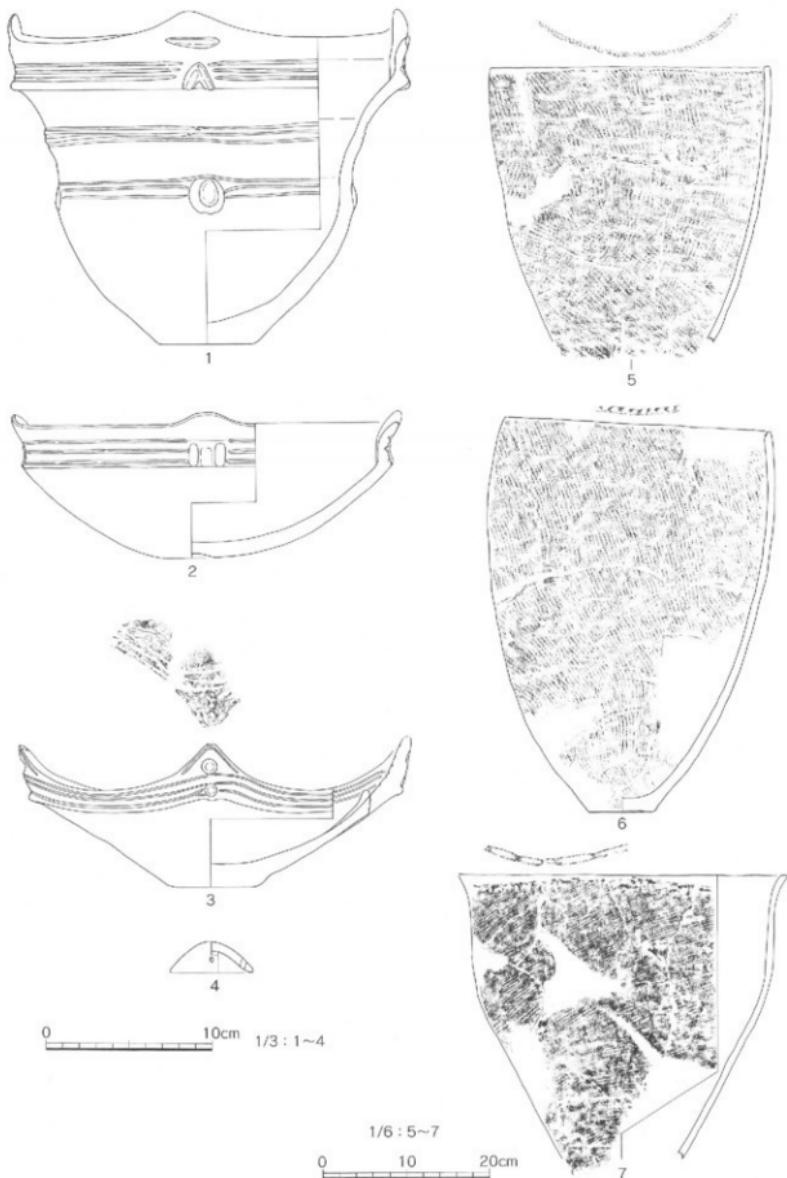
回	番号	器種	調査次	出土遺物	出土地点	層位等	長		幅		厚さ (mm)	重量 (g)	形態	備考	石質	遺存率	参考書
							(mm)	(mm)	(mm)	(mm)							
37	1	石匙	5	溝	AB区	砂理層	52	31	7	13.9	緩形	木製品	輝石安山岩	100%	③		
	2	石匙	5	溝	b-3		58	29	10	19.9	緩形	フリント	100%	③			
	3	石匙	旧6		G-5	S-1	86	28	8	30.0	緩形	刃部再生	輝石	100%	③		
	4	削器	5		H-12	黑色土下層	48	13	4	3.1		フリント	100%	③			
	5	削器	5	不明		混亂砂層	59	25	10	14.9		フリント	100%	③			
	6	削器	5		G-15	砂層上部	41	29	6	8.5		珪化凝灰岩	100%	③			
	7	削器	旧6	B2D			50	37	12	22.1		輝石安山岩	100%	③			
	8	削器	旧6		BY区	S-5	52	34	11	18.1		輝石安山岩	100%	③			
	9	削器	旧6		H-6	S-2	61	31	10	20.1		輝石安山岩	100%	③			
	10	削器	旧6		G・H-6	S-2、下(3)	111	48	14	68.5		輝石安山岩	100%	③			
	11	削器	5		B-10	黒下	59	36	8	13.6		輝石安山岩	100%	③			
	12	削器	5		K-16	黑色土層	46	42	7	21.0		輝石安山岩	100%	③			
	13	削器	旧7		L-22	S-4	60	37	8	26.9		輝石安山岩	100%	③			
	14	削器	旧7		I-20	S-4	69	49	12	42.2		輝石安山岩	100%	③			
	15	削器	16	18号住		下層	59	35	11	25.7		輝石安山岩	100%	④			
	16	三脚石器	旧7		L-20	S-3	120	112	39	500		緑色凝灰岩	100%	③			
	17	異形石器	II7		M-24	S-3	59	25	4	5.0	y字形	フリント	100%	③			

表9 石製品一覧表(第38~40回)

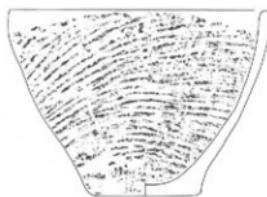
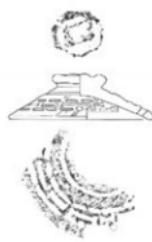
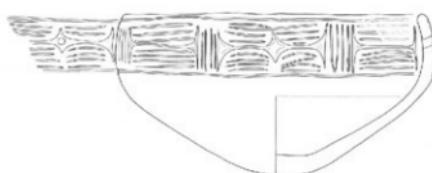
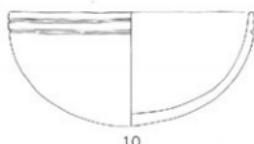
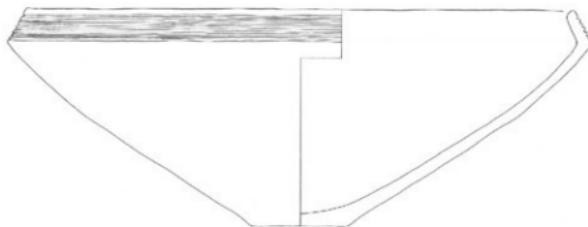
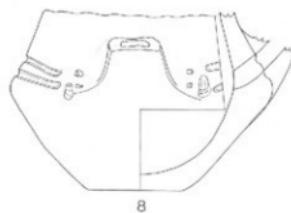
※調査次は、第1章 表1 調査一覧表参照

回	番号	器種	調査次	出土山	出土遺物	出土地点	層位等	長		幅		高さ (mm)	重さ (g)	形態・備考	石質	遺存率	参考書
								(mm)	(mm)	(mm)	(mm)						
38	1	石冠	旧8			Bトレーナー	北側	102	37	79	(250)	亀頭状頭部		緑色凝灰岩	97%	②・③	
	2	石冠	5		No554			117	44	(53)	(260)	亀頭状頭部、被熱	砂岩	60%	③		
	3	石冠	旧6		E-1	S-2	68	(41)	60	(170)	斧頭狀、基部、被熱	輝綠凝灰岩	70%	③			
	4	石冠	不明			不明		113	61	83	500	斧頭狀、基部、被熱	粗粒砂岩	100%	③		
	5	石冠	旧7		M-21	S-4	(66)	(43)	83	(240)	錐尖形、基部、被熱	火山帶凝灰岩	60%	③			
	6	石冠	5		No492			58	51	(36)	(133)	錐尖形、基部、被熱	砂岩	50%	③		
	7	石冠	旧8		ス-b	地山断層	64	56	(39)	(170)	錐尖形、基部		緑色凝灰岩	95%	②・③		
	8	石冠	旧7		No123		黒色	(61)	50	104	(330)	錐尖形		緑色凝灰岩	90%	③	
	9	石冠	不明		No54	S-1	64	62	43	(210)	片断状、基部		火山帶凝灰岩	90%	③		
	10	石冠	5			耕土中表	採	72	50	62	(295)	斧頭狀、基部、被熱		緑色凝灰岩	95%	③	
	11	石冠	旧7		L-22	S-1	60	37	58	(127)	斧頭狀、基部、被熱		凝灰岩	80%	③		
	12	石冠	不明				(109)	58	76	(375)	半円斧頭狀、基部		凝灰岩	80%	③		
	13	石冠	旧6		F-4		87	42	63	(365)	半円斧頭狀、基部		砂岩	95%	③		
39	14	石冠	旧6		F-4	S-1	70	36	60	(200)	斧頭狀、瘤部面		起岩	85%	③		
	15	石冠	旧7		G-23	S-2	75	38	60	(250)	斧頭狀、端瘤面、被熱		凝灰岩	95%	③		
	16	石冠	旧7		L-19	S-4・6	(145)	(41)	85	(415)	序連狀、瘤瘤面、被熱		緑色凝灰岩	50%	③		
	17	石冠	旧7		J-20	S-2	146	38	70	(370)	半円斧頭狀、被熱		緑色凝灰岩	90%	③		
	18	石冠	不明		No906		(131)	49	65	(160)	錐尖形、被熱		緑色凝灰岩	50%	③		
	19	石冠	旧7		J-22,	S-5, S-2	(171)	50	66	(515)	錐尖形、被熱		緑色凝灰岩	50%	③		
	20	石冠	旧7		J-22		247	48	69	(740)	錐尖形		緑色凝灰岩	95%	③		
	21	石冠	5		No332		(198)	35	46	(313)	錐尖形		緑色凝灰岩	70%	③		
	22	石冠	旧6		AB区N	黒褐色土	293	47	65	992	錐尖形		緑色凝灰岩	100%	③		
	23	石冠	旧7		J-24	S-2	153	39	71	695	半円形		砂岩	100%	③		
40	24	石冠	旧6		F-4	S-1	146	48	87	(810)	半円斧頭狀		凝灰岩	95%	③		
	25	石冠	不明		No868		(149)	39	82	(608)	錐尖形、被熱		緑色凝灰岩	60%	③		
	26	石冠	旧7		M-21	S-2	180	42	76	(727)	序連狀、瘤部面、連繩 三叉文、八日市新保		緑色凝灰岩	95%	③		
	27	石冠	不明				231	44	80	(940)	錐尖形、被熱、線刻、 八日市新保2		緑色凝灰岩	90%	③		

図	番号	器種	調査次	出土遺構	出土地点	層位等	長 (mm)	幅 (mm)	高 (mm)	重さ (g)	形態・備考	石質	保存率	参考書
40	28	石冠	5	A-12-9, -C-12-9	X-3	S-3直上	(111)	57	70	(650)	縦長形、断面三角形	凝灰岩	70%	③
	29	石冠	21											
	30	石冠	5	G-12	地山 Na1011	77	50	63	(320)	頭部羣形、被熱	砂岩	95%	③	
	31	石冠	旧6				(111)	73	49	64	(315) 頭部整形	砂岩(粗粒)	95%	③
	32	石冠	旧6	N-4 H-20	S-2 Na363 S-2	(160)	34	68	(335)	石鋸形、被熱	緑色凝灰岩	65%	③	
	33	穿孔石 製品	25											
	34	岩盤	旧7	I-24	S-3	(115)	99	39	(342)	四、側面溝	白色凝灰岩	100%	⑤	
41	35	勾玉	不明	不明	(11)	5	3	(0.7)			ガンクローム	80%	③	
	36	垂玉	旧6	G-8	S-1	23	14.5	6	(2.5)	穿孔	ろう石	80%	③	
	37	垂玉	不明	不明		19	15	6	2.5	穿孔	合硬玉珪質岩	100%	③	
	38	垂玉 (未製品)	旧6	E-8	S-2	18	8	4	(0.9)	本製品	石筆質	95%	③	
	39	半筒 (未製品)	旧7	L-25	S-1	26	7.5	4	1.2	木製品	流紋岩	100%	③	
	40	垂飾	旧7	I-23	S-1	(42.5)	21	8	(13.5)		凝灰岩	60%	③	
	41	臼玉	旧7	H-22	S-2	4.5	7.0	7.0	0.4		石筆質	100%	③	
42	42	臼玉	旧7	不明	拂土	2.0	5.0	5.0	0.1		石筆質	100%	③	
	43	臼玉	旧7	J-21	S-3	7.0	10.0	10.0	1.0		石筆質	100%	③	
	44	臼玉	不明	不明		4.0	7.5	7.5	0.3		石筆質	100%	③	
	45	臼玉	旧6	E-6	S-1	6.5	8.5	8.0	0.7		石筆質	100%	③	
	46	臼玉	旧7	G-20	S-1	3.5	8.5	8.0	0.4		合硬玉珪質岩	100%	③	
	47	丸玉	不明	不明		6.5	9.0	8.5	0.7		合硬玉珪質岩	100%	③	
	48	丸玉	旧7	I-22	S-1	7.0	9.5	9.5	1.2		合硬玉珪質岩	100%	③	
49	49	丸玉	不明	不明		6.0	8.0	8.0	0.4		合硬玉珪質岩	100%	③	
	50	丸玉	旧7	J-22	S-2	7.0	9.5	9.5	1.0		合硬玉珪質岩	100%	③	
	51	丸玉	不明	不明		12.0	13.5	13.0	3.3		合硬玉珪質岩	100%	③	
	52	丸玉	不明	不明		9.0	11.0	10.5	(1.5)		石筆質	95%	③	
	53	丸玉	不明	不明		8.5	12.5	12.0	2.3		合硬玉珪質岩	100%	③	
	54	丸玉	不明	不明		9.0	8.5	7.5	0.8		合硬玉珪質岩	100%	③	
	55	丸玉	16	不明		8.0	9.0	8.5	0.9		合硬玉珪質岩	100%	④	
56	56	長玉	旧6	不明	表様	7.5	6.5	5.5	0.4		ガンクローム	100%	③	
	57	長玉	旧7	G-22	S-4	21.0	11.5	11.0	3	切削痕あり	珪質岩	100%	③	
	58	長玉	不明	不明		16.0	11.0	9.0	(2.4)		緑色凝灰岩	95%	③	
	59	長玉	旧6	10号D		23.0	13.0	8.0	(3.2)		蛇紋岩	60%	③	

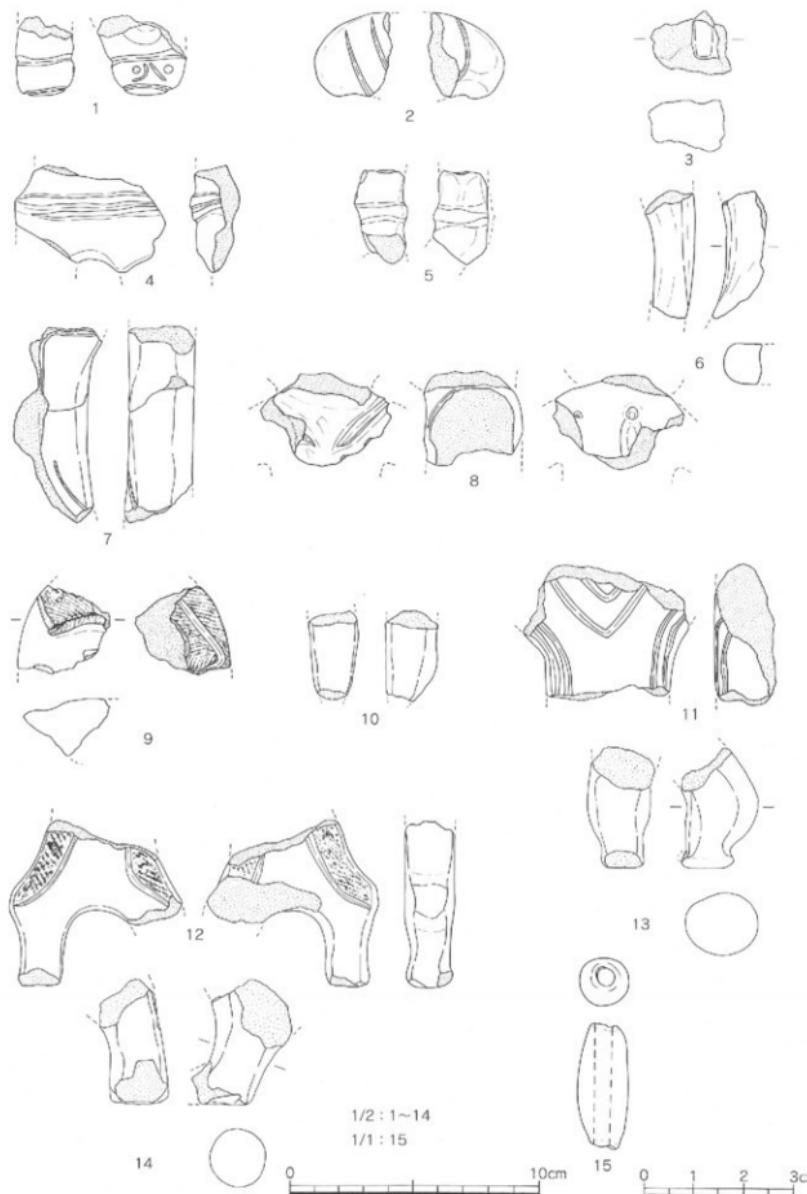


第30図 土器 I ($S = 1/3 \cdot 1/6$)

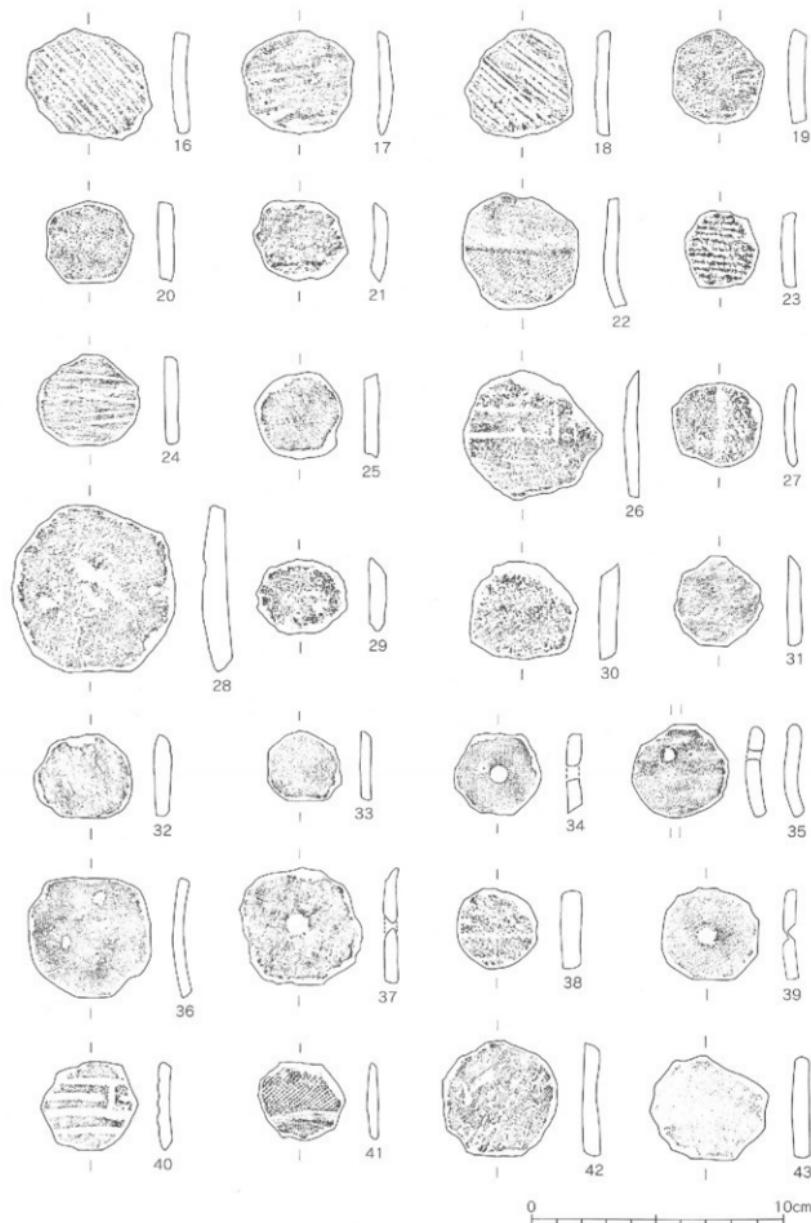


0 10cm

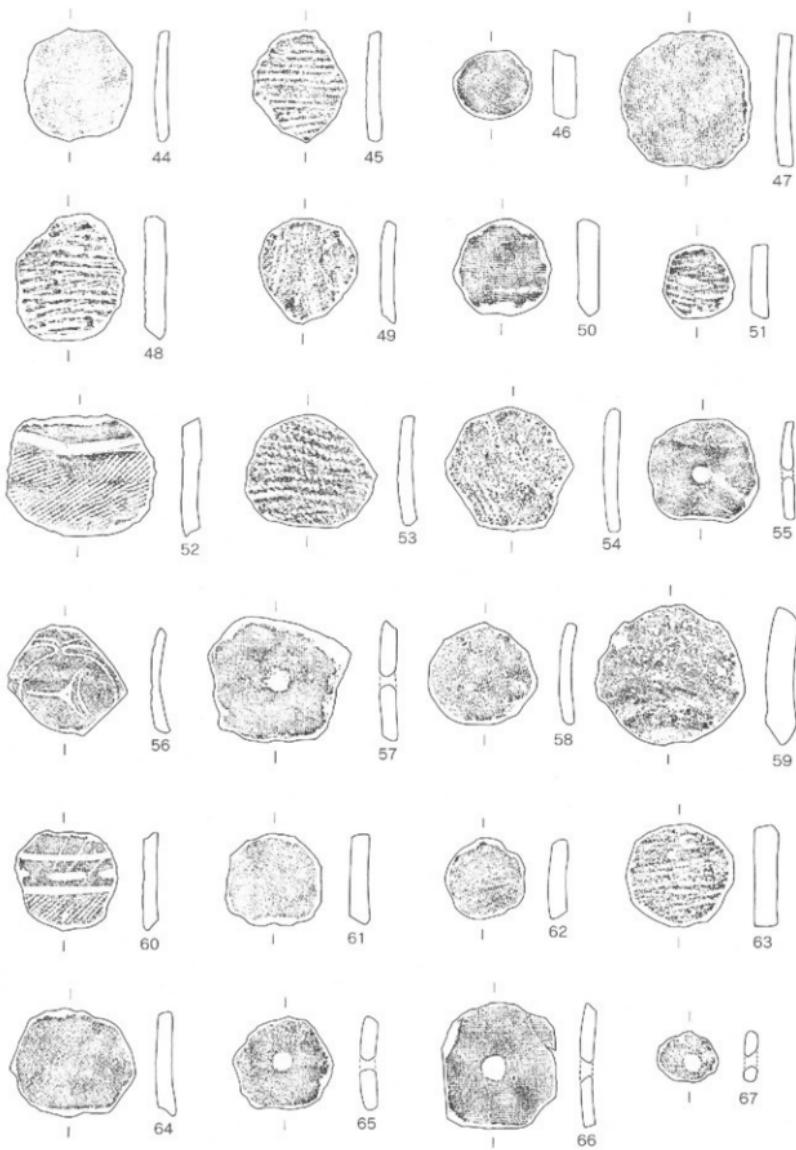
第31図 土器 2 (S=1/3)



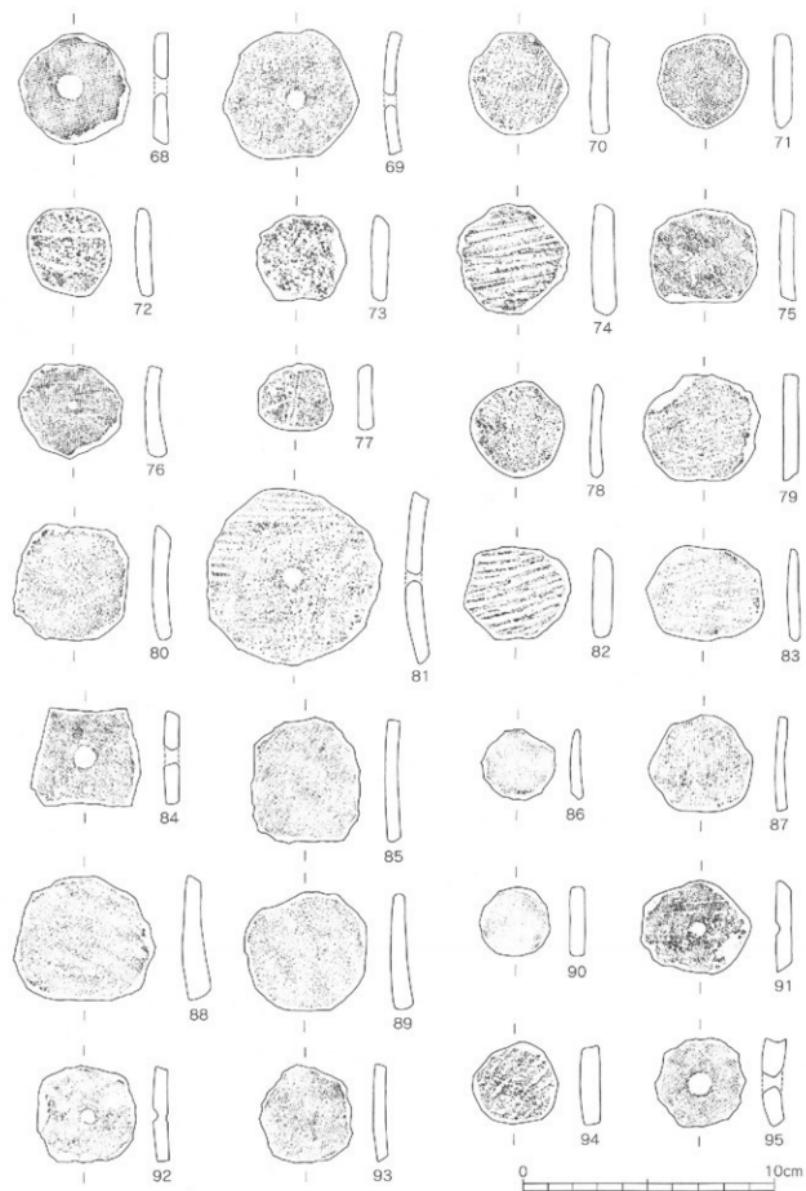
第32図 土製品1 (S=1/2・1/1)



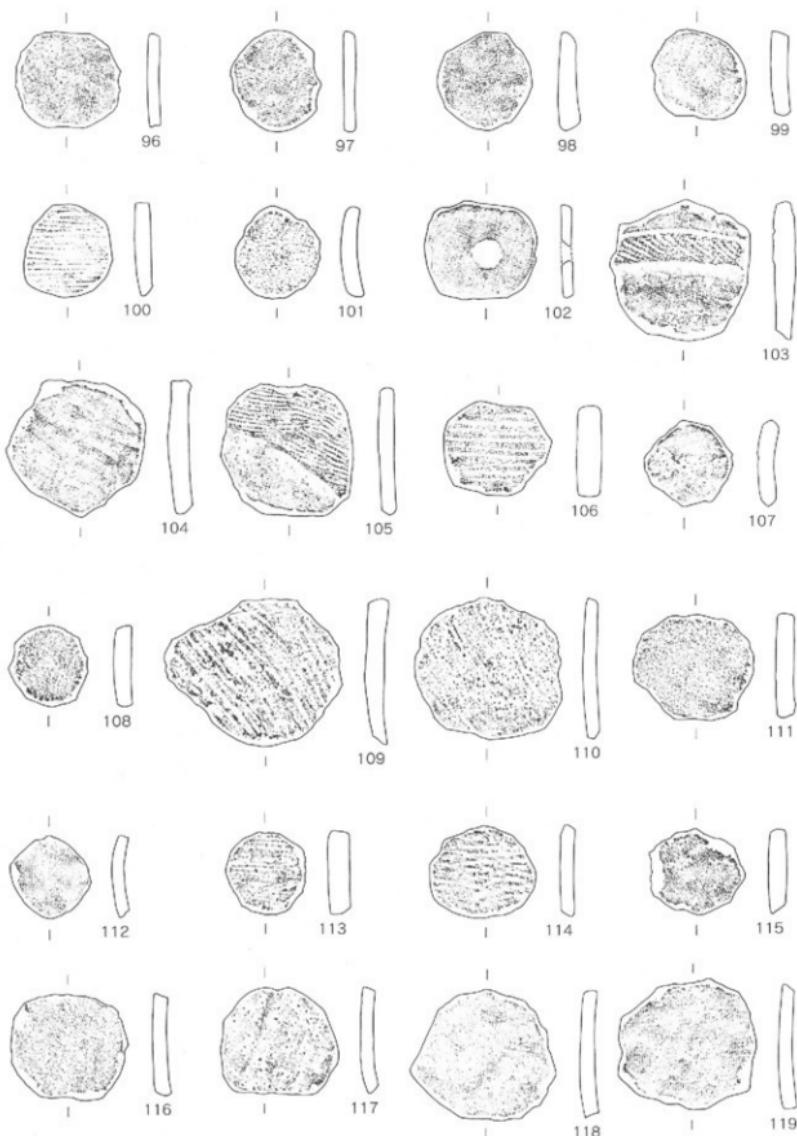
第33図 土製品2 (S=1/2)



第34図 土製品3 (S=1/2)



第35図 土製品4 (S=1/2)



0 10cm

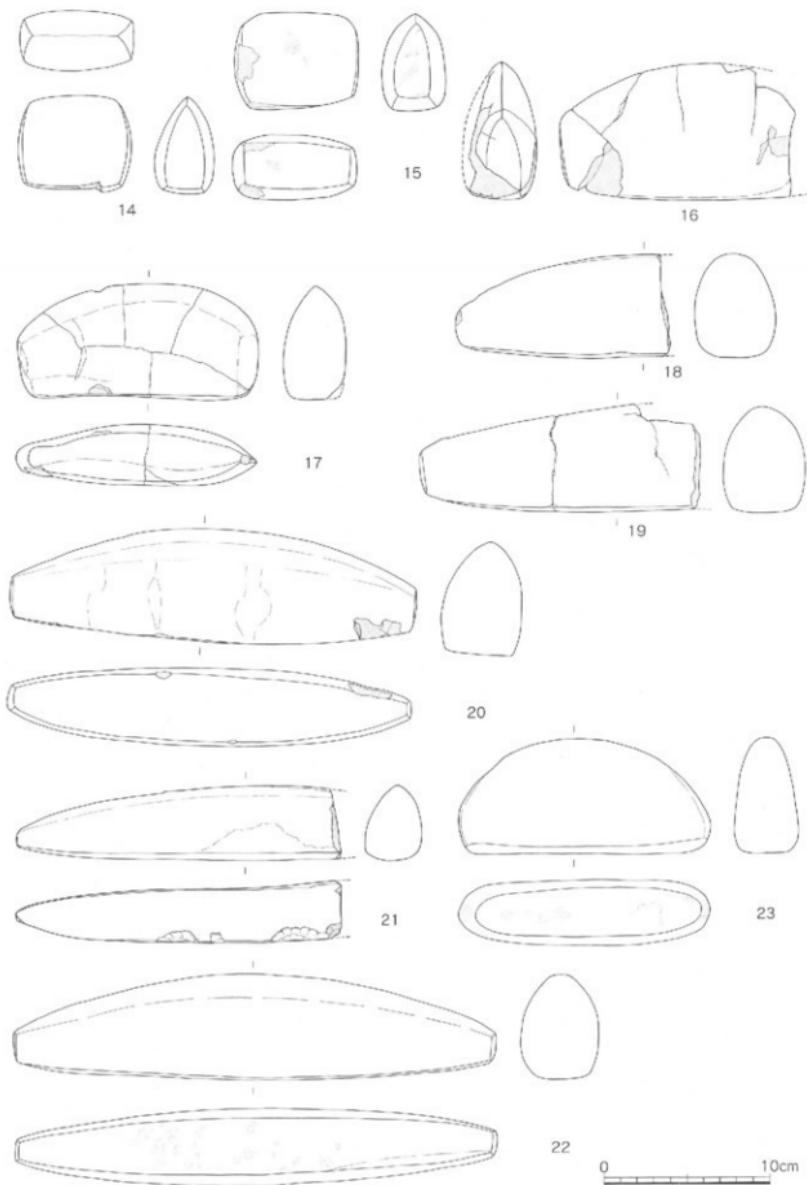
第36図 土製品5 (S=1/2)



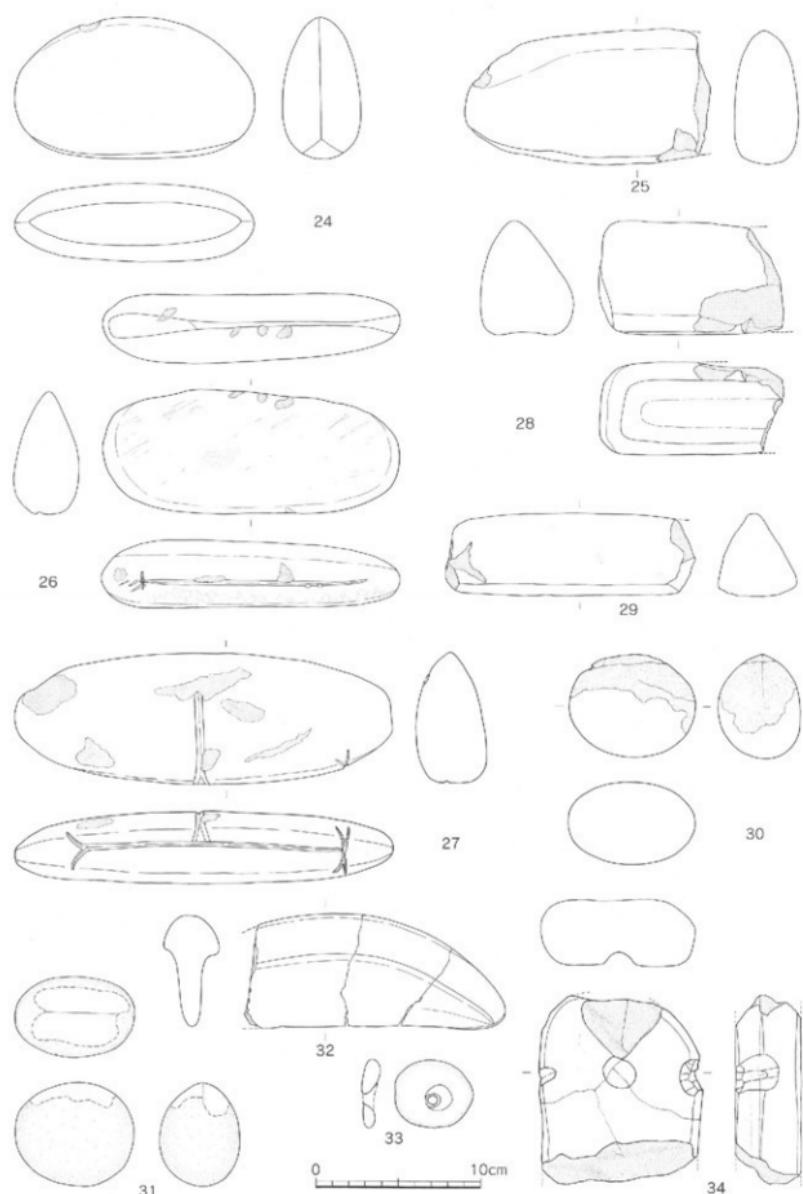
第37圖 石器 1 (S=1/2)



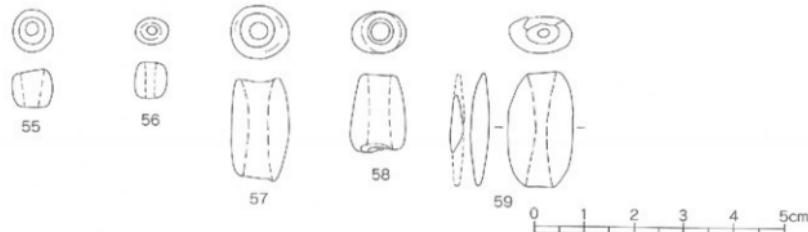
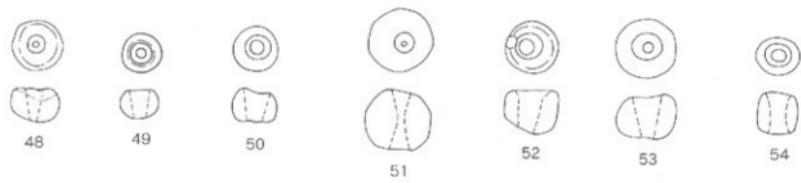
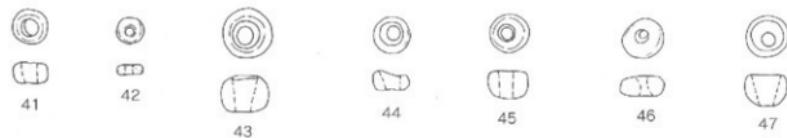
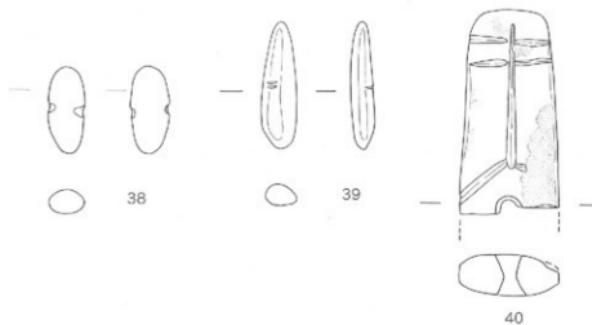
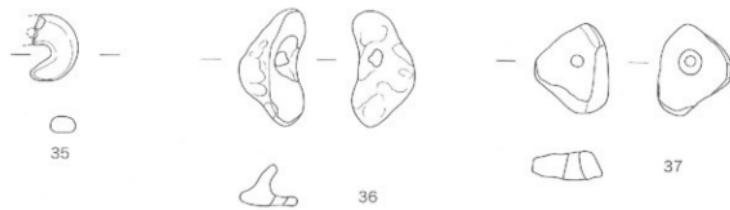
第38図 石製品 1 (S = 1 / 3)



第39図 石製品2 (S=1/3)



第40圖 石製品3 ($S=1/3$)



0 1 2 3 4 5cm

第41図 石製品4 (S=1/1)

第2節 土製品・石器・石製品の出土点数について

本節では、これまでの調査において出土した土製品・石器・石製品の点数について、平成17~19年度にかけて出土品の再整理事業（国庫補助事業）を実施した成果を含め表10~12にまとめてみた。

作業では、品種・器種の変更をしたこと、実物を確認できず遺物カードで出土の確認をおこなったものもあること、点数には欠損品も含んでいること、不明なものは省略していることなど既刊の報告点数とは異なる点もありました承願いたい。（報告書は表6冒頭参照）

表10 土製品出土点数

遺物の名称／報告書年	1983	1989	2003	2009	合計	率
土偶	79	12	43	1	135	34.70%
耳飾	8	0	4	0	12	3.08%
環状土製品	2	0	0	0	2	0.51%
土製垂飾	2	2	1	0	5	1.29%
土製卡	2	0	0	0	2	0.51%
有孔球状土製品	3	1	1	0	5	1.29%
スタンプ形土製品	3	0	0	0	3	0.77%
土鍬	0	0	2	0	2	0.51%
土製円盤	175	31	17	0	223	57.33%
合計	274	46	68	1	389	100.00%

表11 石器出土点数

遺物の名称／報告書年	1983	1989	2003	2009	合計	率
打製石斧	2,732	467	1,529	215	4,943	41.32%
磨製石斧	295	34	126	16	471	3.94%
磨石・敲石・凹石	2,007	174	740	95	3,016	25.21%
石鍬	32	8	39	2	81	0.68%
石皿	278	67	287	13	645	5.39%
石礫	800	255	507	51	1,613	13.48%
石錐	164	53	90	21	328	2.74%
石砲	23	2	3	0	28	0.23%
削器	35	6	20	5	66	0.55%
円盤状石器	12	0	0	0	12	0.10%
砥石	308	55	275	24	662	5.53%
擦切用石器	77	12	3	2	94	0.79%
軽石製品	1	0	0	0	1	0.01%
環状石器	0	0	1	0	1	0.01%
三脚形石器	1	0	0	0	1	0.01%
異形石器	2	0	0	0	2	0.02%
合計	6,767	1,133	3,620	444	11,964	100.00%

表12 石製品出土点数

遺物の名称／報告書年	1983	1989	2003	2009	合計	率
御物石器	5	0	1	0	6	0.74%
石冠	101	21	55	4	181	22.32%
石棒	83	20	78	11	192	23.67%
石劍	29	2	11	1	43	5.30%
石刀	183	15	79	9	286	35.27%
垂飾	25	6	14	1	46	5.67%
玉	30	9	11	3	53	6.54%
狹詰石	0	0	0	0	0	0.00%
岩版	1	0	3	0	4	0.49%
鈴剣頭	0	1	0	0	1	0.12%
穿孔石製品	1	0	0	0	1	0.12%
合計	457	73	252	29	811	100.00%

第3節 繩文時代主要遺構の変遷

本書が既調査分の最終報告となることから、本節において縄文時代の集落主体域における遺構の時期別状況を要約するものである。この報告は布尾2003を基礎としており、建物類型等の詳細については参照願いたい。後述する遺構数は現時点での状況報告であり、今後の検討によって更新が必要となるものである。

第42図において縄文時代の主要遺構の分布状況を示した。調査範囲が広いため野々市町教委1989・2003報告からでは、史跡指定地の北方域で国道8号西側はブナラシ地区、ブナラシ地区の南方域で史跡公園を含み国道8号西側はテト地区、国道8号東側はツカダ地区として3地区に分けている。地区名は小字名称を用いたものである。

主要遺構は、竪穴住居、掘立柱建物跡、石囲炉（岡はR表示）、埋設土器（時期別図で番号を表示）、一部の上坑を表示している（土坑は遺構密度の低い地点の表示であり遺構名は省略）。以下、主要な遺構数、各時期の様相について概観したい。なお、時期細分は遺構から出土した土器の編年的位置（6頁参照）によっており、時期的には下限にあたるものである。参考引用文献は、43頁に3・4区の報告分と併せて記している。

1 主要な遺構数

竪穴住居は6棟検出しており、ブナラシ地区の1～5号住、テト地区の6号住である。

掘立柱建物は65棟を復元している（岡はSB省略）。内訳は、方形建物14棟、亀甲形建物31棟、円形建物20棟（真円に柱穴が配置される、所謂「環状木柱列」）である。ブナラシ地区は55棟で方形建物10棟、亀甲形建物29棟、円形建物16棟、テト地区は6棟で方形建物3棟、亀甲形建物1棟、円形建物2棟、ツカダ地区は4棟で方形建物1棟、亀甲形建物1棟、円形建物2棟である。

石囲炉は竪穴住居内で検出された3基を含め27基検出している。ツカダ地区の1基を除き、他の炉はブナラシ地区の検出で上器が設置されている。ブナラシ地区では晚期とみられる焼土遺構3基を確認しているが詳細は不明である。

埋設土器は41基検出している。ブナラシ地区で30基検出しているが、野々市町教委1983報告地区的10基は詳細不明である。テト地区で6基、ツカダ地区で5基確認している。

土坑は全報告数317基を数えるが、野々市町教委1983報告地区での掘立柱建物の検討が現段階では十分ではなく、今後の検討では柱穴になる可能性のものがあり、その実数は概数としておきたい。

2 各時期の様相

1) 後期～晩期前葉(御経塚式期) (第43図)

本時期の主要遺構は、テト地区の6号住を除きブナラシ地区の北半域に集中する分布状況である。

後期中葉後半の酒見式期の確定な遺構は、テト地区での上坑2基の確認のみである（図示範囲外に1基）。ブナラシ地区では、北半域で一定量の酒見式土器が出土するが、南方向に行くに従い少量となり、河道SD23の影響が考えられる。テト地区・ツカダ地区での出土量は少なく、酒見式期の主体域は、ブナラシ地区北半域となる。御経塚遺跡の東方2.2kmに位置する米泉遺跡では石囲炉を伴う竪穴住居7棟と石囲炉12基が確認されている（西野1989）。御経塚遺跡でも同様な状況が想定されるが、井口式期以降の整地や掘削等により遺構は遺存しなかつたものと思われる。

井口1式期の遺構としたものは、石囲炉B3号・11号・14号・20号・23号炉の5基、2号埋設土器である。23号炉・2号埋設土器以外は、河道部から25～40m離れて流路に沿うように分布しており、炉の距離は17～22mである。2号埋設土器は、河道に隣接することから施廐土器と考えたい。

井口2式期の遺構としたものは、竪穴住居3～5号住の3棟、石囲炉B1・2・6・7・10・13・18・19・21号炉の9基である。また、ツカダ地区の上坑も当期である。竪穴住居の4・5号住は井口2式後半期と判断でき、住居の間隔は約7mで、時間的には3号住の後となる。時期細分した石囲炉は、井口2式前半期に13号炉、後半期に6・7・18・19号炉、末期ではB1・2号炉である。

八日市新保式期とした遺構は、石囲炉B2・8・22号炉の3基である。B2号炉は約4m離れたB1号炉

直後の構築であろう。B 1・B 2号炉は河道に近く、当期での河道は井口式期より南側に位置しよう。

八日市新保式期～御経塚式期とした遺構は、堅穴住居 1・2・6 号住の 3 棟で、堅穴内に石圓炉は確認できない。2号住は八日市新保 2式期、6号住は御経塚式期と推定している。

石圓炉 1・3・4・5・9・12・15・16・17号炉の 9 基は、後期後葉の所産と考えられるか時期は不明である。

以上、ブナラシ地区での主要遺構をみてきたが、堅穴住居と石圓炉の分布状況からA群・B群・C群・D群の4群の存在が推定でき、各群は河道流路に対し直角的方向の橢円形状となる（同期の遺構は弧状の分布である）。A群は間隔が開くかB 1・B 2・B 3号炉の 3 基、B群は 1 号～9 号・12号炉と 2 号住の 10 基と 1 棟、C群は 10 号・13 号・14 号炉と 1 号住の 3 基と 1 棟、D群は 18 号～23 号炉と 3～5 号住の 6 基と 3 棟である。各群とも井口 1 式期・井口 2 式期・八日市新保式期の遺構が存在し、一時期には集中しない状況である。飛躍するが、このことは各群それぞれが一つの同系グループとして連続しており、集落内において各グループの占有的地区が存在したものであろうか。

2) 中屋式期（第44図・表13）

中屋式期とした掘立柱建物は 23 棟で、ブナラシ地区の 19 棟、テト地区の 1 棟、ツカダ地区の 3 棟である。方形建物はブナラシ地区の 3 棟、SB24・29・35 である。亀甲形建物は 11 棟で、ブナラシ地区 10 棟、ツカダ地区の 1 棟である（21号住は新規名称）。円形建物は 9 棟で、ブナラシ地区の 6 棟、テト地区の 1 棟、ツカダ地区の 2 棟である。なお、ブナラシ地区 SB07 は時期不明である。

埋設土器は 13 基で、ブナラシ地区の 10 基（21号は新規名称）、テト地区の 2 基、ツカダ地区の 1 基である。

表13 中屋式期遺構表（ブナラシ地区→ブ、テト地区→デ、ツカダ地区→ツと省略）

	方形建物	棟数	亀甲形建物	棟数	円形建物	棟数	埋設土器	基数	
中屋1式期	—	—	—	—	—	—	ブ11・13・21号	3	
中屋2式期	ブSB35	1	ブSB08・12・13・22・26・46	6	ブSB18	1	8	ブ10・12・16号	3
中屋3式期	ブSB21・29	2	ブSB19・32・38、ツ21号	4	ブSB17・49、デSB06、ツ19・20号	5	8	ブ17・19・20号、ツ2号上蓋棺	4
中屋3式～下野式期か	—	—	ブSB27	1	ブSB31・33・40	3	4	ブ1号、デ2号・6号	3
合計		3		11		9	23		13

中屋 1 式期では、埋設土器を確認できるが、先期の御経塚式期と同様に様相は不明である。

中屋 2 式期からブナラシ地区で掘立柱建物が確認できる。10 本柱円形建物 SB18 と 1 × 2 間の方形建物 SB35 が隣接し、亀甲形建物が河道流路と平行するように帶状に分布する。金沢市米泉遺跡の中屋式期と同様な様相を示しており、米泉遺跡では、円形建物の「環状木柱列」1 棟（8 本柱）とこれに隣接して「方形プランの柱根址」1 棟が位置し、河道に沿いこの両側と対岸に地床炉を伴う「第20・24～27号住址」、「第21～23・28号炉址」が展開する（西野 1989）。このなかで、「第26・27号住址・21号炉址」は亀甲形の掘立柱建物に復元が可能で、さらにブナラシ地区と近似する状況となる。史跡指定地は本調査のため不明であるが河道 SD23 の対岸にも建物群が存在しよう。

埋設土器 10～13 号が集中する地点が建物群から約 30m 離れ位置し、後期及び当期の土坑もみられる。集落の縁辺域にあたり墓域の可能性がある。

中屋 3 式期では、ブナラシ・テト・ツカダ地区で掘立柱建物が確認できる。ブナラシ地区的建物分布域では、河道に近い SB19・24・29・32 の①群域と、その北西域に位置する SB17・38・49 の②群域に二分でき、後者は弧状に分布する。テト・ツカダ地区でも円形建物がみられ、当期の円形建物 5 棟は 8 本柱である。

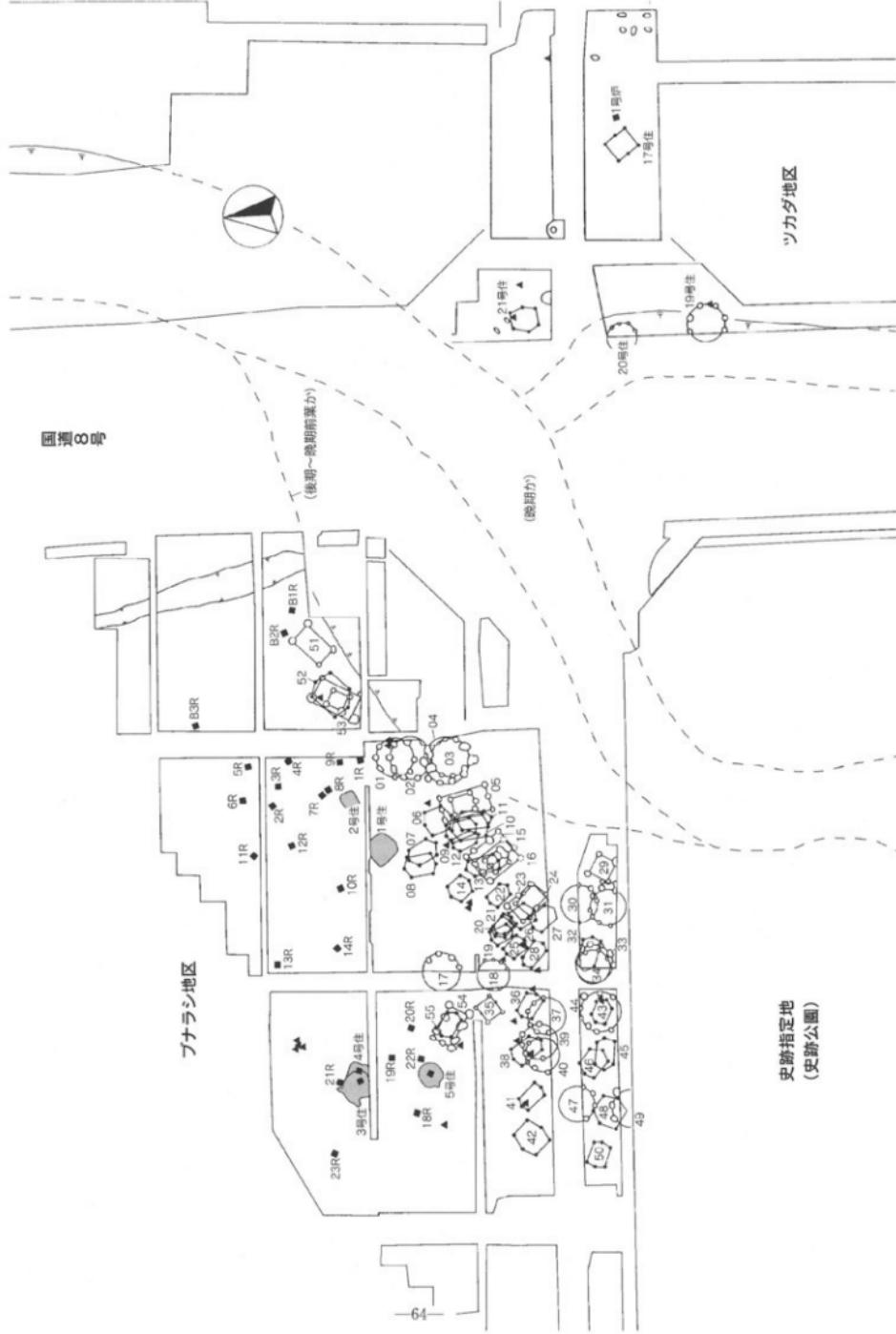
中屋 3 式～下野式前半期（型式判断不明）の建物は、ブナラシ地区で 4 棟復元しているが、分布は中屋 3 式期と同様で①群域には SB27・30・33、②群域は SB40 となる。

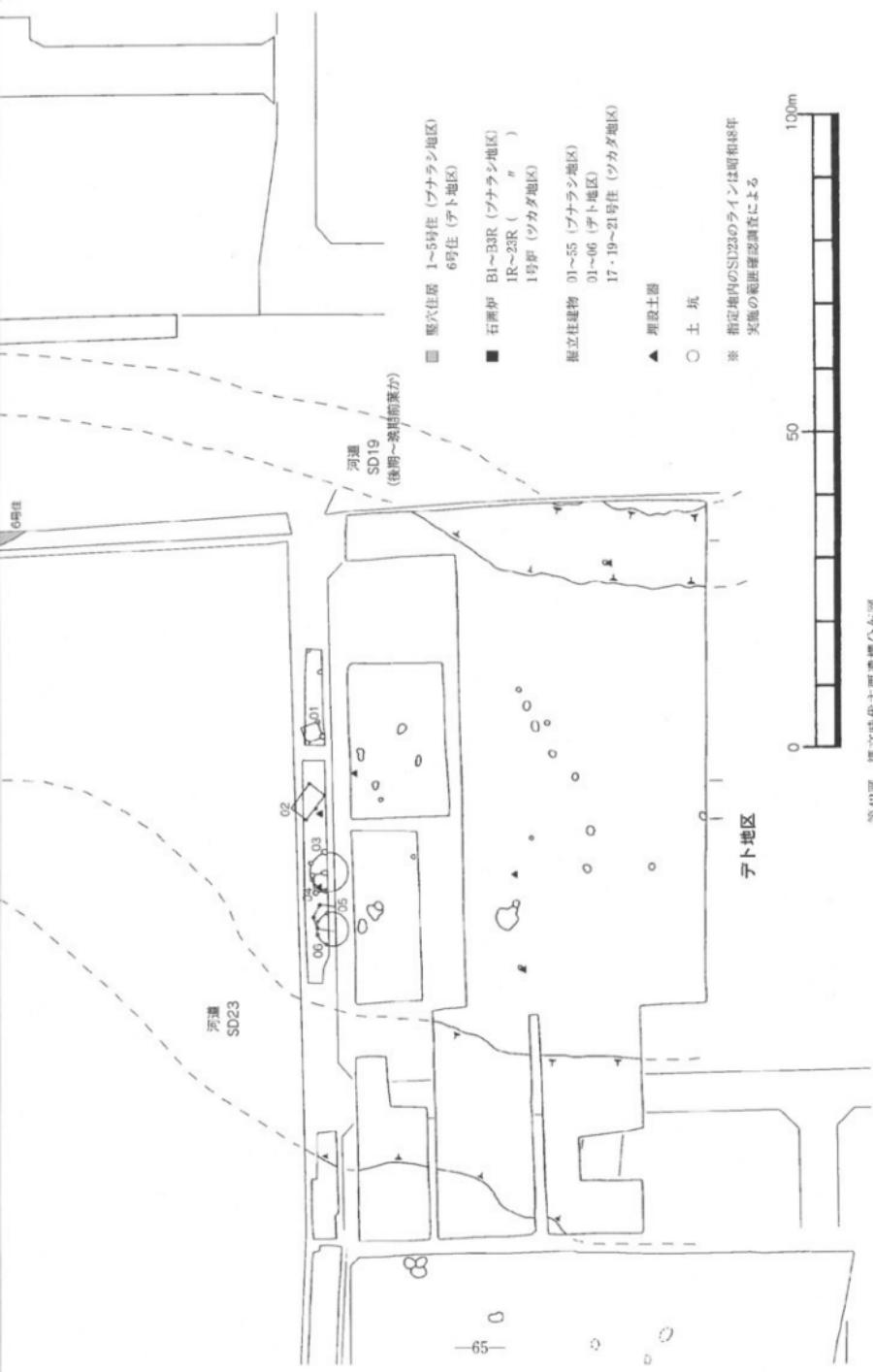
晩期におけるブナラシ地区北半域の状況は不明であるが、中屋式期では、テト地区 SB06 の南方域とツカダ地区 19～21 号住の東方域での建物はみられず、建物分布の南限域と東限域にあたるものである。

3) 下野式期（第45図・表14）

下野式期とした掘立柱建物は 28 棟で、ブナラシ地区 26 棟、テト地区 2 棟である。方形建物は 5 棟で、ブナラシ地区の 4 棟、テト地区的 1 棟である。亀甲形建物は 17 棟で、ブナラシ地区の 16 棟、テト地区的 1 棟である。円形建物はブナラシ地区の 6 棟である。当期の埋設土器は 3 基で、ブナラシ地区的 2 基、テト

国道3号





第42図 氏文時代主要遺構分布図

地区の1基である。

表14 下野式期遺構表 (ブナラシ地区→ブ、テト地区→テ、ツカダ地区→ツと省略)

方形建物	棟数	亀甲形建物	棟数	円形建物	棟数	棟計	埋設土器	基数
下野式前半期	ブSB 05	1 ブSB 11・14・20・43・ 50	5 ブSB01・39	2	8	—	—	0
下野式期 (前半～後半)	ブSB 33・54 テSB 02	3 ブSB09・21・25・28・ 36・45・48・52・55、 テSB 05	10 ブSR30・34・ 37・47	4	17	ブ3号、テ1号	2	
下野式後半～ 長竹式期か	ブSB 15	1 ブSB06・42	2 —	0	3	ブ15号	1	
合計			17		6	28		3

下野式期のブナラシ地区では、方形の柱列が重複し入れ子状に配列される方形建物SB05（A3類、以下「入れ子状方形建物」と記す）や桁行3間の方形建物SB54が出現し、建物類型のすべてが揃うことになる。SB05は前半期に属し、同期で柱穴の大きい円形建物SB01が「核家屋」（布尾2003）になるものと考えており、どちらも方位を同じくすることから並存関係が推察できる。下野式期でも中屋3式期の建物①群域・②群域の分布形態があてはまり、弧を描く帶状分布が想定される。前半期は、①群域がSB01・05・11・14・20、②群域がSB39・43・50、下野式期（前半～後半）は、①群域がSB09・21・26・28・30・34・52・53、②群域はSB36・37・45・47・48、下野式後半～長竹式は、①群域がSB06・15、②群域SB42である。さらにSB14とSB21の間で北東と南西域に分かれるかは不明である。

なお、下野式期（前半～後半）及び下野式後半～長竹式としたものは細分できなかつたものである。

4) 長竹式期（第46図）

長竹式期とした掘立柱建物は13棟で、ブナラシ地区9棟、テト地区3棟、ツカダ地区1棟である。方形建物は6棟で、ブナラシ地区のSB16・23・51の3棟、テト地区SB01・04の2棟、ツカダ地区17号住（付近出土土器から判断）の1棟である。亀甲形建物は2棟で、ブナラシ地区SB10・41である。円形建物は5棟で、ブナラシ地区SB02～04・44の4棟、テト地区SB03の1棟である。

当期の埋設土器は10基で、ブナラシ地区の4～9・14号の7基、テト地区的4・5号の2基、図の範囲外でツカダ地区1号上器棚の1基である（羽庄痕土器・吉田2006、野々市町教委1989）。

これらの遺構で、後半期のものは全容不明な方形建物のテト地区SB03とツカダ地区1号土器棚である。

ブナラシ地区的建物は、直線的に帶状分布するSB02～04・11・16・23・44の8棟が前代からの①群域で、②群域はSB41となる。円形建物SB02～04、入れ子状方形建物SB16、1×2間の方形建物SB23、亀甲形建物SB11、など各類型の建物が揃って帶状構成を成しており、その後背地点の①群域縁辺部で埋設土器群も帶状に分布する。円形建物SB02～04は下野式期SB01と同じ地点で重複して立地していることから、「核家屋」と考えられるものである。

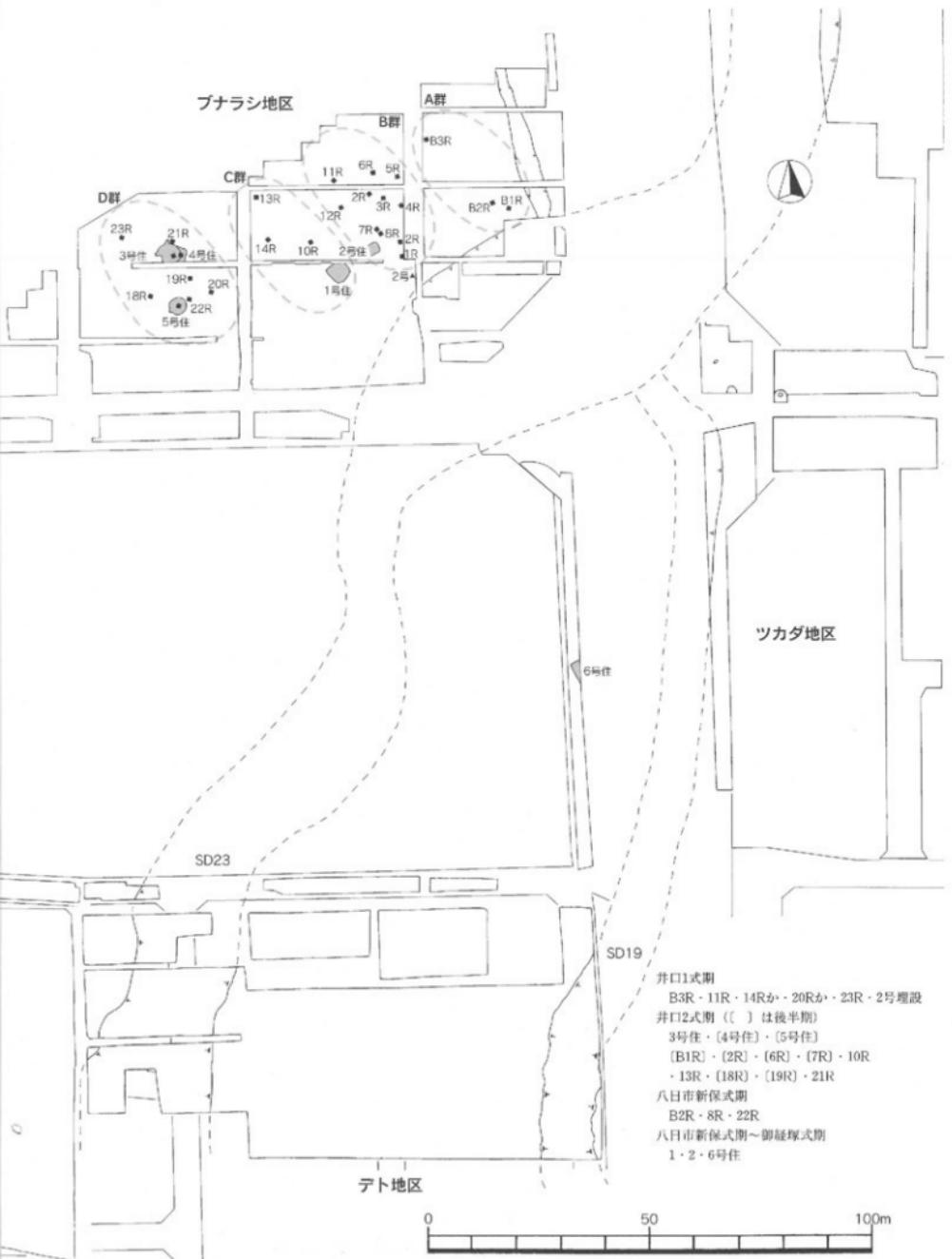
テト地区では建物群の南方域に土坑群や埋設土器の分布あり、ツカダ地区でも17号住の東方に土坑群の分布がある。これらの土坑は土坑墓と推察できるもので、住居域の外側に墓域をもつ集落構造の様相が長竹式期では顕著である。

5) おわりに

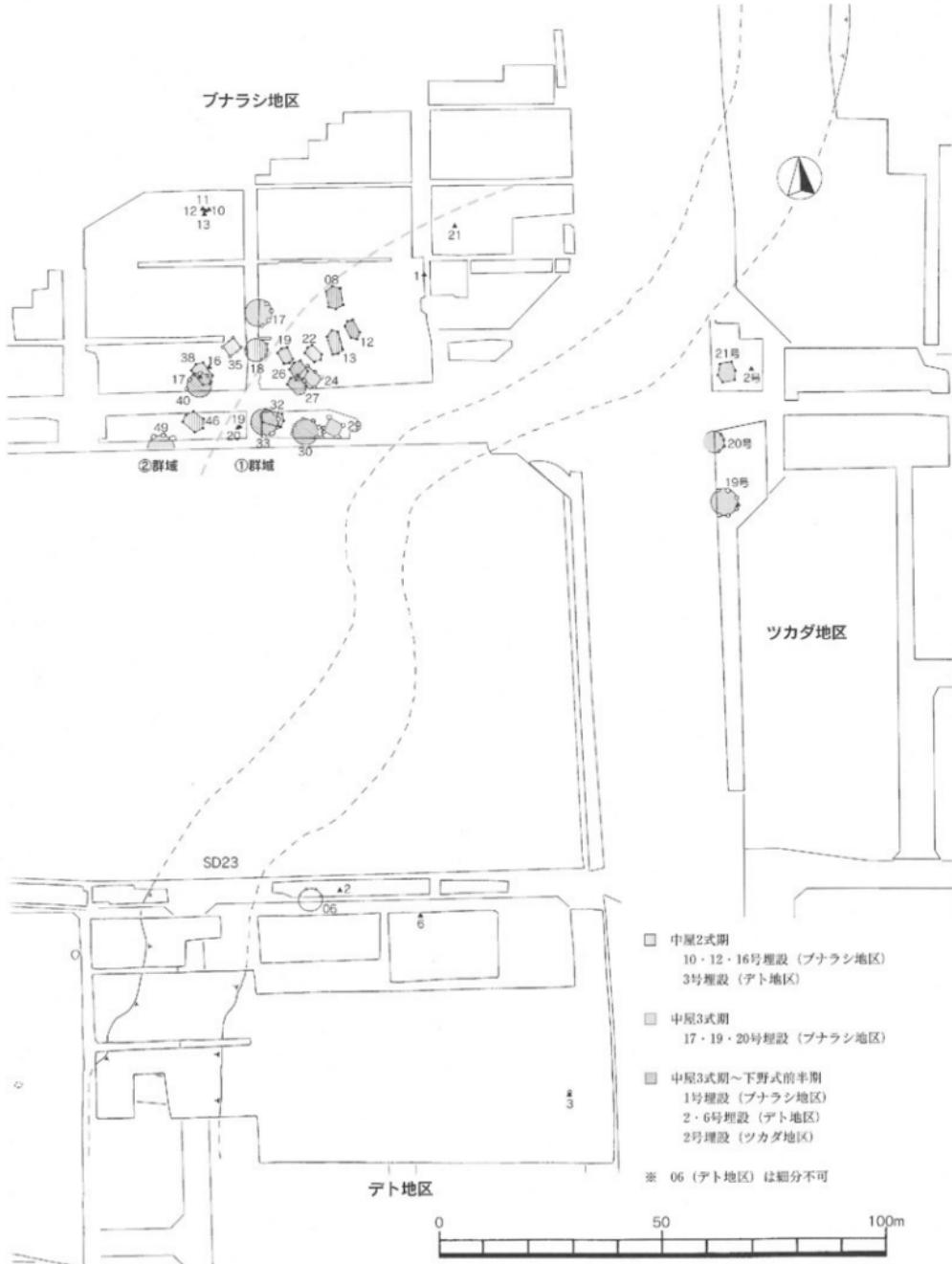
以上、簡略ではあるが建物関係遺構を主に御経塚遺跡における各期の様相を概観してみた。後期段階では、石囲炉と竪穴住居で構成されている。石囲炉は住居の核になるものであるが、この住居形態が竪穴かまたは平地式となるかは不明である。後期末から晩期前葉段階では壁が低く石囲炉のみられない竪穴住居を崩壊させたが、集落様相は不明としか言えない状況である。晩期中葉以降からはブナラシ地区で掘立柱建物の変遷や分布状況をある程度示すことができた。

各時期別での建物の分布は、集落中央部を北東流する河道SD23の流路の影響を受けつつも弧状に展開する傾向がみられ、特に晩期中葉以降ではその強い動向が確認できるものである。この状況は布尾2003を証左するもので「川辺の両岸に営まれた環状（梢円形状）を呈する集落」が御経塚のムラの景観と理解したい。

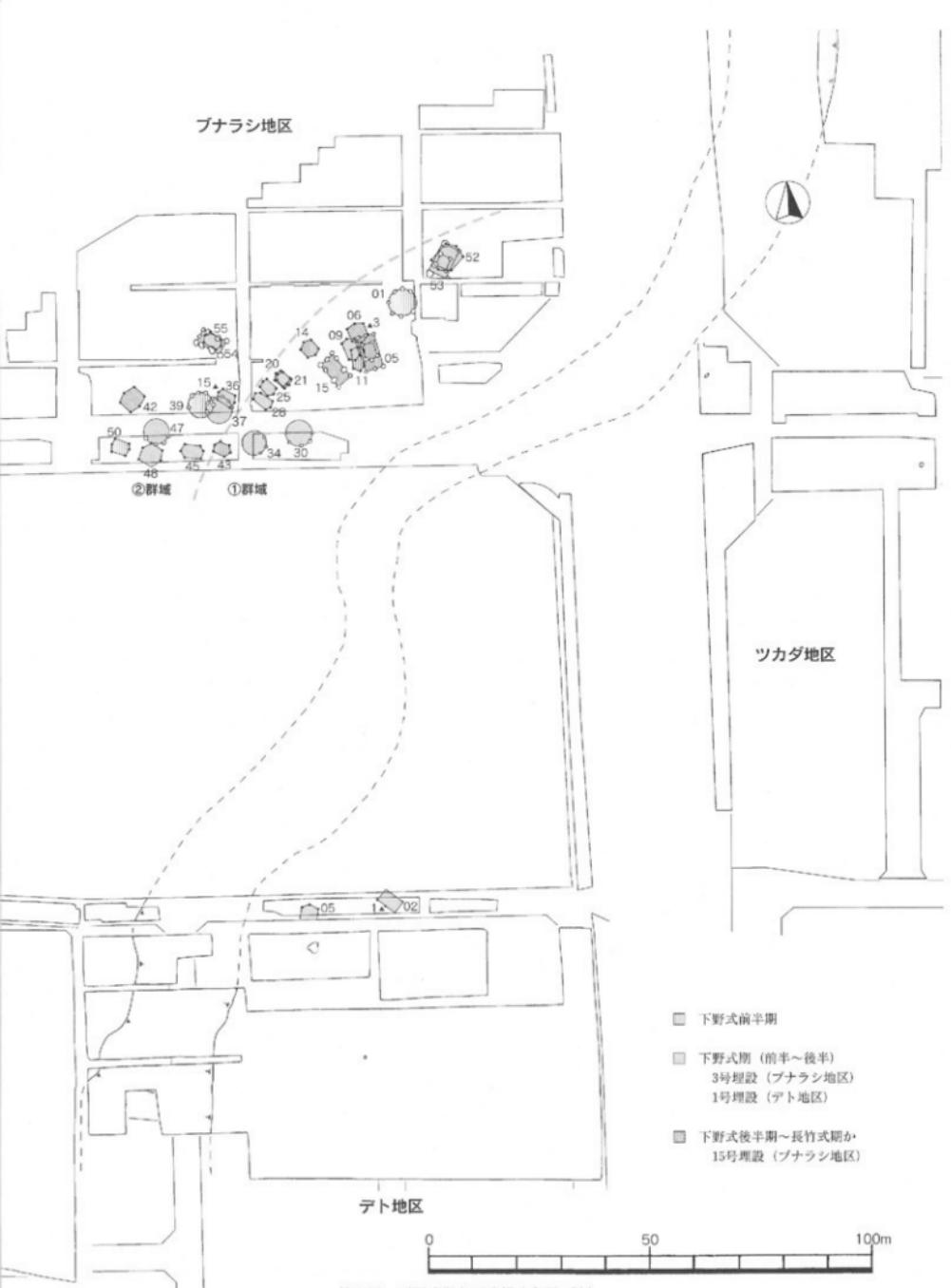
この集落様相の記述に際し、ブナラシ地区北半城について遺構・遺物精査の必要性を痛感した次第である。今後は、さきの作業と建物復元や埋設土器、土坑の検討などを行い、御経塚遺跡の実態に少しでも近くことを課題とするものである。



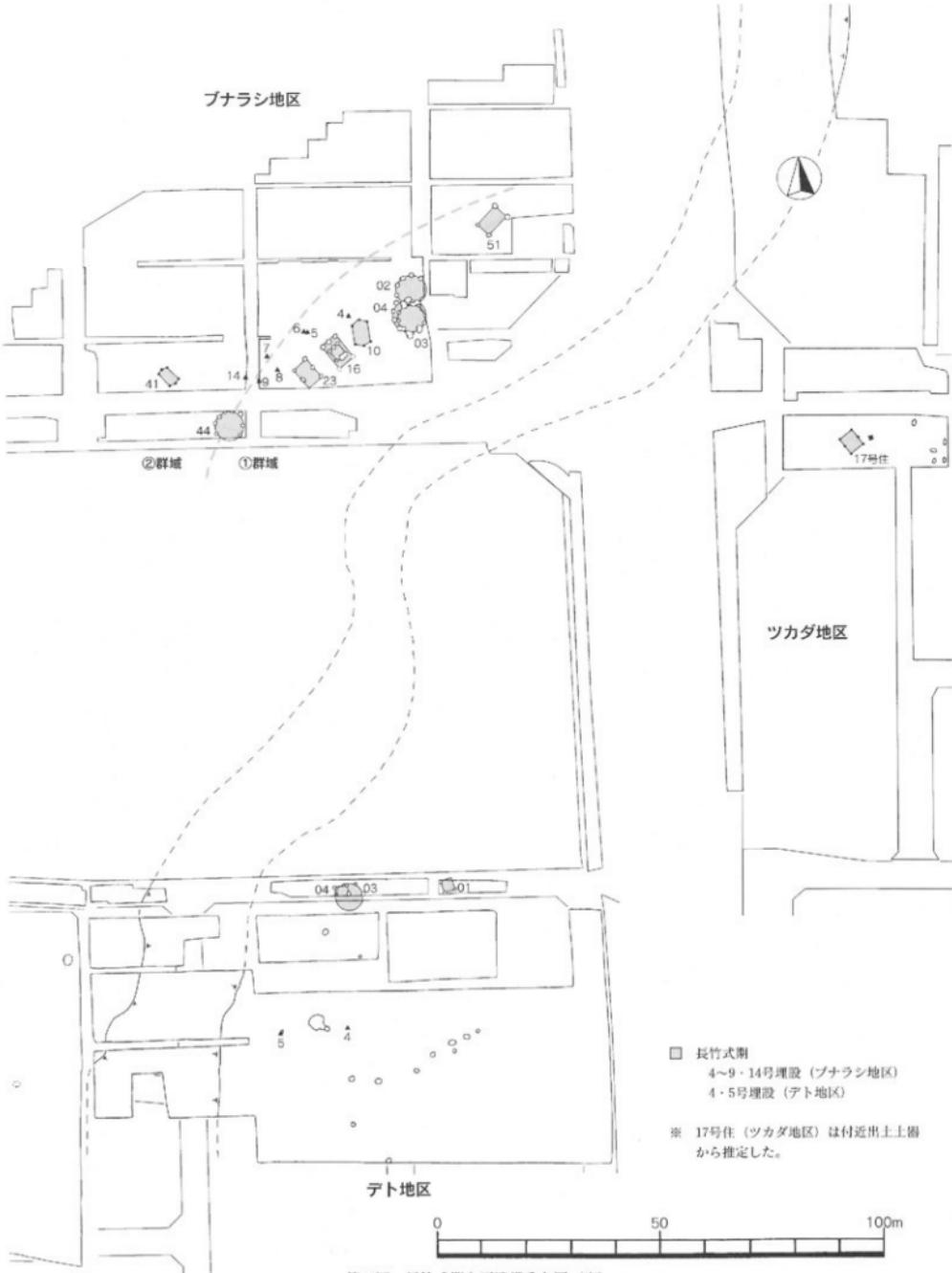
第43図 後期～晩期前葉頃の主要道構分布図



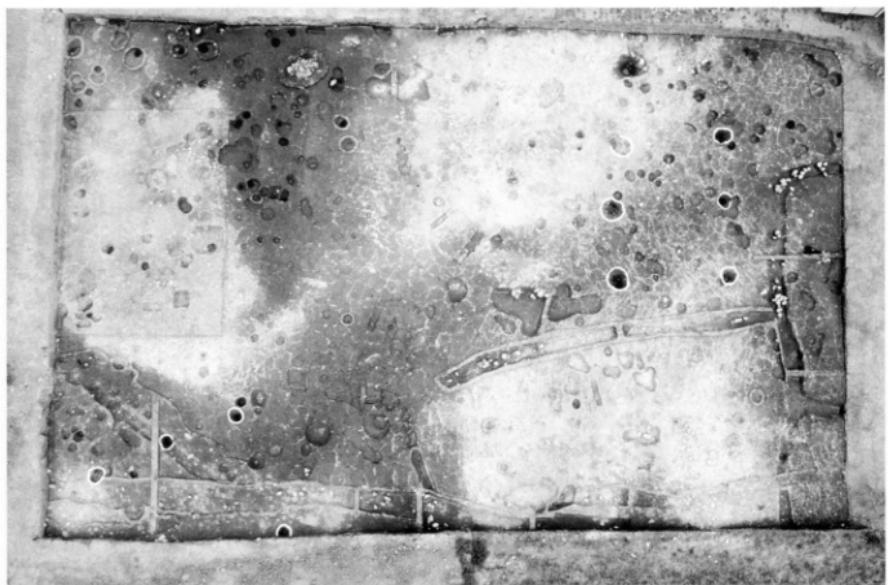
第44図 中層式期主要遺構分布図（案）



第45図 下野式期主要造構分布図 (案)



第46図 長竹式期主要遺構分布図（案）



3区全景 (↑北)



6号埋設上器



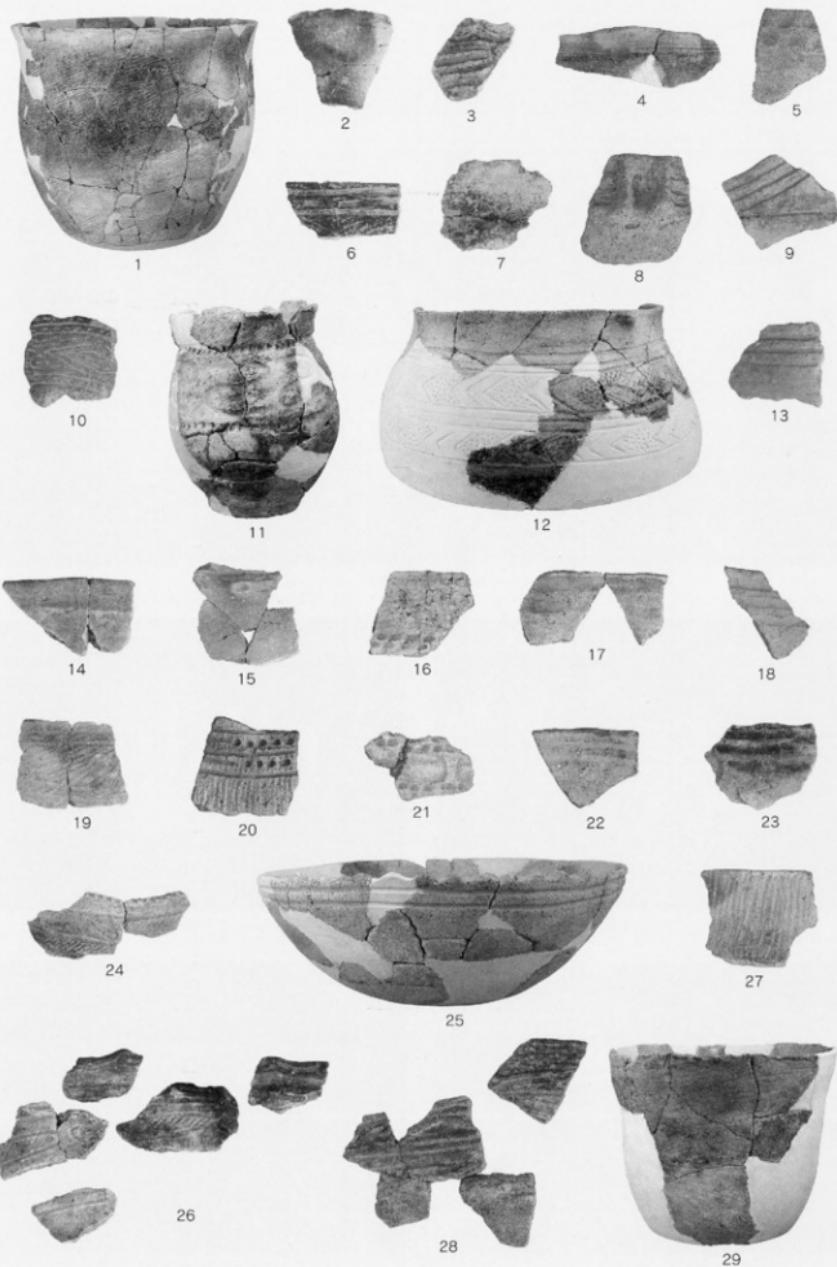
SK07

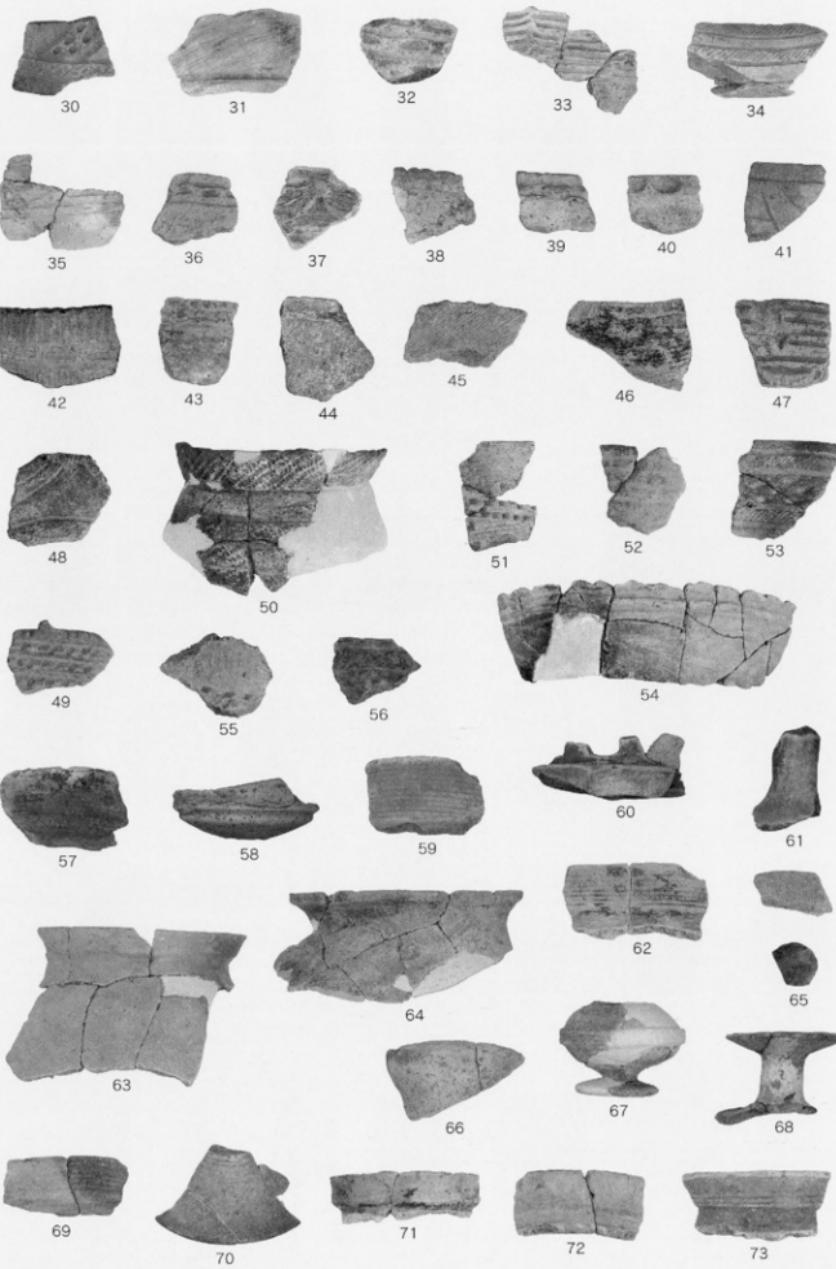


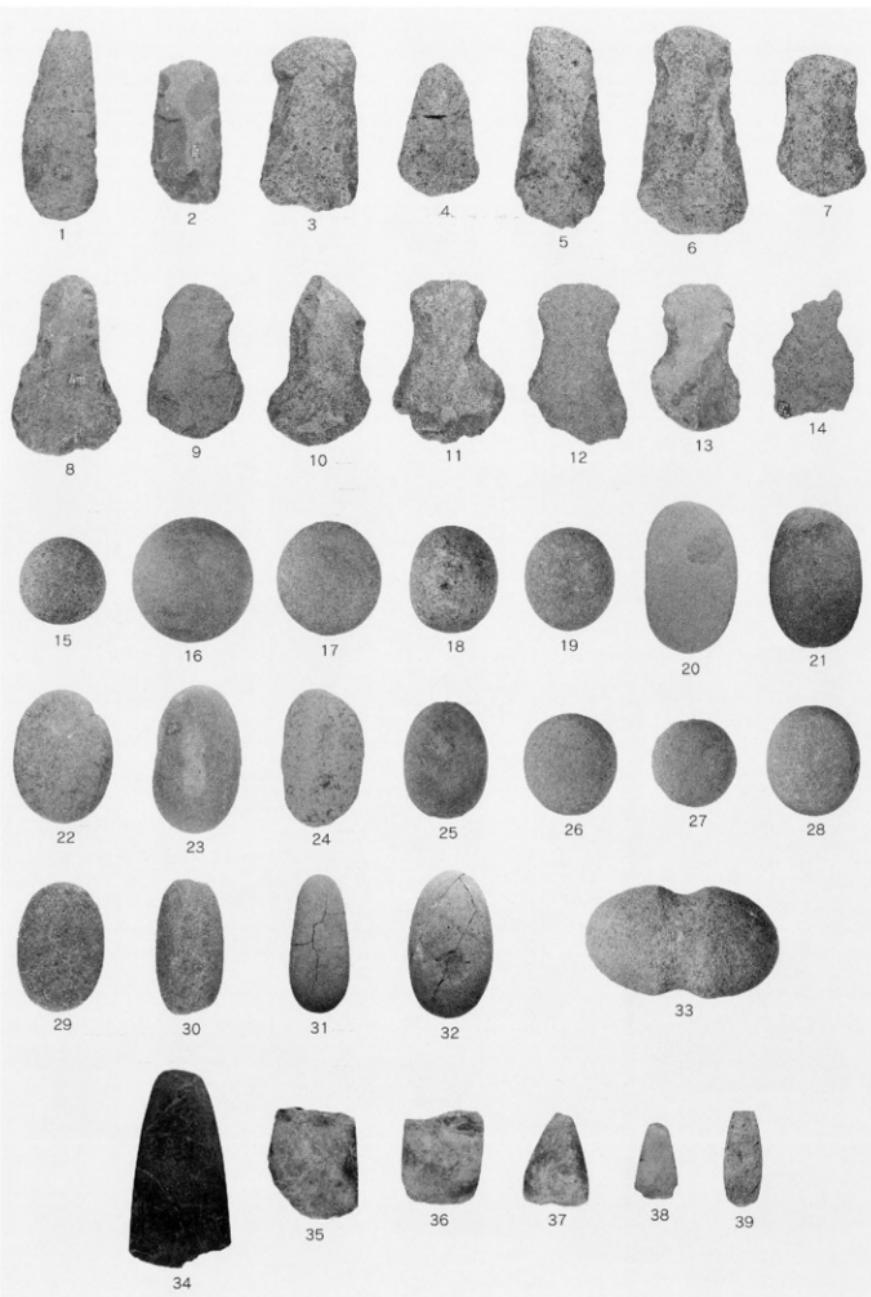
SK01・SD01・SB07 (北より)

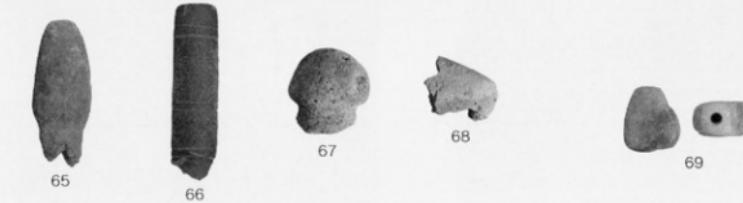
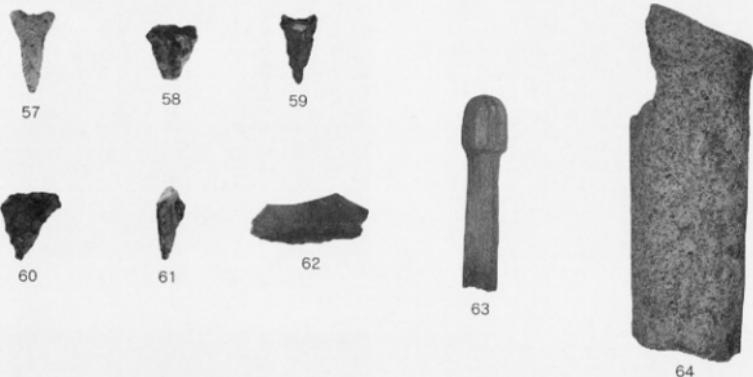
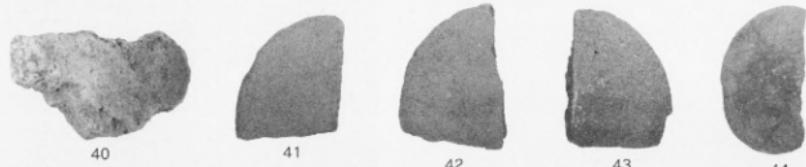


SB08 (北東より)







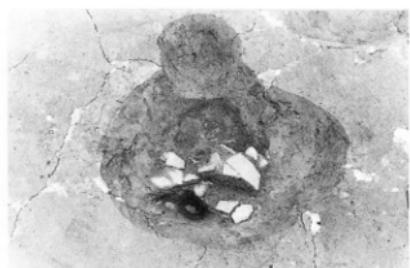




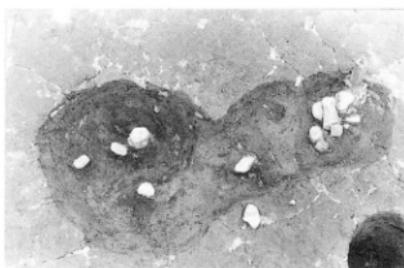
4区調査前風景（南東より）



4区全景（東より）



SK12



SK14



SK15



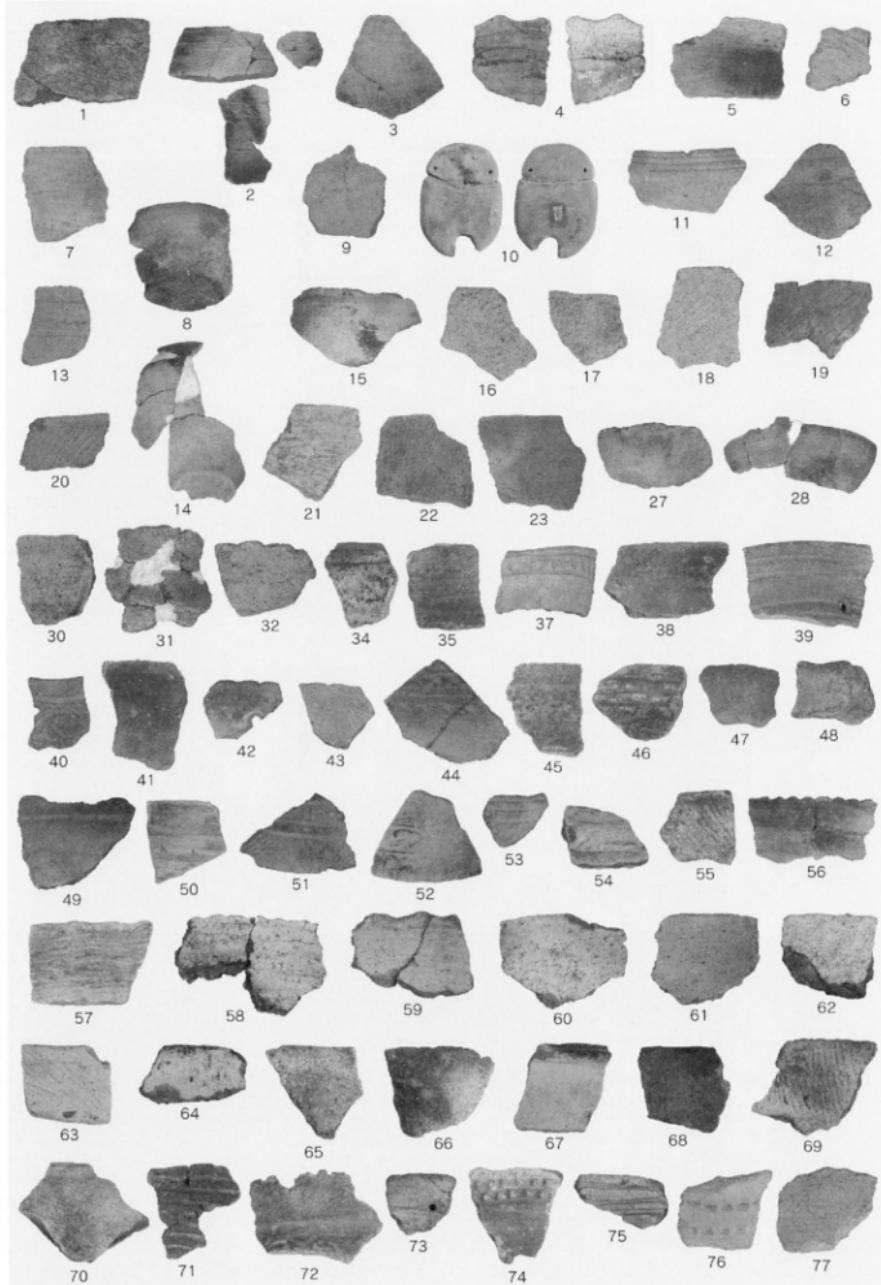
土偶出土状況 (SK15)

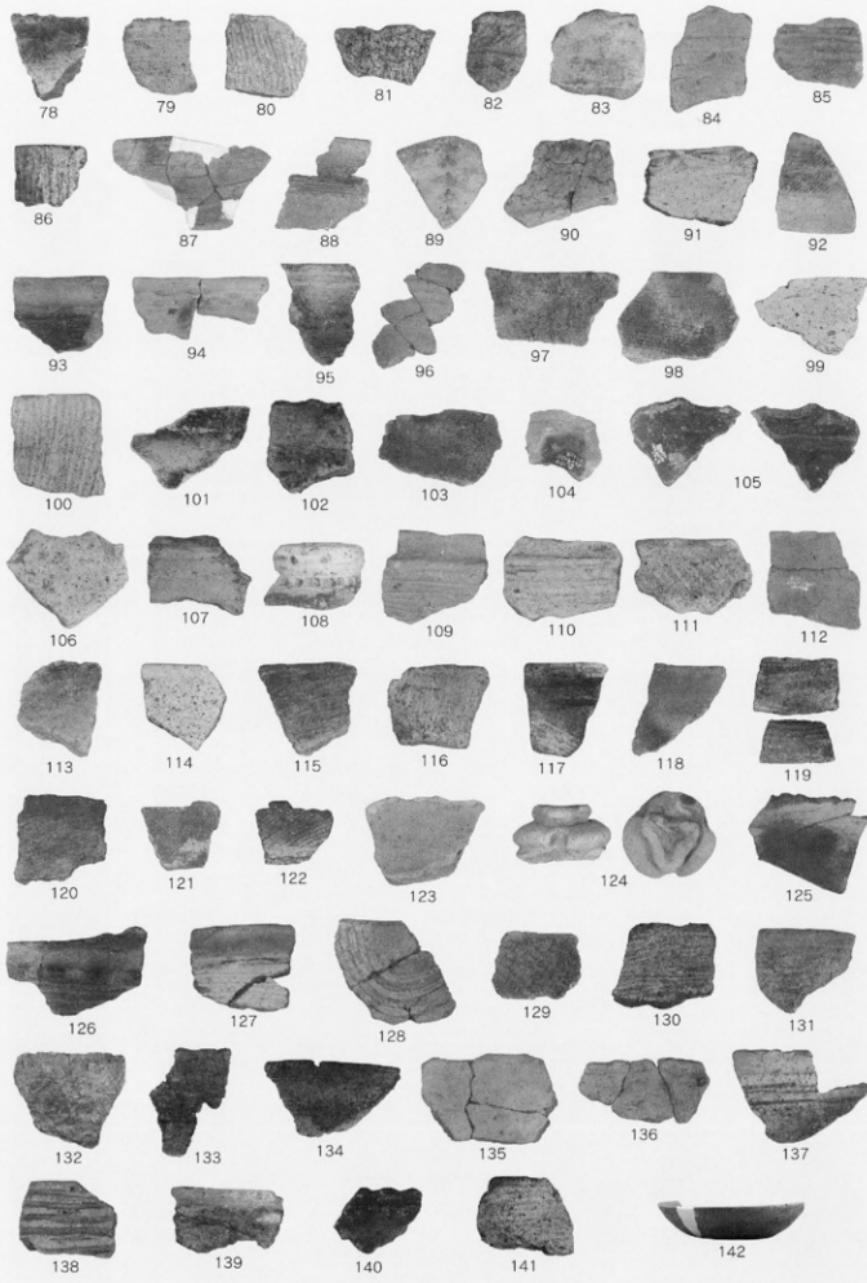


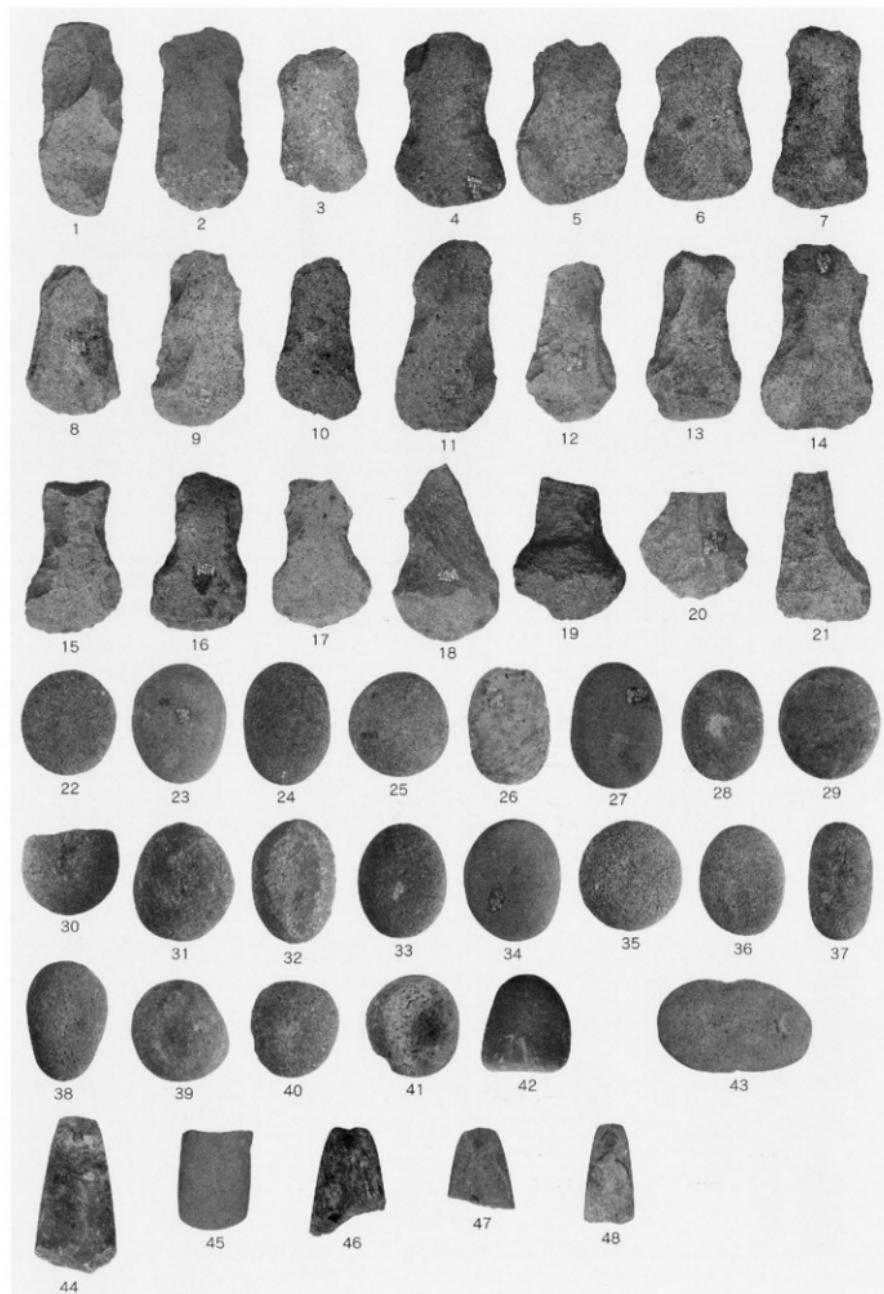
SK19

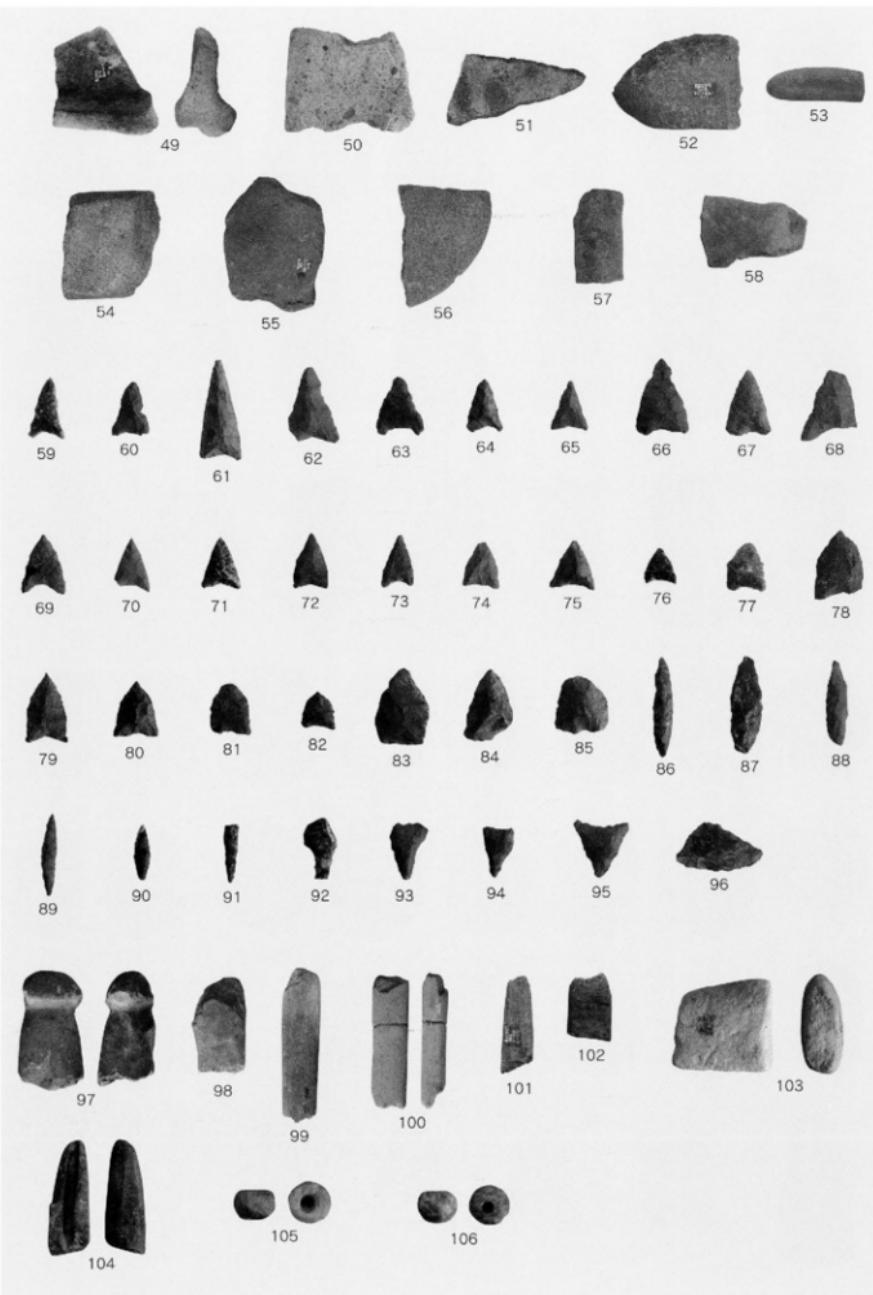


SB09（南東より）

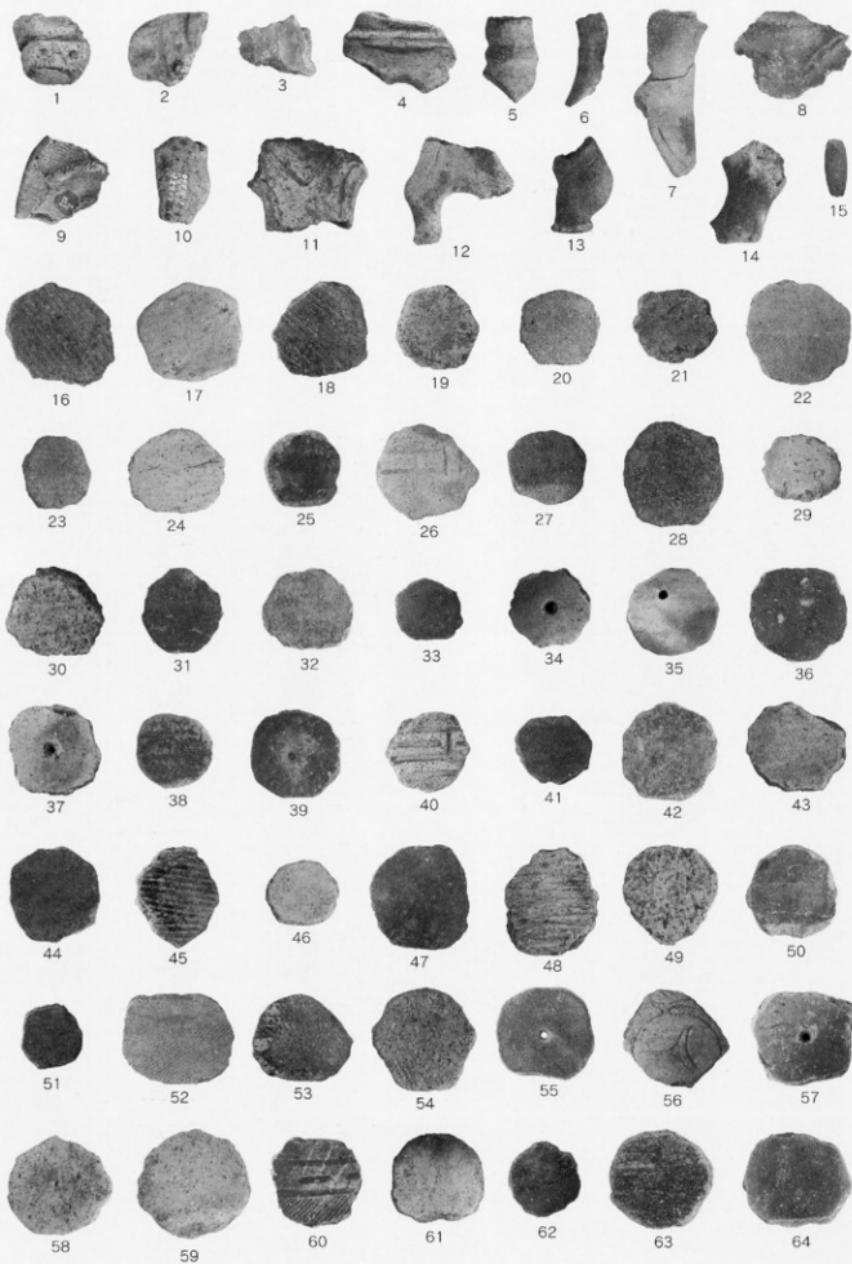


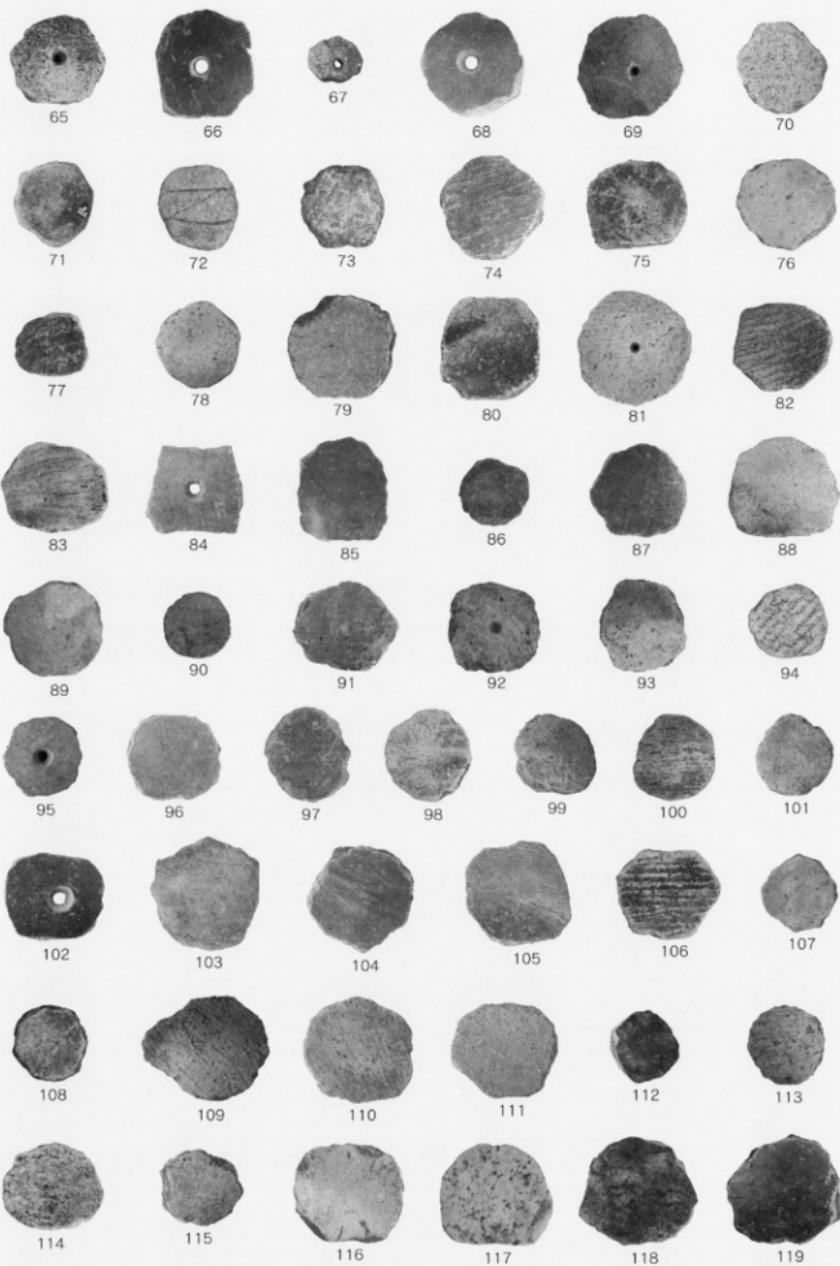


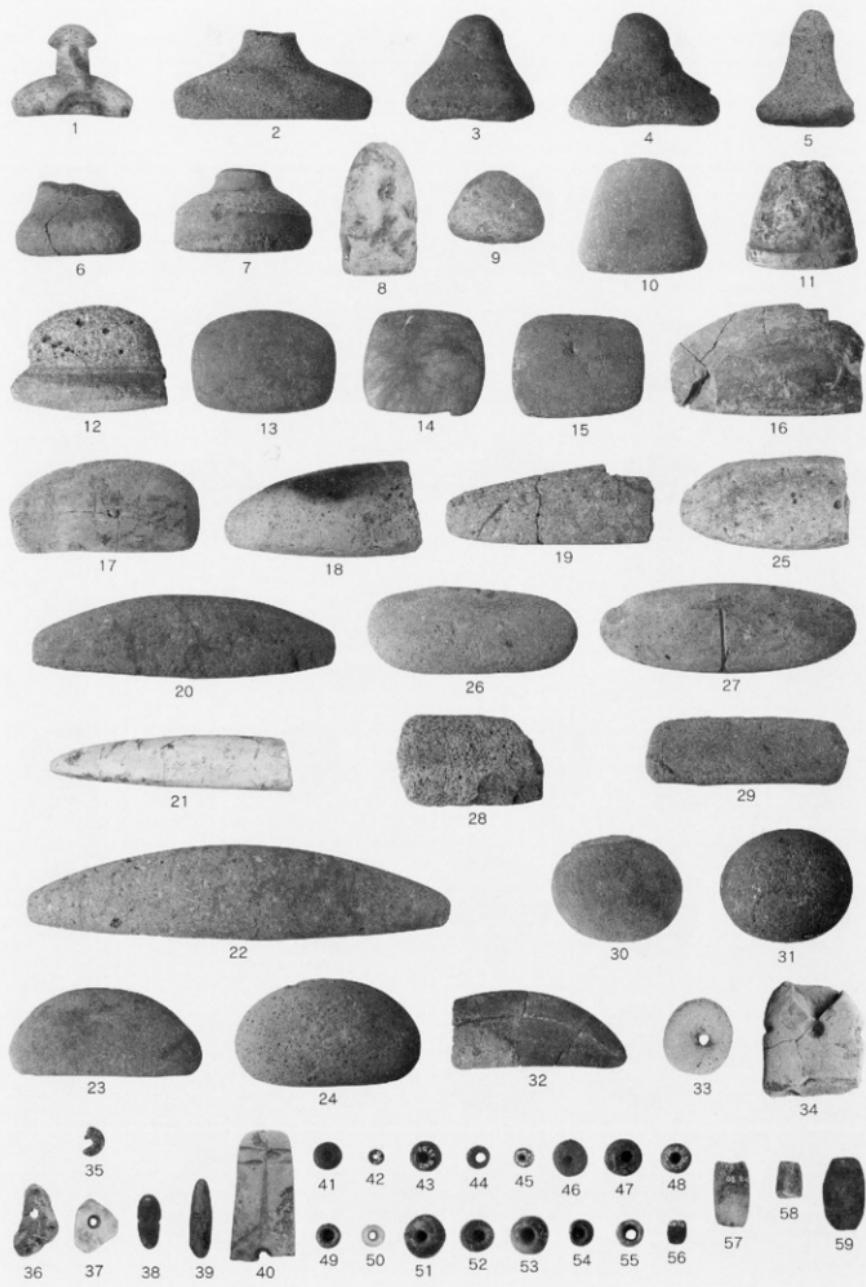












報告書抄録

ふりがな	おきょうづかいせき
書名	御経塚遺跡IV
副書名	兼 補遺編
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	吉田 淳
編集機関	野々市町教育委員会
所在地	〒921-8510 石川県石川郡野々市町字一納18街区1 Tel: 076-227-6122
発行機関	野々市町教育委員会
発行年月日	西暦 2009年10月30日

御経塚遺跡IV 兼 補遺編

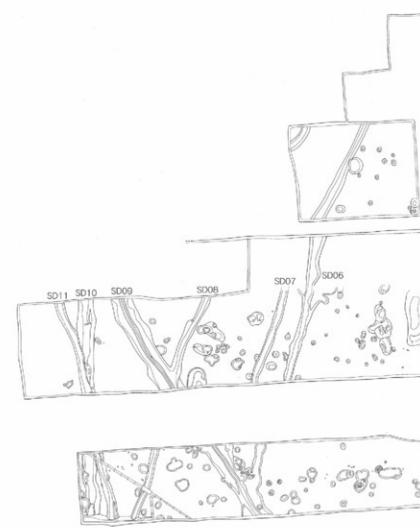
発行日 2009年10月30日

発行者 野々市町教育委員会
〒921-8510 石川県石川郡野々市町三納18街区1
電話 076-227-6122
bunka@town.nonoichi.ishikawa.jp

印 刷 (有)アサヒヤ印刷

御経塚遺跡遺構図 No. 1 (ブナラシ・デト地区)

ブナラシ地区



(史跡指定地)

1 : 300
0 5 10 25 50m



デト地区

凡例
住：竪穴建物 R：石圓墳 SB：掘立柱建物 SD：溝

下記を除く遺構の時代は縄文時代である。
SD01：古代、SD02：中世、SD03～11：時期不明



(国道8号)



御経塚遺跡遺構図 No.2 (テト地区)

(史跡指定地)



1
2
3



凡例
SI : 墓穴建物 SB : 亂立柱建物 SA : 墓界 SD : 溝
及び数字 : 井戸 数字 : 土坑

道標の時代
縄文時代
SB01~05
上境04~07・09~20・21~24・26~39・41~43・45~48・49~53・56~58・61~70・72~73・102~103

弥生時代末期
SB01~10 SB07~08・23
~ 上境01・02・03・08・91・96・97・136・143
古墳時代初頭
SD01・02・26・39・49・62・63・87・97・116・122

古墳時代後期～古代
SB09・10・11・12・16・21・22
SD05・07・10・13・21・22・32・44

中世後期
SB13~15・17~20・24~35・37~47 SA01~07
井戸02~29・31・34~41・56・57
土坑07~90・92~95・98~101・114~120・124・125・127・130~135・137~142
SD14・15~17・29~31・34~43・47・58・67・68~72・102・103・105・107・118~120

近世
SB36 井戸01・30・32・33・44・45・46・48・52・53
土坑04~112・121 SD27・28・48・52・56・75・83・84・86・89~91・94・99・101

近代以降
井戸43・47・49・50・51・54・55 土坑74 SD03・95・108・113
時刻不詳
SD08 (縄文時代後期中期～弥生時代末期)

1 : 300
0 5 10 25 50m

御経塚遺跡遺構図 No.3 (ツカダ地区)

